

# マダガスカルのみ話 II

ヴェズ

マシクル

タンドウレイ

ベツイミサラカ

ツイミヘテイ



## Angano Malagasy Boky II

Vezo sy Masikoro sy Tandroy sy Betsimisaraka ary Tsimihety

nangonina sy nadikan' IIDA Taku sy NISHIMOTO Noa sy RAZAFIARIVONY Michel ary  
FUKAZAWA Hideo

飯田卓 西本希呼 ラザフィアリヴニ・ミシェル 深澤秀夫 編訳

Boky II

ANGANO MALAGASY

Vezo sy Tandroy sy Masikoro sy Betsimisaraka ary Tsimihety

nangonina sy nadikan' IIDA Taku sy NISHIMOTO Noa sy  
RAZAFIARIVONY Michel ary FUKAZAWA Hideo

マダガスカルの民話 II

ヴェズ・タンドウルイ・マシクル・ベツィミサラカ  
・ツィミヘティ

編訳

飯田卓 西本希呼 ラザフィアリヴニ・ミシェル  
深澤秀夫

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

## 第 2 版(電子版)への序

本書を書籍として出版して以来、とりわけこの 2017 年 2 月 24 日に駐マダガスカル・日本大使館において『マダガスカルの民話 I』および『マダガスカルの民話 II』のプレス・リリースを開催した際、多くのマダガスカルの学術関係者やマスコミや関係省庁の方々からこれらの本の増刷や容易な入手の方法についてのお問い合わせをいただいた。それらの要望に応えるため駐マダガスカル・特命全権大使小笠原一郎氏および紙媒体資料の出版を担当した科研費代表者のアジア・アフリカ言語文化研究所の小田淳一氏と協議した結果、ここに第 2 版(電子版)を出版することとした。しおりの追加など電子版としての最低限の必要事項を満たすための作業を行なっていただいたアジア・アフリカ言語文化研究所の高島淳氏にも深くお礼を申し述べたい。

深澤秀夫

## はじめに

深澤秀夫

本書は、国立民族学博物館の飯田卓がマダガスカル南西部地方に居住する漁撈民ヴェズ（Vezo）族の人びとから採録した民話 6 編、京都大学東南アジア研究所の西本希呼が南部に居住する畑作・牛牧民タンドウルイ（Tandroy）族の人びとから採録した民話 1 編、アンタナナリヴ大学（Université d'Antananarivo）教授／考古－芸術博物館（Musée d'Art et d'Archéologie）研究員のラザフィアリヴニ・ミシェル（RAZAFIARIVONY Michel）が南西部に居住する畑作・稲作－牛牧民マシクル（Masikoro）族の人びとから採録した民話と伝承 4 編および東部に居住する焼畑稲作民ベツィミサラカ（Betsimisaraka）族の人びとから採録した民話と伝承 4 編、深澤秀夫が北西部地方に居住する稲作－牛牧民ツイミヘティ（Tsimihety）の人びとから採録した民話 4 編、合計 19 編を、マダガスカル語原文テキスト（声門閉鎖音[ʔ]はアポストロフ(?)で表記した）と日本語の対訳形式で記載したものである。また本書は、2014 年度に刊行された『マダガスカルの民話 I マシクル・ベツィミサラカ・ツイミヘティ』（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 ISBN 978-4-8637-188-0）の続編にあたる。本書の刊行に際しては、JSPS 科学研究費 23251010 の助成を受けた。

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の小田淳一氏を研究代表者とする科学研究費基盤（A）海外学術調査『インド洋西域島嶼世界における民話・伝承の比較研究』（2011 年度～

2015年度)に基づくマダガスカル現地における「民話」をめぐる調査ならびに採録、さらには出版経費の支出なしに、本書の刊行はありえなかった。また、書籍としてテキストを入力・成型する作業についても昨年度に引き続き今年度も小田氏の多大なご尽力を賜った。記して、あらためて謝意を表したい。また、本書カバーのデザインは、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所特任研究員で広報担当の中村恭子氏（日本画家）の手になるものである。昨年度と同様、マダガスカルの風景をよく活かした装丁のお仕事に対しても深く御礼申し上げたい。

## ヴェズ族のタパシーリについて

解説：飯田卓

本シリーズの第1巻で解説されたように、「民話」や「昔話」にあたる標準マダガスカル語としては、アンガヌ、アリラ、タンターラ、タファシーリなどの語があてられる。マダガスカル南西部に住むヴェズやマシクルの人たちがよく使うのは、「タファシーリ」が転訛したと思われる「タパシーリ (tapasiry)」という語である。ヴェズの人びとから採話した6つの話は、いずれもこのタパシーリである。

タンターラ (tantara) という語もよく登場する。これは、実話であることがはっきりしている話や、身近な生活指針を示すための逸話にかぎられる。たとえば学校で教わる国の歴史や、身近な人に最近起こった話、村の成りたちについての話、「なぜわれわれの一族はウミガメの肉を食べてはいけないのか」についての説明などが、全面的に実話であるかどうかはともかくとして、タンターラと呼ばれる。

これに対してタパシーリは、しばしば現実とかけ離れた想定にもとづいていたり (たとえば、ブタが棟梁になって帆船を作るなど)、現実にはありえない展開をしたりする (たとえば、権力者が頭骸骨に喋らせようとするなど)。現実のことと思えるような場合もあるが、話し手も聞き手も、自分のこととは無関係な話としてそれを楽しむことがほとんどである。どちらかといえば滑稽譚のようなものが増えるのも、そうした理由による

のだろう。

さらに、多くのタパシーリでは最後に、人を笑わせようとする結びの文句が添えられることが多い。「嘘をついたのはわたしでなく昔の年長者 (Tsy zaho ro mavandy fa olobe taloha)」というのがその典型である。この言葉はすでに、話全体が作り話であることを暗に匂わせている。さらに興味深いのは、それに続く言葉である。「サクア (ウルシ科の果樹 *Spondias cytherea*) をわたしが蹴とばしたら溢れだした (Tinimpako ty sakoa la nigoangoa)」「雑草を蹴とばしたら 10 アリアリ貨幣が見つかった (Tinimpako bolobolo nahitako drala folo)」など。なんのことも日本語ではわかりにくい、マダガスカル原語では「sakoa」「goangoa」あるいは「bolobolo」「folo」と脚韻を踏んでいることに注意していただきたい。さらに言えば、「sakoa」「goangoa」は、「嘘をついたのは……」の末尾の「taloha」に導かれている。あまり意味をもたないいっけんバカバカしいことがらが念入りに構成されていることは、この結びだけでなく、タパシーリ全体にあてはまる。

さらに筆者が驚いたのは、別の採話のときに聞いた「アンパシラヴァにいなかったらタパシーリをしなかった (Tsy nataoko tapasiry laha tsy Ampasilava)」という終わりかたである。アンパシラヴァというのは採話地の実名である。いっけん即興にみえるこの表現は、「嘘をついたのはわたしでなく昔の年長者」というマダガスカル語表現と、みごとに脚韻を踏んでいる(「mavandy」と「tapasiry」、「taloha」と「Ampasilava」)。即興もまじえながら、実話とは別のかたちで周りの人びとを楽しませようという、タパシーリの本領をうかがうことができよう。

なお、タパシーリを特徴づけるこれらの言葉は、本文の対訳

では文意にとらわれず、リズムや韻を重視して訳したのでご了承承りたい。

最後になったが、タパシーリと関係する口承文芸のジャンルとして「タパトウヌ (tapatono)」と「ポエジー (poezy)」がある。タパトウヌというのは「ことば遊び」に近い口承文芸で、脚韻を踏んだ短い文章をふたつ並べたものである。上に紹介した「嘘をついたのはわたしでなく昔の年長者。サクアをわたしが蹴とぼしたら溢れだした。」というのも、タパトウヌの例としてよく言及される。もうひとつ例をあげれば、「内緒話が丸聞こえだよ (Kotsapokotsapoke tsambaratoto)。鍋を開けたら冷やご飯があるよ (Sokafy ty valañe fa ao ty makoko)。」などというものもある。まったくつながりのない二つの文だが、脚韻を踏んでいる(「kotsapokotsapoke」と「valañe」、「tsambaratoto」と「makoko」)のがおもしろい。このほかに、われわれが「なぞなぞ」と呼ぶ遊びも、タパトウヌと呼ばれることがある。

ポエジーは、フランス語の *poésie* (詩) から借用した表現だと思われる。これは、実話かどうかわからない話であるという点でタパシーリと同じだが、話が展開していくたびにあらたな形の脚韻を踏んでいく。このためかなりの記憶力を要し、ふつうの人には詠ずることができない。筆者がポエジーの実演に居合わせたのは、それを得意とする人が遠方から来たときだけで、その人の素性もよくはわからない。登場人物のひとりにキリストがいたと記憶しているが、説教めいた話ではなく、大笑いするような話だった。現在では、ラジオ番組のなかでこうしたポエジーが聞かれることも少なくない。





**Fanoroan-takila**

目次

### **Tapasiry Vezo**

1. KELIMAHIHITSE 2
2. LOLOELA NOHO LOLOVAO 36
3. TABALAKE NOHO ALIKA 50
4. TABALAKE NOHO VOALAVO 58
5. BERE NOHO MARTO 66
6. BIBY BE MANDRONGAY 70

### **Angano Tandroy**

1. REKILOVE 80

### **Angano sy Tantara Masikoro**

1. NY FANAOVANA NY SAVATSY 96
2. LAHIEBO 102
3. OLO 106
4. TSITANANTSO 110

## ヴェズ族の民話

1. とんち坊や 3
2. ケダモノとヒトモノ 37
3. ネコとイヌ 51
4. ネコとネズミ 59
5. 鑿（のみ）と槌（つち） 67
6. 食人鬼 71

## タンドウルイ族の民話

1. レキルヴェ 81

## マシクル族の民話と物語

1. 割礼のやり方 97
2. ラヒエブ 103
3. 人 107
4. ツィタナンツ 111

### **Angano sy Tantara Betsimisaraka**

1. BETSIMISARAKA 114
2. TSODRANO FANAOVAM-BELOMA 120
3. RABEFANIA 124
4. IZY TELO MIRAHAVAVY 130

### **Angano Tsimihety**

1. BIBIDAOARA 140
2. ZAZAVAVINDRANO 152
3. VADY VAO SY AMALONA 158
4. RAKAKABE SY VOAY 162

## ベツィミサラカ族の民話と物語

1. ベツィミサラカ 115
2. 別れの際の祝福 121
3. ラベファニア 125
4. 三人姉妹 131

## ツイミヘティ族の民話

1. ビビダウアラ 141
2. 水女 153
3. 新妻とウナギ 159
4. ラカカベとワニ 163



## マダガスカルの話 II

ヴェズ・タンドウルイ・マシクル・ベツィミサラカ  
・ ツィミヘティ



**Tapasiry Vezo**  
nangoin'IIDA Taku tao amin'ny faritr'i Toliara

**1. KELIMAHIHITSE**

Ny tapasiry moa sahala ami'e tantara koa. Zava-misy lafa taloha zay. Eh... Toy tapasiry, titre'e raha toy, Kelimahihitse Tsokotsokotelo. Zay ro atao hoe Kelimahihitse ho azy io.

Ka ana'e baba io, ana'e neny io, raike avao, johary Kelimahihitse io. Ka misy ampanjaka moa taloha. Ka ampanjaka io, anak'ampela'e raike. Ka neni'e Kelimahihitse hinary ana'e tike. Lafa nibe iiny, nanambaly. Nanambaly ami'e tanàn-drozy io avao. Niharo plasy, niharo toera, eh, Kelimahihitse noho rozy ami'e ampanjaka io. Tanà raike rozy. Tsy mifankarinike tsanon-drozy fe tanà raike avao. Tanà'e koa tsy be noho tsy kely.

Ka lafa nibe Kelimahihitse, nanambaly an-tanà eo. Ka lafa nanambaly ie, niharo ketsike ami'e neni'e Kelimahihitse. Ka lafa mahampy tao raike nipetsake amindrozy, nivola baba'e Kelimahihitse noho neni'e:

«Â nareo miavaha lakoziny, fa nareo koa mana vahiny, longo'e vali'ao ho avy hisafò anareo. Zay mba ho hafa lakozini'areo», ho ie baba'e Kelimahihitse noho neni'e. «Eka». Niavake

ヴェズ族の民話  
飯田卓 採録・翻訳  
トゥリアーラ地方において採話

1. とんち坊や

タパシリというのは、歴史物語のようなものです。昔にあったことということですね。えー、このタパシリは、そのタイトルを「三つ前髪（ツクツクテル）のとんち坊や（ケリマヒヒツェ）」といいます。彼のことをとんち坊やと呼ぶことにしましょう。

彼のお父さんとお母さんには、男の子が一人だけありました。それがとんち坊やです。その昔には王様がいました。王様には、娘が一人ありました。とんち坊やのお母さんは、息子のとんち坊やを育て、とんち坊やはやがて結婚しました。相手は、同じ町に住む娘でした。王様たちも同じ場所に住んでいました。同じ町ということです。とんち坊やたちの家と王様のお城は離れていましたが、同じ町にありました。大きくも小さくもない町でした。

とんち坊やが大きくなると、その町で結婚しました。結婚してから、とんち坊やは、お母さんたちと一緒に食事をしていました。一年ほどが経ってから、お父さんとお母さんはとんち坊やに言いました。「おまえたちは別に食事をするようにしなさい。おまえたちにもお客さんが来るだろうから。お嫁さんの家族だ

lakoziny ami'e zay rozy. Lafa baka niavake lokoziny moa teña, tsy misy katà fà taloha tsy mahay miketsike fatampera. Fa ie niketsike ami'e katà, nila katà añ-ala ainy. Katà io hazo maty, hazo maike. Io ro iketsehan-drozy.

Voaloha'e nandea nila katà. Eh. Lany koa katà. Namalike ami'e zao, nandeha ami'e zao nila katà tañ-ala ainy. Safè baka mariniriny tanà eo fà tsy misy fà lany, ka nandeha añatiaty ala ainy lasa. Lasa Kelimahihitse. Lasa Kelimahihitse. Ie raike avao. Vali'e tavela an-tsano. Ka ie añaty ala ainy.

Antea'e Kelimahihitse ka... misy raha foty boriborike zao. «Toy ino?» Vinonji'e Kelimahihitse nañeiny. «Â, lohañ-olo ô». Eh. Â, soirisoiry lohañ-olo soirisoiry zao ami'e famaky nandesi'e iiny. «Â, ka lohañ-olo, nañino lehe? Ino nahafaty olo toy io? Loha toy avao ro eto? Ka ty vatebe'e aia?», ho ie Kelimahihitse raike nivola raike, nivola ami'e lohañ-olo, haran-dohañ-olo. Nivola ami'zao io. «Ka lehe, nañino, lohañ-olo?» Tsy nivola lohañ-olo. Reñy tahola ka tsy nivola. Ka amin'zao ie nivola indraike Kelimahihitse. «Le lohañ-olo, nañino nahafaty anao?» Tsy nivola lohañ-olo. «Ka ity raha manao akory, raha manavy an'atoitoy io? Zaho lehe ta-hahay ty raha nahavy an'atoitoy fà raha toy tsy mivola. Eh lehe lohañ-olo, nañino nahafaty anao?» Namaly amin'zao lohañ-olo eo ê. «Vola mahafaty, ho ie, tsy ambarà valy». «Â, nañino? Nañino, lohañ-olo, safà'ao zao?» Labỳ indraike. «Lehe, ino, lohañ-olo, nahafaty anao toy io?» «Vola mahafaty tsy ambarà valy». «Â, toy lehe raha mahatserike toy». Eh. Nimpoly

って、お嫁さんを訪ねてくるだろう。だからあなたたちの台所はわたしたちのとは別にしなさい。」とんち坊やのお父さんとお母さんはそう言いました。「はい。」そこで台所を分けました。台所を分けると薪がありません。昔の人たちは木炭ストーブの使いかたなど知りませんから、薪で煮炊きをするために、薪を探しに森に入っていました。薪というのは、枯れて乾いた木のことです。それで煮炊きをするわけです。最初に薪を拾いに行って、薪がなくなると、同じことをくり返して森に薪を拾いに行きます。最初は町の近くで拾っても、だんだん少なくなって、森のずっと奥のほうまで行くようになりました。とんち坊やは行きました。とんち坊やは行きました。たった一人で。お嫁さんは家に残りました。彼だけ森のほうへ行きました。

彼はそこで、白くて丸いものを見つけました。「何だろう？」とんち坊やは近づきました。「ありゃ、されこうべだ。」携えていた斧で、ちょっと転がしてみました。「されこうべさん、どうしたの？ どうして死んでしまったの？ 頭だけここに残って、体のほうはどうしてしまったの？」とんち坊やは一人で独り言を言いました。されこうべを相手にして。続けて言いました。「されこうべさん、どうしたの？」されこうべは答えません。骨だけなので答えないのです。とんち坊やはもう一度、続けて言いました。「されこうべさん、どうして死んでしまったの？」されこうべは答えません。「どうしたことだろう、どうしてこんなことになったのだろう。どうしてこんなことになったのか知りたいけれど、こいつは答えないな。あの、されこうべさん、どうして死んでしまったの？」するとされこうべが答えました。「死に到らしむる言葉、連れあいにも漏らすなかれ。」「なんだって、されこうべさん、どういうこと？」また黙ってしまいました。「さ

Kelimahihitse noly bak'añy.

Ka nañirake ato ampanjaka an-tanà ka: «Nareo hitaly ty vali'e Kelimahihitse io añy. Â añontaneo'areo añara'e tsokotsoko'e vali'e reñy, tsokotsoko Kelimahihitse reñy, tsokotsoko telo. Ka añontano'areo ty vali'e vasa hai'e».

Avy ampela bak'añy, namonjy. «Hody ê!» «Â mandroso ê». «Â, iha ato le manao akory?» «Â zaho miasaasa». «Eh ? Zaho lie, kemba, talio». «Â, taliko?» «Eh. Vali'ao moa aia?» «Â, valiko mila katà añ-ala añy». «Eh ? Zaho le talio». «Â zaho miasa, eh zao ka; lafa avy valiko zay mosarè. Maro ty asa, hanasa lovia, hanasa valañy, hanoko ketsike, reto». «Â lafa zao, ho ie, ka ombàko zao hanasa lovia ka mitimpona vary noho laoka zao. Zaho hanasa lovia reto. Ka zaho talio». «Eka» ho ie. Samborian-drozy asa iñy zay, vita.

La niketsike, lafa niketsike rozy, fa parè eñy... Lafa vinoake ty hani'e, lafa nimasake ty hani'e, ho tsatsi'e Kelimahihitse. «Talio ami'zao, talio ami'zao. Ka nao lehe», ho ie ampela raïke ampanjaka'e bak'añy, «ia lehe añara'e tsokotsoko vali'ao teo reñy?» «Â raha reñy, lehe, tsy haïko». «Â, ka vali'ao tsy ho hai'ao ty añara'e tsokotsoko reñy? Kelimahihitse zao Tsokotsokotelo. Ka ia sy ia ty añara'e raha reñy?» «Tsy raha haïko, lehe, tsy ambarà'e ahy. Fa añontaneako fa tsy ambarà ahy». «Eh. Ka atao akory». Vita ty talin-drozy.

Nandeha ampela iñy naña-ampanjaka añy. «Â, ampanjaka ê, tsy raha hai'e ty vali'e ty añara'e tsokotsoko reñy». «Tsy hai'e?» «Eh». «Â, ty vali'e zao tsy ho hay?» «Â, tsy hai'e».

れこうべさん、どうして死んでしまったの?」「死に到らしむる言葉、連れあいにも漏らすなかれ。」「こいつは驚いた。」とんち坊やは帰っていきました。

町では王様が命じていました。「とんち坊やのお嫁さんのところへ行行って、髪を結ってこい。そのときに、とんち坊やの前髪について尋ねるのだ。三つの前髪（ツクツクテル）という名の意味を。お嫁さんなら知っているだろう。」

（王様に命じられた）女が来て、家に近づきました。「ごめんください。」「お入りなさい。どうしたの？ 仕事がたて込んでいるの。」「奥さん、わたしの髪を結って。」「わたしが結うの?」「そうよ。だんなさんはどこ?」「森に薪を探しに行ってるわよ。」「そう？ じゃ、結ってよ。」「でも仕事してるから… 主人が腹をすかせて帰ってきたら… 仕事もたくさんあるのよ、皿を洗って、鍋を洗って、鍋を火にかけて。」「だったら皿洗いを手伝ってあげるわ。お米とおかずの準備をなさい。皿はわたしが洗うわ。それから髪を結ってね。」「わかったわ。」「助けあって、仕事を終わりました。

煮炊きをして、準備ができました。料理ができて、とんち坊やも食べられるようになりました。「それじゃ結ってよ。それじゃ結ってよ。ところで、」王様に送られてきた女が言いました、「だんなさんの前髪ってどういう意味なの?」「知らないわよ、そんなこと。」「だんなの前髪のことを知らないっていうの? とんち坊やは『三つの前髪』って名まえもあるわよね。いったいどういう意味だろう?」「知らないの。わたしにも教えてくれたことないもの。尋ねたけど教えてくれないの。」「あらそう。しょうがないわね。」髪結いが終わりました。

«Ka Kelimahihitse zao mbo tsy manambara iaby, ty raha tsy ambarà ami'e vali'e? Eka, tsy maintsy ataoko ty hahaizako an-dreñy, ampahaheno hoe Kelimahihitse zao. Eka». Añy ampela iñy ampanjaka añy baka nitaly, nitali'e vali'e Kelimahihitse.

Â, Kelimahihitse baka nila katà. Nipetsake. Nivola vali'e Kelimahihitse. «Ka nao, lehe Kelimahihitse, ka aia ty katà nandesi'ao, valy?» Tsy mivola Kelimahihitse fa tserike ie, nieritseritse ami'e lohañ-olo añ-ala añy. «Â, eo amin' zao tserike», ho ie. Vali'e tserike azy. Añontanea indraike. «Nao lehe, Kelimahihitse, mañino iha tsy mivola? Aia ty katà nandesi'ao?» «Ameo rano bak'eo aho», ho ie. Namea rano. Ninon-drano. Baka ninon-drano, ie nañontany indraike. «Ka iha nañino tsy mivola bak'añy?» «Ameo hany aho fa mosarè». Nihinan-kany Kelimahihitse. Namean-kany, nihina. Vintsy amin'zao niaiy añ-aloke eo. «Ka iha lehe Kelimahihitse, nañino tsy misy ty mivola, ino ty raha nahazoanao, nahita biby sa manao akory, iha bak'añy? Tsy nivola fa ami'zao avao, iha bak'añy nila katà, iha tsy manday katà. Io mahatserike ahy iha tsy manday katà eo».

«Â, zaho tserike, tserike marè aho etoa. Misy tahola lohañ-olo, ho ie, añ-ala añy, ka laha nañontaneako, ho ie, voaloha'e, tsy nivola. Nañontany azy indroa aho, fa intelony voho nivola. Ka, ho ie, ty resako tami'e tahola io. Iha lohañ-olo nañino? Tsy mivola rehe. Namalike indraike. Iha lahañ-olo nañino? Tsy nivola rehe. Fara'e zaho mampamaky iñy, soiriko mañatoy

女は王様のところに行きました。「王様、前髪の意味はお嫁さんも知らないようです。」「知らないって？ お嫁さんなのに？」「知らないようです。」「とんち坊やは嫁さんにもうち明けていないのか、あのことは嫁さんにも言えないというのか？ よし、力づくでも知ってやるぞ、思い知らせてやるぞ、とんち坊やめ。」とんち坊やのお嫁さんと髪を結いあった、王様の侍女は帰っていきました。

とんち坊やが薪拾いから戻りました。そしてすわりました。お嫁さんが言いました。「あなた、とんち坊やさん、拾ってきた薪はどこなの？」とんち坊やはまだ驚いていて、口がきけません。森で見たされこうべのことを考えていたのです。「いや、まったく驚いた。」お嫁さんも彼のことに驚きました。もう一度尋ねました。「とんち坊やさん、どうして話してくれないの？ 拾ってきた薪はどこ？」「水をくれ。」水をあげました。とんち坊やは飲みました。それからお嫁さんはまた尋ねました。「どうして森でのことを話してくれないの？」「食べものをくれ、腹が減った。」とんち坊やは食べました。食事を出されて食べました。満腹してから、外の木陰でひと息つきました。「とんち坊やさん、どうしてぜんぜん話してくれないの？ いったいなにがあったの？ お化けにでも会ったの？ 森でなにがあったの？ 話さずにすわっているだけなんだから。薪拾いから帰ってきて薪を持ってないっていうのに。薪がないから驚いているのよ！」

「ああ、驚いたんだよ。とても驚いた。森のなかにされこうべがあった。最初に尋ねかけたときは喋らなかった。二度めに話しかけて、三度めに話しかけたとき、それが答えた。骨との話はこうだ。『されこうべさん、どうしたの？』 答えない。『されこうべさん、どうしたの？』 答えない。とうとうぼくは、そ



rehe iñy, mivalibalike mañatoy, mivalibalike mañaroy. Ka iha lohañ-olo, nañino nahafaty anao toy io? “Vola mahafaty, ho ie, tsy ambarà valy”. Zay ty safà’e.» «Â ka zao lehe, Kelimahihitse, la tô?» «Eh, la tô ka. Tserike aho bak’añy. Ze nahatonga tsy nahatsiaroako katà io. Aia ty tahola’e lohañ-olo zao ro mivola? Ka tserike aho ka iao». Eh. Vozake Kelimahihitse ka namonjy kitsely nandinandry.

Nandeha ampela toy, nivola ze olo niresaha, nivolaña. «Â, valiko bak’añy nila katà. Misy lohañ-olo mivola zao iañy ho ie». Zao. «Eh? Ka ino koa ty mahavy mivolañ-azy toy?» Nivola koa fara’e rehe eñy mpiasa’e ampanjaka eñy. «Â, ampanjaka». «Eh». «Kelimahihitse zao tañ-ala ka nahita lohañ-olo zao nivola». «La tô le zao? Â mavandy zao. Tsy haiko koa lohañ-olo mivola». «Â la tô raha zao». «Éh?» ho ie nivolañi’e madama’e. «Alà’areo Kelimahihitse». Nañirake ampanjaka, nañirake am-mpiasa reo hangalake Kelimahihitse.

«Hody ê?» «Â, mandroso ê. Â, ka manao akory lia’areo toy?» «Ampanjaka mila anao». «Ka ino ilà’e ampanjaka ahy io?» «Â tsy hai’ay». «Eka. Mbo hañarake anareo mbeo avao fa hanasa maso tse. Baka nandinandry». Lasa mpiasa’e ampanjaka reñy. Nañarake afara Kelimahihitse.

Avy ami’zao mpiasa ampanjaka reñy. «Ka manao akory? Aia olo zao?» «Â olo zao bak’ao». Avy zao Kelimahihitse. «Hody ê?» «Â mandroso. Kelimahihitse zao?» «Eh». «Mandroso bak’ao lehe roa». Nivola zao ampanjaka. «Zao, ho ie, misy resake reko. Mahatserike ahy resake reko ô». «Ino lehe zao

いつを転がした。突いてこっちへ転がして、ひっくり返してあっちへやったりこっちへやったりした。『されこうべさん、どうして死んじゃったの?』『死に到らしむる言葉、連れあいにも漏らすなかれ。』話はそれだけだ。「それは本当? とんち坊やさん」「本当だとも。だから驚いて帰ってきた。だから薪のことも忘れていたんだよ。されこうべが喋るなんて話、聞いたことあるか? 驚いてこんなことになったんだ。」とんち坊やは疲れたので、寝台に行って横になりました。

お嫁さんは出かけて、話していた(王様の侍女の)女に言いました。「だんなが薪拾いから帰ってきたわ。喋るされこうべを見つけたって。」「本当? どうやったら彼に喋るようになったんだろう?」王様の侍女は、とうとうこのことを話しました。「王様。」「なんだ。」「とんち坊やが森に行つて、喋るされこうべを見つめました。」「それは本当か? 嘘だろう。喋るされこうべなんて聞いたことないぞ。」「本当ですとも。」「本当かな?」そこで女に言いました。「とんち坊やを連れてこい。」王様は家来たちに、とんち坊やを連れてくるよう命じました。

「ごめんください。」「お入りなさい。どうかした?」「王様がお呼びです。」「どうして王様がぼくをお呼びなんだろう?」「わかりません。」「わかったよ。君たちについていくけれど、ちょっと顔を洗わせてもらうよ。眠っていたからな。」王様の家来たちは帰りました。とんち坊やも後からついて行きました。

王様の家来たちは着きました。「どうだった? やつはどこだ?」「やつめは後で来ます。」とんち坊やが来ました。「ごめんください。」「お入りなさい。とんち坊やか?」「はい。」「そばに寄りなさい。」王様は言いました。「じつは、耳にした噂がある。まったく信じられない噂だ。」「どんな噂ですか?」「おまえは薪

ampanjaka?» «Iha nila katà. Laha nila katà iha añaty ala añy, nahita lohañ-olo zao. Ka nivola lohañ-olo ô. Ka raha tôle lehe raha zao?» «Â zao, ampanjaka, tsy haiko zao. Zaho tsy nivola azy zao. Ary tsy nisy olo vinolako tetoy». «Â, vali'ao naharezañ-olo zao an-tanà toy eto. Ka olo mpiasako reto nivolaña azy zay, eh, mpiasako reñy. Zao ro nilàko anao». Tserike Kelimahihitse.

«Ka raha zao le raha tôle? Ameako drala iha, ho ie, gony roe, laha mivola, laha tahola zao koa andesy etoy». «Eh?» «Eka» ho ie. Â! Tsy hiantoke Kelimahihitse, tsy hai'e; hiantoke Kelimahihitse, tsy hay. Meloke ami'e vali'e, safê vali'e zay ro nañelany safà'e Kelimahihitse mbeo. Zao. Ka nañeky tsy varavarà Kelimahihitse. «Eh, raha io ka la tôle. Zaho nivola ami'e valy, zaho añ-ala añy nila katà. Ka bak'eo amin'zao zaho nahita lohañ-olo ô. La nañontany ka: "iha lehe nañino?" Tsy nivola. "Lohañ-olo, nañino?" Tsy nivola, fa fahatelo ie nivola». «Ka ino ty safà'areo?» ho ie. «Laha nivola, ho ie, manahak'zao: "Iha lehe lohañ-olo, nañino, nahafaty anao atoy?" "Vola mahafaty tsy ambarà valy". Zay ty safà nambarà'e ahy». «Eh», ho ie.

Nitsioke antsiva amin' zao ampanjaka. Tsiok'antsiva havory ty fokonolo. Oh tototototototo! Oh tototototototo! Taloha, tsiok'antsiva fivorian-drozy taloha, olobe taloha reo. Nivory iaby. «Ka ino raha zao, ampanjaka, raha zao?» Avy iaby olo fokonolo an-tanà eo, na olobe na ajà. «Eh, ka ikaihako anareo», ho ie ampanjaka, «mivory iaby nareo, ikaihako anareo, eh,

拾いに行ったろう。森のなかで薪を拾うとき、されこうべを見つけたろう。それが喋るというんだ。本当か？」「それは王様、わたしにもわかりません。わたしが話したのではないのですから。話した相手もいませんから。」「町の者がおまえの嫁さんから聞いたんだぞ。侍女たちに話したんだ、侍女たちに。」とんち坊やは驚きました。

「この話、本当なのか？ 話してくれたら、そして骨をここに持ってきてくれたら、おまえに穀物袋二袋分の貨幣を与えよう。」「本当ですか？」「本当だとも。」「…！」話さないほうがよいものか、とんち坊やは迷いました。話したほうがよいものか、とんち坊やは迷いました。お嫁さんに腹を立てました。とんち坊やの話を言いふらしたのは、ほかならぬお嫁さんだったのですから。とんち坊やは、しぶしぶ認めました。「その話は本当です。妻にこう話しました。わたしは森で薪を拾っておりました。そこでそのされこうべを見つけたのです。『されこうべさん、どうしたの？』と尋ねました。答えません。『されこうべさん、どうしたの？』と尋ねました。答えません。三度めに答えました。」「どんな話だったのか？」「喋ったときこのような具合でした。『されこうべさん、どうして死んでしまったの？』『死に到らしむる言葉、連れあいにも漏らすなかれ。』骨がわたしに話したことはそれだけです。」「そうか。」

王様は法螺貝を吹きました。法螺貝の音が、寄り合いの召集の合図だったのです。オートトトトトトト！ オートトトトトトト！ 昔の人たちは、法螺貝の音で寄り合いに集まりました、昔の人ですよ。全員が集まりました。「どうなさったのです、王様、このたびは？」町じゅうの人たちが、おとなも子どもも勢ぞろいしました。「おまえたちを呼びだしたのはほかでも

misy resake ato. Kelimahihitse nahita lohañ-olo zao aña-ala ka nivola. Nareo eto fa nahare azy. Ka Kelimahihitse hameako drala gony roe, laha mivola tahola lohañ-olo zao. Fa laha tsy mivola lohañ-olo ô, ho tampahako vozo'e Kelimahihitse. Ka tsika iaby hañañy».

«Hâ». Tserike Kelimahihitse. «Ka zao, lehe, zaho mañontany, iha Kelimahihitse, la tô raha zao?» «Â ataoko akory moa tsy tô fa valiko nañely raha zao fa reo la tô. Ka zaho tsy tokony nivola azy fe valiko fa nañely azy ka. Izao la io. Tsy hitako hialako an-dreñy. Ka laha reo la tô mivola fe tsy tokony nambarako fa valiko nañely azy». «Hâ, ka iha ho nimaty gony roe io», ho ie olobe an-tanà. Nivola ami'e Kelimahihitse, baba'e zay. «Tañaña'e raha zay ato». «Eka» ho ie. «Andao tsika» ho ie. Famaky, eh, noho fibira fanampahañ-olo andesi'e mpiasa'e ampanjaka eñy.

Lasa. Lasa. Lasa. Aloha'e Kelimahihitse nitarike azy mañ-añaty ala aña. Avy aña rozy. «Aia lehe Kelimahihitse, raha zao?» Kelimahihitse somary lisatse alohaloha aña rozy. «Â, iha ro mavandy iha», fa melomeloke ampanjaka fa vozake. Ka ampanjaka iña nilanjà'e mpiasa efa-dahy reo, fa tsy mandeha an-tany. Zao. «Â tsika himpoly fa farafara roa zay». Nimpoly rozy. «Â. Eto tsika». Mbo tsy mizotro ampanjaka eña aña-abo eña fa malisa avao ie. Eh. «Ndao tsika hilitse mbeto fa intoy ty liako henanik'toy. Â eto intia raha zao». Nizotro ampanjaka, nazotso'e mpiasa reña. Ambany, lasa.

«Aia ka lehe?» «Â, io». «Â ity tokoa lohañ-olo zao. Ka iaby

ない。」王様は言いました。「おまえたちを呼んだのは、話があるからだ。とんち坊やが森でされこうべを見つけたところ、口をきいた。ここにいる者たちも聞いただけだろう。もしそのされこうべが本当に喋るなら、とんち坊やには穀物袋二袋分の貨幣を与える。だがもしそのされこうべが喋らないなら、斬首の刑に処す。それでは探しに参ろう。」

「なんだって？」とんち坊やは驚きました。「もう一度聞くぞ、とんち坊や。この話、本当だろうな？」「本当じゃないって言いたいけれど、嫁さんが言いふらしたことなんだから、本当どししか言えないだろうね。話すんじゃないよ、でも嫁さんがもう話しちゃったからなあ。どうしようもなさそうだなあ。本当のことなら話すけど、嫁さんが言いふらすなら話すべきじゃなかったなあ。」「貨幣二袋と命をひき替えにすとはな。」話しかけたのは父親でした。「われわれが証人になろう。」「はい。」「よし行こう。」まさかりと、人を斬れるような山刀とを、王様の家来たちは携えました。

彼らは歩きつづけました。とんち坊やが前に立って、彼らを森の中へ連れて行きました。着きました。「とんち坊や、例のものはどこだ？」とんち坊やは、ちょっと行きすぎて（王様から）離れてしまっていました。「さては嘘をついたな。」王様は疲れていました。四人の家来に（御輿で）担がれていて、地面を歩いてはいなかったのですが。「もっと後ろだ、ひき返そう。」彼らはひき返しました。「やあ、ここだ。」王様はまだ下へ降りず、上から見ていましたが、気が気ではありませんでした。「さあこっちに入りましょう。目的のものはこっちですよ。やあ、これだこれだ。」家来たちは王様を下に降ろしました。王様は駆けよりました。

nareo fokonolo, aia fokonolo zao?. Tsika hanenty azy, hidrandry feo'e lohañ-olo ô». Zao nañontanea: «Volaño, ka nañino iha lohañ-olo añ-ala toy avao nahafaty anao?» Tsy mivola lohañ-olo ô. «Ino, lohañ-olo, nahafaty anao?» Tsy nivola lonañ-olo io. «Iha lehe roa», ho ie ampanjaka, «olo ô fa ho maty iao! Zahay avezivezi'ao bak'ao!» Mikodibokodiboke ty fo'e vali'e iñy ety, safè vali'e zay ro nahareza'e ampanjaka azy.

Io amin' zao. «Volaño jiska ami'e folo», ho ie. Volañy labỳ, tsy nivola. Volañy labỳ, tsy nivola. Â, fa eny zay. «Nañino, lohañ-olo, nahafaty anao?» Tsy mivola raha eñy. Fito zay. «Nañino, lohañ-olo, nahafaty anao?» Labỳ. Fa valo. «Eh, atavo'areo parè famaky, meso reñy», ho ie. «Nañino, iha lohañ-olo, nimaty nahavy anao añ-ala toy?» Tsy nivola rehe iñy. Â. Fa sivy, avalike indraike. «Lohañ-olo, mañino tsy mivola eo? Nahafaty anao ino?»

«Hâ!» Tserike lehe Kelimahihitse. Tavela raike. Fara'e navalimbaliha'e mañatike reñy, navalimbaliha'e mañaroy. «Ka nañino lehe?» Namalimbaly lohañ-olo, sinosino'e hazo avao. «Nañino lohañ-olo, ho ie, tsy mivola eo? Zaho tato iha nivola. Ka ino nahafaty anao lehe lohañ-olo?» Tsy nivola lohañ-olo iñy. «Allez, ho ie, rohizo'areo Kelimahihitse». Ampandrohizi'e ampanjaka iñy Kelimahihitse, niraha'e mpiasa reto handrohy Kelimahihitse. Finehy. Niampake. Nitongoa hazo baka ami'e hatoke bak'ao. Io niondoro ho nanampake vozo'e Kelimahihitse iñy mpiasa reñy.

「どこだ?」「これですよ。」「なるほど、まさしくされこうべだ。町の者ども、町の者どもはどこだ? よく見ようではないか、されこうべの声を聞こうではないか。」そこで尋ねました。「されこうべさん、どうして森で死んでしまったの?」されこうべは答えません。「されこうべさん、どうして死んでしまったの?」されこうべは答えません。「おのれ!」王様は言いました。「この者、首を討て! さんざん連れまわしおってからに!」とんち坊やのお嫁さんは、動悸が早くなりました。王様が噂をききつけたのは、お嫁さんのせいだったのですから。

でも何も起こりませんでした。「十回まで尋ねてみよ。」黙ってしまって答えません。黙ってしまって答えません。六回めになりました。「されこうべさん、どうして死んでしまったの?」答えません。七回め。「されこうべさん、どうして死んでしまったの?」黙ったまま。八回め。「斧と刀を準備せよ。」王様は言いました。「されこうべさん、どうして森で死んでしまったの?」答えません。九回めもくり返しました。「されこうべさん、どうして答えてくれないの? どうして死んでしまったの?」

「やれやれ!」とんち坊やは驚きました。あと一つで十です。とうとう、こっちへ転がし、あっちへ転がしはじめました。「どうしたんだろう?」されこうべは、木の棒で突かれてころころ転がりました。「されこうべさん、どうして答えてくれないの。前のときは答えてくれたのに。どうして死んでしまったの?」されこうべは答えません。王様が言いました。「とんち坊やを縛りあげろ。」王様はとんち坊やを縛らせました。家来たちが、とんち坊やを縛ろう命じられました。しっかり結びました。仰向けに寝かせました。うなじから長い添え木を当てました。家来が馬乗りになり、とんち坊やの喉もとを斬ろうとしました。



«Eh, azafady lehe azafady lehe, Rañandria», ho ie olobe niaraka ami'reñy. «Ka zahay lehe, ampanjaka, hisoloho ami'ao. Lohañ-olo io tahola ka angatse, ka tsy ho iaraha'areo raha zay». «Iha, ho ie, hisoloho azy», ho ie ampanjaka, nielofa'e olobe an-tanà reñy. Hâ. Mihatake moa le olo ho nanampake azy lafa manao azafady olobe reñy. Tsy nivita ndra raike ampanjaka iñy. «Ao, lehe roa, tampaho'areo loha io soa hanahake lohañ-olo mivola zao». Ie, niavy koa raike ho nanampake azy. Â, nivola koa raike: «Â, azafady lehe, azafady. Fombañ-olo lehe zahay mangatake, zahay olobe an-tanà. Ka vonò lehe Kelimahihitse». Â, niatse koa raike iñy aroy.

Safè le mpanday zay roy, mpiasa ampanjaka milanja azy io hamono an'reo. Tavela le roa lahy. «Â, zahay le mangatake», ho ie olobe an-tanà: «Ka vonò le Kelimahihitse fa anga-draha ro nahazo azy io». «Ka ia lehe hisoloho azy koa fà, ho ie, nareo?» «Ka», ho ie mpiasa raike, «ho tampahako azy, fa tsy raha mahay safà maro zao». «Tampaho rozy!» ho ie ampanjaka iñy. Io ho nanampaka reñy sinaka'e raike zao, sinaka'e olobe raike zao. «Â, azafady lahe roa, fahatelo roa zahay manao azafady. Ino amono'areo Kelimahihitse zao? Ie tsy nangalatsé akory fà safà zao avao ro hamono aï-azy? Ka vonoa le». «Â, samboro'areo koa lehilahy io! Hasolo an'i Kelimahihitse, hasolo aï-azy io!» «Â azafady lehe», nibabababa ie. Sefo fahaefatse mpiasa ampanjaka iñy voasakasakan-drozy. «Allez, ka io anampahanako azy io». Nanday famaky, famaky iñy aranga'e manahak'zao, ho pantsihi'e Kelimahihitse, mbo

「おそれながら、おそれながら、陛下！」彼らに同行した年長者たちが言いました。「王様、おすがり申しあげます。されこうべは骨ですから、すでに死んでおります。あなた様に従うはずがございません。」「こやつ（処刑人）にもおすがりしろ。」町の年長者たちにたしなめられた王様は言いました。首を討とうとしていた家来たちは、年長者たちが制止するとたじろぎました。王様は少しも動じません。「そやつの首を討て。喋るされこうべのようにしてやろう。」別の家来が、首を討とうとやって来ました。別の年長者が言いました。「おそれながら、おそれながら！ お慈悲でございます、町の年長者一同お願いいたします。とんち坊やを殺してはなりません。」この二人めの処刑人も、思いとどまりました。

とんち坊やを殺そうとしたのは、いずれも王様の御輿を担いだ家来たちでした。ですからまだ二人残っています。「お願いでございます。」町の年長者が言いました。「とんち坊やを殺してはなりません。気がふれたのでございましょう。」「次は誰がこやつにおすがりするのじゃ。おまえらか？」もうひとりの家来が言いました。「わたしが斬ってやろう、長話はさせないぞ。」「斬れ！」王様が言いました。斬ろうとしましたが、もう一人の年長者にさえぎられました。「おそれながら、三たびお願い申しあげます。なぜとんち坊やを殺すのでございましょう？ 彼は盗みをはたらいたわけではありません。流言だけで死刑にするといいのでしょうか？ 殺してはなりません。」「その男を捕らえよ！ とんち坊やの身代わりに斬ってしまえ！」「お赦しください！」男は懇願しました。しかし、王様に仕えている四人めの家来もさえぎられます。「さあ、わたしが斬ってやろう。」斧を携えてきて、こんな風に振りかぶり、とんち坊やに振りおろそ

sakañ'olo afara ato. «Â azafady lehe». «Ka ino ro anakana'ao ahy?» «Azafady lehe, tsy ino ro hamono azy». Sinamboke nahoda iñy. Nahoda reñy nanaka an-dreñy hiaro ami'e Kelimahihitse. Sinaka'e reñy, sinamboron-drozy. Hinaha Kelimahihitse fa hosy reñy ho namatora'e nahoda iñy. Voafehy nahoda iñy. Ho namantsika nahoda fa voafehy io, mpiasa ampanjaka iñy ro ho nanampake ty vozo'e nahoda iñy.

Nivola amin'zao lohañ-olo: «Manao akory, ho ie, vola mahafaty tsy ambarà valy!» «Â, azafady azafady azafady», ho ie olo arivo iaby, «mivola lehe io! Â manao akory, ampanjaka, drandrino tse, ampanjaka!» «Manao akory, ho ie, iha Kelimahihitse? Vola mahafaty tsy ambarà valy». Hinaha'e amin'zao nahoda iñy. Â, Eh. «Namipivola tokoa», ho ie ampanjaka iñy. «Â, ka atao akory henanik'io? Â tsika himpoly, marina lehe ñanao, iha Kelimahihitse», ho ie ampanjaka, «safè mivola tokoa lehe lohañ-olo ô. Fa tsy ni-olobe reto ataoko fa ho nimaty iha». Zao.

Lasa. Rozy noly naña-an-tanà. Noly rozy. Hâ. Nivolañ-azy, nifehy nisolo'e Kelimahihitse, ami'e Kelimahihitse ty. «Â, Kelimahihitse, ty hatea'ay anao ro ho namono anay!» Tsy nivola ie fa... «Nareo iaby fokonolo henanik'io iaby henanik'toy, ho ie, valiko, lafa avy eo, fa zaho tsy hanambalia ami'e valiko ô. Valiko ô ro ho namono ahy io. Nefa tokony zaho ro nivola ami'e olo ô tanà toy fa tsy valiko ro nañela reo. Eh. Zay ka ie valiko, lafa avy atoy, “ahoroño ty enta'ao. Ho namono ahy noho namono an'ny olobe an-tanà retoa”».

うとしたとき、また後ろからさえぎられました。「おそれながら！」「なぜ止める？」「なぜ殺すのでございます？」年長者は捕らえられました。年長者たちはそれを止めました、とんち坊やを守るために。制止した者たちは捕らえられました。とんち坊やの縄がほどかれて、その縄で年長者を縛ることになりました。年長者は、固く結ばれました。すっかり自由を奪われた年長者を斬ろうとしたのは、王様の家来でした。

そのとき、されこうべが喋りました。「どうしたことだ。死に到らしむる言葉、連れあいにも漏らすなかれ。」「はっ、おそれながらおそれながらおそれながら！」その場の全員が言いました。「喋ったぞ！ いかがです王様、お聞きください、王様！」「何ということだ、とんち坊や。死に到らしむる言葉、連れあいにも漏らすなかれだと。」年長者は縄を解かれました。「本当に喋っておった。どうしたことか？ 皆の者、帰ろう。おまえの話は本当だったな、とんち坊や。」王様が言いました。「されこうべが本当に喋ったのだからな。年長者たちがいなかったら、お前は死んでいるところだったぞ。」

彼らは町へ帰りました。着きました。とんち坊やの身代わりになって縛られた年長者が、とんち坊やに言いました。「とんち坊やよ。おぬしを助けようとしてわれわれは殺されそうになったのだぞ！」とんち坊やは黙っていましたが、やがて口をききました。「ここにいる町の皆さん。着いたら、わたしの妻はもう妻ではありません。妻がわたしを死に到らしめようとしてました。しかしこれは、わたしが直接皆さんに言わなければならないことを、妻が言いふらしたために生じたことです。妻が帰ったらこう言います。『荷物をまとめろ。おまえはわたしを殺そうとし、町の年長者たちを殺そうとしたのだ。』」

Lasa noly rozy, noly. Lafa niavy ampela, «ahoroño ty enta'ao». Lasa. Nisarake rozy. Niaiy. Tserike Kelimahihitse.

Nivaky ty andro. Ami'e safã'e ampanjaka ami'e Kelimahihitse, baba'e namonjy azy. «Manao akory lahe roa?» «Eh?» «Drala'ao gony roe ami'e ampanjaka iñy tsy alà'ao? Rehe fa hitañ-olo maro, ty nampivolà'ao ty lohañ-olo ô». «Eka». Nandeha Kelimahihitse, naña-ampanjaka eñy.

«Hody ê?» «Â, mandroso. Manao akory lia'ao toy?» «Â, liako toy», ho ie Kelimahihitse, «zaho hangalake dralako ô namea'ao drala gony roe iñy, fa lohañ-olo ô fa nivola». «Iha lehe roa tsy mahazo. Iha olo fa ho nimaty fe olo reñy ro nisakasaka ato. Aleo tokony amea añ-olobe reñy drala ho amea, fa tsy ho anao». «Â, safã'ao fa natao hoe lafa nivola ka manao akory zao? Zaho ro mahay manome an'i olobe reñy zao, fa tsy iha». «Â fa olo zay tsy handidy ahy. Ia ty añara'ao tsokotsoko reñy?» «Reñy tsy ambaràko, tsy ambaràko anao». «Â, iha ro misengy hihihihitse zao, iha akontie'e fa ho nimaty, iha avao ro mahihitse an-tanà eto. Kila raha zao bak'ao iha manao mahihitse. Ka ia ty añara'ao Kelimahihitse zao Tsokotskotelô ô?» Lasa moa ampanjaka eñy. Nipetsake Kelimahihitse an-davaraga.

Â, bak'ao indaïke ampanjaka. «Iha lehe mandiny ino?» «Zaho mila dralako zay!» «Nao lehe roa, sokafo'areo tsano raïke io aroaroa fa ampangala'ao drala zao, drala Kelimahihitse zao». Lasa Kelimahihitse nañorike ami'e mpiasa'e ampanjaka reñy. Sinoka'e mpiasa'e ampanjaka reñy tsano ô. «Aia raha

人びとは帰り着きました。お嫁さんが着いたので、やんちゃ坊やは「荷物をまとめろ」と伝えました。(お嫁さんは) たち去りました。離婚してしまったのです。やっとひと息つきました。その日、やんちゃ坊やは驚きっぱなしでした。

夜が明けました。やんちゃ坊やの話について相談しようとして、お父さんがやって来ました。「具合はどうだ?」「ええ?」「王様がくれると言っていた二袋の貨幣、取りに行かないのか? されこうべをおまえが喋らせたところ、たくさんの人が見たんだからな。」「そうだね。」とんち坊やは、王様のところへ行きました。

「ごめんください。」「お入りなさい。どういう用件だ?」とんち坊やは答えました。「あなたがくださる穀物袋二袋の貨幣を取りにまいりました。されこうべが喋ったのですからね。」「おまえにはやらないよ。おまえは死にそうな目にあっただけ、それをさえぎったのは町の者たちだ。やるはずだった貨幣は年長者たちにやろうと思う。おまえじゃなくてな。」「え、されこうべが喋ったら(わたしに貨幣をくれる) っていう話だったでしょう? どうしてそうなるんですか? 年長者に分けるかどうかはわたしが決めますよ、あなたじゃなくてね。」「平民がわたしに指図するとはな。ところで、おまえの前髪はどういう意味なんだ?」「誰にも言いませんよ、あなたにもね。」「まったくとんちに長けているな。死にそうになった(のに助かった) のだからな。この町で一番のとんち者だ。とんち坊や、三つの前髪(ツクツクテル) はどういう意味なんだ?」王様はたち去りました。とんち坊やは、バルコニーにすわりこみました。

王様がまた来ました。「いったいなにを待っているんだ?」「貨幣をくださいよ!」「ではあの蔵を開けて、貨幣をとってこい。

zao?)» «Henanik'io ka alà'ao reo drala'ao zao». Lasa Kelimahihitse nilike naña-an-tsano ao. Nilike naña-an-tsano ao, direkita mikatoke lehe nihily.

Tserike amin'zao Kelimahihitse an-tsano. «Â, lehe roa, sokafo!» Tsy mety. «Sokafo'areo lehe raha toy!» Tsy mety. «Ha, sokafo'areo raha toy!» Tsy mety. «Alà'areo ampanjaka laha tsy raha atoy!» Nivola ampanjaka iiny ami'zao amonto ao. «Iha, ho ie, la maty ao, fa tsy hiboake koa. Mba hanteako maha-Kelimahihitse anao zao». Eh. «Andao, tsy raha mañahy».

Tsofotse ty andro. Haly. Maraindray, niala amin'zao neni'e Kelimahihitse noho baba'e. «Nao lehe, ka anako ô le aia?» «Â ana'ao eo, fe tsy hiboake mbeo koa la. Tsy mila maty ao mba hanenteako mampahihitse azy Kelimahihitse zao». «Eka tsy raha mañahy».

«Nao lehe roa, alà'areo ainy ampanjaka iiny», ho ie Kelimahihitse an-tsano ao. «Ino ilà'ao azy io?» ho ie mpiasa reo iiny. «Â, alà'areo ainy». Nalà. «Â, ampanjaka». «Eh?» «Kelimahihitse mila anao». «Ino ilà'e ahy?» «Tsy hai'ay». Ao amin'zao. Nivola amin'zao ampanjaka ao amonto. «Ino, Kelimahihitse, ilà'ao ahy io?» «Ilàko anao, zaho fahakonti'e ho maty. Ao misy sabakako ray ainy. Sabaka bonetsa, noho siky sempo, noho akanjo añabo noho misy pantalò, fa ho sikiniko raha reo, ndra laha maty aho. Fa zay lehe, raha hipoziaiko raha reiny. Ka ampangalà'areo anak'ampela'ao ainy. Lafa mpiasa'areo ro mañahy, havoñin-drozy io, harian-drozy sikiko

それがとんち坊やへの褒美だ。」とんち坊やは、王様の家来たちについて行きました。王様の家来たちが蔵を開けました。「貨幣はどこだ?」「待っていてやるから、自分で貨幣を取ってこい。」とんち坊やは蔵に入っていました。蔵に入るとすぐに扉が閉まり、鍵がかかりました。

蔵のなかでとんち坊やは驚きました。「やい、開けろ!」無駄でした。「ここを開けろ!」無駄でした。「やい、ここを開けろ!」無駄でした。「だったら王様を連れてこい!」王様は蔵の外で言いました。「おまえはそこで死んで、もう出てこないのだ。とんち坊やのゆえんを見とどけてやろう。」「そうかい、かまわないよ。」

日が暮れました。夜です。その次の朝、とんち坊やのお母さんとお父さんは出かけました。「息子はどこでしょう?」「息子さんはそこに居るが、すぐには出てこない。そこで死ぬことはないが、とんち坊やのとんちを見てやろうと思うのだ。」「そうですか、しかたありません。」

「やい、王様を連れてこい!」とんち坊やは蔵のなかから言いました。「なんの用事だ?」家来たちは言いました。「いいから連れてこい!」連れてくることにしました。「あの、王様。」「なんだ?」「とんち坊やがあなたを呼んでいます。」「なんの用事だ?」「わかりません。」お出ましになりました。王様は外から話しかけました。「とんち坊やよ、なんの用事だ?」「ぼくはもう余命が長くない。家に帽子がある。ハイカラ帽だ。それからよそ行きのセンプ、上着、それからズボンもある。それをぜんぶ、死ぬときにも身につけていたい。それだけだ。それで着飾っていたいんだよ。あんたの娘さんに取りに行かせてくれ。家来たちに行かせたら、家族がその服を隠してしまうだろう。ぼ



reo. Zaho fa ho maty avao kanefa olo atokisako hangelake an-drehe ao. Nareo misy sandoka be vy zao ka ie misy azy. Ambany reo eo». «Eka» ho ie.

Lasa anak'ampela'e ampamjaka iiny. Naña-ami'e neni'e Kelimahihitse. «Aia siki'e Kelimahihitse zao?» «Aha». «Sokafo valizy bevata io». Sandoka moa ty añara'e taloha io. Sandoka bevata io amin'io ao. Sinokatra reñy. Tsy dakari'e ampela iiny, reñy aja reñy, tsy daka'e reñy ambany. Fara'e nidrobo an-dreñy ho nangalake azy. Aja io nidrobo mbeo direkita mihily reñy. Ao ô. Anak'ampanjaka io lehe eñy. Takò'e rehe reñy. Tsy mety. Fara'e fa lera ty lera, fa miha-midi reñy.

«Ka nao lehe, anako zay mba mahery raha». Nañirake am-mpiasa reo ho nalà. «Â, ana'ao zao, ampanjaka, mihily añaty rehe eo ao ami'e sandoka'e Kelimahihitse zao. Â, nao roa Kelimahihitse, aia ty lakilé sandoka'ao zao?» «Â, raha reo tsy misy lakilé, fa hazo be eo ampihalia androzy ty vaha'e reo. Eh, vaha bebe reñy tampaha, io ro avango an'ny sandoka io, baka añabo eo, soa hisokatse». «Eka». Nandeha rozy roy reke famaky, hinaly hinaly, niboake ty vaha'e raika zao tinampake. Ka iiny, laha nitampake ami'zao rehe eñy, fa rerake aja io ka zao fa tsy mahabe marè ty feo'e. Rerake koa Kelimahihitse fa mosarè. «Manao akory ato?» «Â, ato tsy mety. Sokafo'areo, ho ie, aja iiny». «Eka, atoy ty lakilé». «Ambanibany iao». «Ka taitse lafa teo vangò». «Eka». Vinango reñy. Poma! Nilane'e nihily, sasa'e tsy nihily reñy. «Â, vasa lehe iha koa hamango azy koa, raika nama'e iiny?» «La tô, nama'e iiny, hazo bevata

くは死んでしまうけれど、ぼくが頼れる人が取りに行くのはかまわないはずだ。金属製のサンドウカ（衣装箱）の中にある。奥のほうだ。」「わかった。」

王様の娘は出かけました。とんち坊やのお母さんのところへ行きました。「とんち坊やの服はどこ？」「知らないわ。」「その大きな衣装箱を開けてちょうだい。」昔の呼びかただとサンドウカといいました。それは大きなサンドウカでした。開きました。娘はまだ子どもだったので、底まで手が届きません。とうとう、服を取ろうとして中へ落ちてしまいました。娘が中へ落ちると、すぐ錠が閉まりました。王様の娘は衣装箱の中です。彼女は蓋を持ちあげようとしていました。うまくいきません。時間がどんどん経って、正午近くになりました。

（王様が言いました。）「娘は遅いな。」家来に命じて、迎えに行かせようとしていました。「王様、お嬢様はとんち坊やの衣装箱の中に閉じこめられています。おい、とんち坊や、衣装箱の鍵はどこだ？」「鍵はないよ。近くの大木の根元を家来に掘らせなさい。その大きな根っこを伐りとって、衣装箱を打つ槌になさい。真上から打つと開きますよ。」「わかった。」家来たちは、斧を携えて（とんち坊やの家へ）行きました。懸命に掘って、根っこがひとつ出てきたところで、それを伐りとりました。それを伐りとったとき、娘はぐったりして大きな声を出せなくなっていました。とんち坊やも空腹でぐったりしていました。「どんな具合だ？」「こっちは駄目だ。娘さんを助けてやってくれ。」「わかった。こいつで打てばいいんだな。」「下まで打ちこめよ。」（娘に向かって）「打っても驚かないでくださいね。」「わかったわ。」打ちました。ポマ！ 口の一部が嵌まりこみました。一部はまだ嵌まっていません。「お前も打つか、もうひとつの槌で？」「そ

iïny». Poma! Mihily iaby raha reñy. «Â tserike. Toy lehe atao akory? Allez, alao vy!» Tinorotoro rehe iïny, tsy vita reñy fa kemoke avao. Takoiri'e vy, tsy vita raha reñy. Fara'e lasa nandeha rozy.

«Â ampanjaka». «Eh». «Â, tsy vita raha zao. Mihily iaby reo iao. Ho maty ajà io fa rerake. Faty feo'e fa kelikelike avao». Nañany koa ampanjaka. «Nao, Kelimahihitse!» «Eh?» «Aia lakilè'ao raha zao, homby raha zao mamango azy zao ro mañily azy». «Eh, atao akory moa, fa zaho ato ô fa rerake ka mosarè. Ka alao akanjoko reñy fa zaho ho maty zao henanik'zao. Zaho ty mahahariva azy fa maty, teako raha reo ho ankanjoroko amiko eto, andesiko maty ho sikiniko». «Â, ka sokafo tseke raha io, ameo bak'ao lakilè reo hanokafa'ay reo zao, zay voho hanokafa'ay koa anao». «Â io, ampanjaka, tsy haiï-olo. Zaho ro mahay mañalake anio. Laha zaho ro aboaha'areo, ho velo ana'ao, fa laha tsy aboaha'areo, ho maty ana'ao». «Tsika moly, fa tsy aboaha'ay. Hâ! Anteo'areo», ho ie ampanjaka, «tsy hisokatse». Nolay indrrike lehe reñy. Laha hentea ajà, fa malemy ty feo'e. «Manao akory ato?» «Zaho ato fa mosarè marè». «Â nañino iha?» «Mosarè marè fa rerake». Nolay mpiasa'e ampanjaka reñy. «Â ana'ao atity, ampanjaka, faty feo fa kelikelike avao fa rerake». «Hâ, ndao lehe roa!» Nandeha ami'e Kelimahihitse ampanjaka iïny. «Kelimahihitse!» «Eh?» «Iha atoa nañino?» «Â fa ho maty. Sikiko reto bak'ao». «Â, ka manao akory iao fa rerake fa ho maty zao, fa manao akory? Iha tsy raha hiboake, laha tsy mba

うだな、あの大きな木材がよさそうだな。」ポマ！ 口は完全に閉まってしまいました。「こいつは驚いた。どうしよう？ そうだ、鉄棒を持って来い！」それで衣装箱を壊そうとしました。でも鉄が曲がってしまって駄目です。鉄棒でこじ開けようとしたのですが、だめです。けっきょく彼らは諦めました。

「王様。」「なんだ。」「駄目でございます。箱が開きません。お嬢様も弱っていて死にそうです。声も弱く、絶え絶えです。」王様も腰を上げました。「おい、とんち坊や！」「はい？」「鍵はどこなんだ？ 上から打ったら閉まってしまったのではないか。」「どうしましょう。わたしも空腹で力が出ません。もう死にそうですから服を取ってきてください。夕方になる頃には死ぬと思います。その服をわたしは着ます。死装束にしたいのです。」「だから早く衣装箱を開けろ。開けるための鍵をよこせ。おまえの蔵も開けてやるから。」「いえ、王様、わたしでなければできません。わたしならうまくできます。もしここを出していただけたら、お嬢様も元気になるでしょう。もしここを出していただけないなら、お嬢様も死んでしまうでしょう。」「帰ろう、出してなどやるものか。くそ！ 衣装箱が開かないかどうか見てこい」家来はまた走って戻りました。娘に会うと、声がか細くなっていました。「具合はいかがですか？」「お腹が減ってどうしようもないわ。」「なんですと？」「お腹が減って死にそう。」家来はまた駆け戻りました。「王様、お嬢様が弱ってしまって、声も消え入りそうです。」「くそ、来い！」王様はとんち坊やのところへ行きました。「とんち坊や！」「はい？」「具合はどうだ？」「もう死にそうです。服をください。」「どういことだ、弱って死にかけているのに（服が要るとは）、どういことだ？ 鍵を渡さないと、外には出さない。」とんち坊やは言いました。「こ

amea'ao lakilè zao». Nivola Kelimahihitse eo. «Laha lò ato, ventsake ato, lò ana'areo aïny iao». «Â, safâ raty zao», ho ie ampanjaka. «Maïino lahe roa? Avaliho indraike resa'ao zao!» «Laha zaho ato ro lò, vendrake ana'areo iao. Laha ana'areo aïny ro lò, vendrake zaho ato». «Â, aha, miboaha iha. Tsika handeha hanokatse azy aïny». Naboake.

Fa rerake Kelimahihitse la. «Sokafo raha toy!» Sinokake amin'zao. Eh. Kelimahihitse avao lehe nisokake. Niboake amin'zay bak'ao. Â, tserike ampanjaka manenty azy laha rerake fa malemy. Aïny. Namea'e neni'e Kelimahihitse hany, dité. Nalaky Kelimahihitse. Velo ami'e vata'e. Manahak'zay koa anak'ampela'e ampanjaka eïny koa, fihinana ami'e dité koa, malaky koa namea raha mafana, nihany, nihany, fatsake amin'zao.

Hâ. Niñoliñoly Kelimahihitse io. «Ka lia tiky lehe ka manao akory? Laha marina, tsy hahazoako añara'e tsokotsoko reïny? Zao. Aha, zaho, ho ie, haïñaïny indraike hangalake dralako aïny... Nao lehe roa, zaho lehe ampanjaka, avy eto», ho ie Kelimahihitse. «Manao akory dralako zay?» «Ia lahe roa! Ia moa ty añara'e tsokotsoko reïny?» «Â, rehe iïny tsy ambaràko». «Â, iha manao akory fa ho valia'ao anak'ampelako. Fa drala gony roe iïny hameako anao fa hanambaly anak'ampelako». «Â teako zay». «Eka. Mimpolia, ho ie, hamaray fa hikaïke aho». Lasa Kelimahihitse nimpoly ami'e baba'e aïny. «Â manao akory baba?» «Â Kelimahihitse». «Eh, amea ahy anak'ampela'e ho valiko». «Eh? Ka tea'ao?» «Â, teako».

ここでわたしの肉が崩れたら、あなたのお嬢さんも腐臭がしてきます。「縁起でもないことを言うな。」王様は言いました。「どうしたって？ もう一度言ってみろ！」「わたしが腐臭を放つようになったら、あなたのお嬢さんの肉も崩れていきます。お嬢さんが腐臭を放つようになったら、わたしの肉も崩れていきます。」「とんでもないことだ。外に出る。一緒に行って衣装箱を開けよう。」ようやく外に出られました。

とんち坊やは弱っていました。「こいつを開けろ！」蔵が開きました。とんち坊やだけが外に出られました。出てきます。王様はそれを見て、弱ってぐったりしているのに驚きました。家へ帰りました。とんち坊やのお母さんは、料理と紅茶を与えました。とんち坊やはあっという間に食べました。体が回復しました。王様の娘も同じように回復しました、やっぱり料理と紅茶で。すぐに温かいものを与えると、あっという間に食べて、元どおりになりました。

とんち坊やは驚きながら考えました。「今回のお目通りにはどういう意味があったのだろうか？ 本当なら、前髪の意味などわからないと言いきるのがいいだろう。いや、やっぱり、もう一度貨幣を取りに行こう。」とんち坊やは言いました。「王様、また来ましたよ。わたしの貨幣はどこですか？」「来たな！ 前髪はどういう意味なんだ？」「言いませんよ。」「娘を嫁に迎えてもか？ 穀物袋二袋の貨幣は、結婚祝いとして与えよう。」「ありがたき幸せです。」「よし。」王様が言いました。「今日は帰りなさい。明日わたしがお披露目をしよう。」とんち坊やは座を辞して、お父さんのところへ帰りました。「お父さん、お元気ですか？」「やあ、とんち坊や。」「王様の娘を妻として迎えることになり

«Eka».

Maraindray, nikaïke amin'zao antsiva eo. Ô tototototototo!  
Ô tototototototo! Lena ñany iaby olo an-tanà eñy. «Lha avy eo  
amin'zao. Amoriako anareo, ho ie ampanjaka iñy,  
Kelimahihitse ho vinantoko, ho vali'e anak'ampelako ô. Zay  
amoriako anareo ô. Fa drala io, io hañavita anak'ampelako fa  
tsy ameako azy noho hiveloman-drozy. Fa vali'e  
anak'ampelako ô Kelimahihitse, ambaràko anareo. Fa naiëky  
Kelimahihitse». Fa natao ty fomban-drozy fanambalia. Vali'e  
Kelimahihitse, anak'ampela'e ampanjaka iñy.

«Ka, iha lehe roa, ami'e be sy ny maro atoy, olo maro atoy  
eto, ambarao amin'zay añara'ao tsokotsoko ô reñy, ho haiñ-olo  
noho haïko». «Añara'e tsokotsoko raïke aloha ato toy, vola  
mahafaty tsy ambarà valy. Ie kay lehe raha nahazo henanik'io».

«Laha zaho tokony ho nimaty fe olobe an-tanà raïke ato toy,  
olobe an-tanà tsy atao hala. Laha tsy ni-olobe reñy ataoko fa  
nimaty. Vola mahafaty tsy ambarà valy io, valiko ho namono  
ahy. Mbo tsy hai'e raha zao, fa ie ro nivola azy. Olobe an-tanà  
olo soa. Tsy atao hala ty olobe an-tanà, zay añara'e  
tsokotsokoko raïke».

«Ka ty añara'e tsokotsoko raïke toy fa ia?» «Añara'e  
tsokotsokoko raïke io, ana-baly, ho ie, tsy anake loatse». «Â,  
kay lehe, manao akory?» «Rehe iñy tsy raha anako fa anak'olo.  
Fe zaho nanambaly ainy neni'e ajà toy. Zay atao hoe ana-baly  
tsy anake loatse. Zay atao hoe vola mahafaty, ho ie, tsy ambarà  
valy».

ましたよ。」「本当か？ それでよいのか？」「もちろん。」「そうか。」

次の朝、法螺貝が鳴りました。オートトトトトトト！ オートトトトトトト！ 町じゅうの人たちが耳にしました。「皆の者、集まったか。おまえたちに集まってもらったのは、」王様は言いました。「とんち坊やをわしの婿にする。娘と結婚させる。それで集まってもらったのだ。祝儀の貨幣は式に使うのであって、生活費になるのではない。とんち坊やをわしの娘の婿に迎える、それが告知だ。とんち坊やは承諾した。」結婚の式次第が済みました。こうして、王様の娘はとんち坊やのお嫁さんになったのです。

「婿殿、人々がこうしてたくさんいるのはよい機会だ、おまえの前髪の意味を聞かせてもらえまいか？ 人びとも知れわたるし、わしも知りたい。」「前のほうにあるこの前髪は、『死に到らしむる言葉、連れあいにも漏らすなかれ』という意味です。考えてみれば、このことが発端で現在に到ったのです。」

「わたしはいま、死んでもおかしくない（ほど運が悪かった）のですが、ここにいる町の年長者のひとりが見捨てず助けてくれたのです。（されこうべ探しに同行したのが）彼ら年長者でなかったら、わたしは死んでいたでしょう。『死に到らしむる言葉、連れあいにも漏らすなかれ』というのは、妻がわたしを殺そうとしたということです。まだ知りもしないことを喋ったのですから。（反対に）町の年長者はよい人たちです。『町の年長者が見捨てることはない』これが二つめの前髪の意味です。」

「もうひとつの前髪の意味は？」「わたしのもうひとつの前髪の意味は『連れあいの子は真の子にあらず』です。」「なんと、どういうことだ？」「この子はわたしの子でなく人の子です。わ



Zay lehe tantara, tapasiry mikasika ami'e Kelimahihitse Tsokotsokotelo. Tsy zaho ro mabandy fa olobe taloha. Timpaha ty sakoa laha mionga.

(Le 25 février 2014, Ny mpitantara: Zarosy, 53 tao, johary)

たしは、この子の母親と再婚しました。そうした子を『連れあいの子』『真の子でない子』というわけです。『死に到らしむる言葉、連れあいにも漏らすなかれ』（と同じく、連れあいを信用するなという戒め）というわけです。

お話はおしまいです。「三つ前髪のとんち坊や」というタパシリでした。間違いがあつたら、わたしでなく昔の人のせい。サクア（果樹）が傾いていたら、蹴っとばせい。

（2014年2月25日採話、語り手：ザルシー、53歳男性）

## 2. LOLOELA NOHO LOLOVAO

Eo olo reo. La eo olo reo, misy marary, olo raike amindrozy. Taloha, tsy nisy lôpitaly, nanao taha gasy avao. La manao taha gasy avao olo reo taloha reo, narary io nitsipike. Ie mitsipike io, nataondrozy fa maty ka naria'e bendrozy. Niasà an-kazo, finira ty hazo. Vita asa, naria.

Reo nañamboho, nivokatse baka an-dolo ainy. Avy maha-aly azy, avy olo naria'e iiny. «Nareo ato? Nareo ato?» «Ia zao?» «A, zaho. Zaho mosarè». «Â, mandehana iha, fa zaho tsy mila anareo fa iha olo faty an-dolo ainy. Ka ze tanomba'ao andehanà'ao». Nandeha nivezivezy aminy amonto ô. La ainy iiny. Lany biby ainy.

Nisy koa tanà ze mba añ-ilañila'e koa. Narary koa, mbo manao hoy zao avao. Nitsipike iiny, fa naria narembe. Iasàn-kazo, aria. Ny olo fa nitsipike arembe, isasan-kazo fa tsy mifoha. Ainy voho nifoha an-dolo ainy. Bak'ao, namonjy ty longo einy koa. «Â, nareo ato?» «Ia zao?» «Â, zaho». «Â, mandehana iha, iha olo faty an-dolo ainy. Ka zahay tsy mila anao ka mandehana ze tananbanao». «Nareo longoko ô, handroake ahy?» Tsy mivola ty an-tsano ao. «Eka lehe, fa soa, ho ie, fa reko safà-nareo». Zao.

Nandeha ie. Nivezivezy koa. Nifankahita rozy ami'e raike iiny taloha toy. «Â, iha lehe, Lolovao! Â, iha ro namako,

## 2. ケダモノとヒトモノ

ある人たちがおりました。その人たちのところで、病人が出ました。昔は病院がありません。民間療法だけでした。民間療法だけでしたから、その病人は気を失いました。周りの人たちはその人が死んだと思い、年長者が葬りました。木を伐って棺桶を作りました。葬儀が終わって、葬りました。

墓場へ行きました。病人は、墓場から出てきました。夜になり、葬られた人が帰ってきました。「ごめんください。ごめんください。」「はい、どなた?」「わたしだよ。お腹が減ったよ。」「帰ってくるなよ。あんたに用はないよ、墓場で横になった死人なんだからね。どこでも好きなどころへ行くがいい。」「しかたなくたち去り、外をうろうろしておりました。そしてケダモノになりました。森に棲むケダモノになったのです。

その近くに別の村がありました。病人が出て、もうひとつの村と同じことが起こりました。気を失って、息を吹きかえさなのまま葬られました。棺桶を作って葬りました。気を失ったまま息を吹きかえさなかったので棺桶を作りましたが、目を覚ましませんでした。墓場へ送られてから目を覚ましました。それで、村の家族のところへ帰りました。「ごめんください。」「どなた?」「わたしだよ。」「帰ってくるなよ、墓場の死人は。あんたには用がないからたち去りなさい。」「家族なのにおれを追いだすのか?」家の者は口をききませんでした。「わかったよ。おまえらの話はよくわかった。」

iha». Fa fivolaïña iraiky io taloha fa mihabiby. «Iha namako». «Nama'ao?» «Eh, namako», ho ie. «Eh, â, zaho lehe namanao koa, io lehe Loloela?» «Eh». Nifanome anara rozy roe. Raike manao Lolovao, raike manao Loloela.

Lasa rozy naïña-aï-ala, lasa. Raike mbo mahihitse toy nitarike mamonjy baibò. Hanteandrozy manga zao la masake la atao ino. La eo rozy. La nitsongo. La nihina voan'ny manga eo mbo antoandro ô. Homby homa eo Lolovao, manenty olo, ka raike toy homa iïny mihohoke, hentean' olo ity. «Loloela, Loloela!» «Eh?» «Tsika handeha tse».

Nandeha rozy aï-ivo'e ala, vitsavitsaï-ala zao aï-ivo eo. Nietake eïny rozy. «Â ka lehe», iasàn'ny tompon'ny manga reïny, «fanihy vako famaky reo avao ro iïny, mitolo ami'e mangako toy io», ho ie. «Engao ie, angalàko pira, angalà kobay aïny, amofohako rozy aïabo etoy». La nandeha ie noly. Ie avy aïny. «Ndrarahy, atorotorò'e mangatsika eo, atorotorò'e fanihy reo. Zaho fa hiamby aïny tse».

Lafa harivariva, ie, harivariva, ie naïeny. La aï-ala aïny, aïabo ty manga, aïaboabo ty itsongoandrozy io. «La tinankali'e nanao hoy zao narinike, homby biby. Â, ataoko fanihy io. lehe, fa tsy raha hafa, homby biby. Â, maty aho», ho ie. Misizike rozy bak'eo. «Mm.....! Mantsimantsy olo zao!» «Aia olo, hitanao eo?» «Mm.....! Ie bebe, atao zao bebe». Tsy hitandrozy reïny. Lasa rozy, lasa rozy, lasa rozy. La nitsongo manga. Rozy nitsongo manga manao ho io, manao ho io. Niampake nahoda eïny aïabo amy manga iïny

そこをたち去り、さまよいました。そして、先に家族に見捨てられた死人と出会いました。「やあ、ヒトモノ！ きみがぼくの友だちだ。」最初の死人の言葉は、ケダモノになりつつありました。「きみはぼくの友だちだ。」「友だちだって？」「友だちだとも。」「じゃあぼくはきみの友だちだ。そうだねケダモノ？」「そうだよ。」互いに呼び名を与えました。一人はヒトモノ、一人はケダモノと名乗ることになりました。

彼らは森に行きました。まだ賢いほうの死人（ヒトモノ）が道案内をして、畑に行きました。熟してどっさりあるマンゴーの実を見つけました。そこにとどまり、もぎはじめました。まだ昼間でしたが、マンゴーの実を食べました。食べながら、ヒトモノは人に気づきました。四つん這いのもう一人（ケダモノ）は人に見つかりました。「ケダモノ、ケダモノ！」「何？」「そろそろ行こう。」

彼らは森の奥へ行きました。奥の藪のほうへ。そこで身を隠しました。「ちくしょう。」とマンゴーの樹の持ち主は言いました。「コウモリめ、とっちめてやる。大事なマンゴーを食いあらしおって。見ている、パチンコもあるぞ、鞭もあるぞ。上に逃げても叩きのめしてやる。」そう言って帰りました。家に着きました。「おい母さん、うちのマンゴーが台無しだ。コウモリのせいで台無しだ。畑で見張っていてやるう。」

夕方近くになって、畑へ行きました。森の奥のほうに、大きなマンゴーの樹がありました。その高いところが実をもぐ場所でした。「こうやって近くで見ると、獣だな。コウモリだと思っていたが、そうじゃないぞ、獣だ。してやられた。」二人が近づいてきました。「フムムム！ 人の匂いがするぞ！」「どこに？ 見えたのか？」「フムムムム！ 年寄りだ、たぶん年寄りだな。」

ao. Nitsipike. Matahotse. Homa rozy. Namanimany nahoda eo bak'ao, latsake an-dambosi'e Loloela ao. «Hnn...! Raraka». Manao rarake tsy mianja fa mihohoke. «Rarake ty ranon'ora. Rarake ny ora». «Â rarake?» «Eh, rarake». «Eh?» Mbo homa rozy. Ie manenty rehe iñy Loloela. Nikarakavotsake nahoda an-dambosi'e Loloela, fa nifisake Loloela. Nolay nahoda iñy naña-an-tanà, nolay biby reto naña-añ-ala.

Lasa rozy naña-añ-ala, lasa rozy naña-añ-ala. Nalà'e nama'e iñy koa. Finila'e hazo, finila'e ty rỳ. Tsy nitolike. Finila'e rỳ, tany avao nañinana. Dehidehy ie, lavitse ie. Ao rozy finanzo'e nama iñy. «Iha nañino, iha nañino? Â maty aho finilampila'e nahoda bak'ao ty, â nahoda, maty aho finilampila'e bak'ao ho nañaly ho namombo». Homby nama iñy namango azy. «Tsika handeha». Nandeha rozy namonjy baibò zao. Maty havozara. Nandrinandry rozy fa vaky andro. Vaky. Vaky ty andro, namonjy baibò zao rozy.

Nandrinandry manao hoy io. Rozy nandry miankohoke. Ka kihon' itoy mahazo vaha'e balahazo ô. Balahazo ô niboake amonto. Mahazo vahan'ny balahazo ô kiho iñy. Ka vokary Lolovao amin' zao. Balahazo iñy folafa'e, hofasa'e, hani'e. «Lehe, Lolovao iñy, ino raha bak'aia koa nihita'ao iñy? Hany mamono moa io?» «Halio! Raha io mamano io?» «Hâ. La tsy haiko le roa. Anomeza aña, Lolovao». «Toy!» Hany ie. Hani'e raike holi'e. «Mañino ñahy io manao ho io? Anao foty io». «Ie henanik' io, hano!» Nohoma raike iñy. Toy mañofa, raike mbo olo toy. Mia Mia. Homby homa

でも見えませんでした。二人はどンドン行きました。マンゴーの実をもぎました。こうやって、こんな風にして実をもぎました。樹の持ち主は、マンゴーの樹の上で気を失ってしまいました。起きません。怖かったのです。二人は食べつづけました。樹の持ち主は失禁し、ケダモノの背中にしたたりました。「むむ？ 降ってきた。」四つん這いで仰ぎみられなかったので、雨が降ったと思ったのです。「雨が降ってきたぞ。」「降ってきた？」「うん、降ってきた。」「そうかな？」まだ食べつづけました。ケダモノは降ってくるものを見つめました。樹の持ち主が、ケダモノの背中へどさっと落ちてきて、ケダモノは飛びのきました。樹の持ち主は、村まで走って逃げました。ケダモノたちは森へ逃げこみました。

二人は森へ走りつづけました。ふり返りませんでした。(ケダモノは) 相棒(ヒトモノ) に追いかけられました。棒で鞭打たれつづけました。でもふり返りませんでした。鞭打たれつづけて、東へ走りました。気づかず遠くまで行きました。とうとう相棒(ヒトモノ) が追い越しました。「おい、どうしたんだ？」「ひどい目に会ったよ、途中からここまで鞭打たれて。ひどい目に会ったよ、途中からここまで鞭打たれて、気絶しそうだった。」じっさいに鞭打ったのは、相棒(ヒトモノ) だったのですが。「さあ行こう。」二人は畑へ行きました。死ぬほど疲れておりました。横になって夜が明けました。朝です。朝になってから、畑に入りました。

二人はこうやって横になっていました。うつ伏せていたのです。(体を支える) 肘が(地面をえぐって) マニオクイモの根にひっかかりました。マニオクイモが外に出てきました。肘がマニオクイモにひっかかったのです。ヒトモノは土を掘りはじめ



balalazo ô manenty olo. Hentea ty tompom-boly ty. «Tsika tsy handeha? Tsika tsy handeha?» Nandeha rozy, nandeha rozy aňaty ala iňy. Petsake tse toy.

«Â lehe», iasà'e le tompon-boly, «là lambo fatsihiko famaky reo avao lehe, ho ie, nihina ami'e hany retia balahazoko toy io. Hangalake kobay iao, hengalake lefo hamonoa androzy. Handay antsoro reo fa famandrihako azy, falako reto avao, ie mandany balahazoko, soa ho tsy hita'e biby reo». Tinampa'e tobotoboň-ala zao, lehe, noho koa mbaroa an'reo aňivoňivo eo. Hinaly ami'e aňivo ala ho mban-drozy io lavake io. La maňemoke olo lavake io nihalia'e tompom-boly iňy. Famandriha'e lambo ô. Nasia akata ie io. Niempake ami'zay, tompon-boly iňy, fa antoandro rehe eo. Hiamby lambo reo bak'ao harivariva.

Ie nietake hentea raha reo ka. «Â, io lehe biby, ho ie, ataoko raha lambo ô!» Mandeha amity laly raike ty. Mandeha raike, Lolovao, aloha, afara ato Loloela. Sinoka'e lavake misy akata eo. Sinoka manao hoy io. Narindry soa, niary mbato, nitsanga ato. «Lolovao, mandehàna malaky, manao mandehàna malaky!» Ie fa tsy raha mbo nanenty. Nikapike tompom-boly aňabo teňy aň-ala eňy. Ie nietake . La ie io bak'ao afara eňy tsy raha mbo nanenty fa nandika lavake avao, zorofo ô, Loloela. «Ao ka. Ao. Linendy». Nolay raike iňy naňa-aň-ala roy. Naňaň-olotse ala raha io fa misy alaala misy androzy lavake io. «Vonò marè, nahoda! Vonò mare! Fa ie avao ro nandany balahazo'ao, vonò mare! Vonò mare!» Nahoda iňy zao mandendike azy eo.

ました。根をもいで、皮を剥いて、食べました。「ねえヒトモノ、それどこにあったの、どこで見つけたの？ 毒じゃない？」「掘ってごらんよ。毒なものか。」「んー、うまくできないよう。」ヒトモノは（マニオクイモをひとつ）与えました。「ほら！」（ケダモノは）食べました。皮まで食べました。「どうしてぼくのやつはこんな色なんだろう？ きみのは白いよね。」「いいからそのまま食べよ。」ケダモノはそのまま食べました。もうひとりのまだ獣になりきっていないほう（ヒトモノ）は、皮を剥きました。もぐもぐ。もぐもぐ。なんと、マニオクイモを食べていると、人が見えました。畑の持ち主です。「そろそろ行かないか？ そろそろ行かないか？」二人はたち去りました。森のなかへ入っていきました。そしてひと休みしました。

「ちくしょう。」畑の持ち主は言いました。「イノシシめ、頭を斧でかち割ってやる。大事なマニオクイモを食いあらしおって。鞭もあるぞ。一撃で殺す槍もあるぞ。落とし罠を作るためにシャベルも持って来よう。マニオクイモを持ち去った相手は群れのようなだから、落とし罠が見つからなくていいだろう。」藪を伐って、奥のほうのあちこちに罠を作りました。彼らの通りそうな藪のまん中に穴を掘りました。畑の持ち主が掘ったのは、人が一人入るくらいの深い穴でした。イノシシを捕るための罠でした。草で隠しました。まだ昼間でしたが、畑の持ち主は隠れて待ちました。夕方になってイノシシが来るのを待つことにしました。

見張りをしながら、待ちました。「おや獣だ。イノシシだと思っていたが！」いっぽうは四つん這いでした。もういっぽうのヒトモノは前を歩いていて、ケダモノが後をついてきました。草をどけて、穴の口を開けました。こうやって開けました。も

Matahotse. Atao'e raha hañeañ-azy raike roy. Linendi'e nahoda eñy, linendike mañabo mañabo biby iñy eo. Linendy nañabo nañabo iao. Linendy nañañabo nañañabo iao. Laha nivotinga bak'ao rozy ro nolay amin'zao, â, finilampila indraike, nañinaña. Finilampila'e. Tany avao biby iñy nañinaña. Finilampila'e. Ie aloha vinango'e nama'e. «Nañino?» «Â, masiake zao, masiake zao!» Ao rozy.

Tsofotse ty andro. Miroro. Vaky ty andro, ie nandeha rozy namonjy baibò zao. Tinarihi'e Lolovao namonjy raha hoy zao koa. Nifankadodry ty toetr'aomby rozy. Hantea aomby soavily avao. Aomby lahy, aomby vavy manday anake. «Asa lehe Lolovao». Lolovao mahavaka fa Loloela io atahora'e. «Tingino», iasà'e Lolovao, «lahy io ro soa, ho ie, ny ilàko ho ravà amiko soa vavy io ho ahy koa». Zao. Io. «Â, nao lehe Lolovao, ty ravà ka ie ñanao». «N?, Nh. Io koa ho anao, io bebe zao». «Ataoko bebe zao, ze bebe io ty ñahy ty». «Â, ingo, ingo, ingo. Ingo. Andeso ho anao». Vinonjy lehe Lolovao raike misy ronono ô. Nalàny ty laloasy. Finehe'e ty tomboñ-aomby mampinono. Nama'e tarabao mbo eo. «Atea iao Lolovao». Loloela tarihiny la tañañ-aomby iñy. Ronono'e tsy nandeha. «Nañino moa añaio, añaio misera raha bevata manahak'ty tsy mandeha?» Eh... «Â, iha manahak'io, ho ie, ataovo manahak'io, mañohatse azy hehery, ho ie, soa handeha». La kinati'e nihehery latak'aomby iñy. La finimpa aomby iñy, voatsatsy. «Hoah, ha, ha, ha.... Masiatsiake lehe roa mbeo. Masiatsiake». Homehy nama'e iñy roy, nitolo ronono ô. Ao.

う一度草をかぶせて、穴をよけて傍らに立ちました。「ヒトモノよ、早く行けよ、早く行けよ！」ケダモノはよく見ていませんでした。畑の持ち主は、内陸の森のほうに隠れていました。後ろからついてくるほうは、よく注意せずに落とし穴をめざして行きます。ケダモノは穴に落ちました。「やった、はまった！」落ちなかったほうは森のほうへ逃げていきました。森が彼らの住みかだったので、そっちへ逃げたのです。「とっちめせ、地主さん！ 殺してしまえ！ マニオクイモをみんな盗ったのはそいつだ！ 殺せ！」地主さんは、上から土をかぶせました。もういっぽうが助けにくると思い、怖くなったのです。ケダモノは地主さんに埋められそうになりながら、上へ上へと這いあがってきます。這いあがってきます。這いあがってきます。(ヒトモノが) 走って横切ったとき、(ケダモノも) 逃げだしました。またもや鞭打たれながら、東のほうへ。鞭打たれながら。獣の住みかは東のほうなのです。鞭打たれながら。前を走るほう(ケダモノ)は相棒(ヒトモノ)に打たれていたのです。「どうした？」「ひどくやられたなあ、ひどくやられたなあ！」

日が暮れました。眠りました。夜が明けて、彼らは畑に行きました。今までのように、ヒトモノが先に立って行くと、牧草地にいき遭いました。繁殖用のウシばかりでした。種雄牛。仔ウシを連れた繁殖雌牛。「すごいな、ヒトモノ。」ヒトモノはウシを怖がっていますが、ケダモノはウシに怖がられています。「去勢牛を選べよ。」とヒトモノが言いました。「オスのほうがよいからね。でもぼくが好きなほうはきみにあげて、ぼくはメスのほうをもらおう。」「じゃあヒトモノ、これはきみにあげることにしよう。」「ん？ ああ。じゃあきみのは大きいやつ(去勢牛)だ。」「(ぼくは年長だから) 大きいやつをいただくよ。」「き

«Â, ñahy io lehe misera, atao'ao ino, Lolovao, toy?» Nalà'e ty laloasy maranitse rehe toy. Nalà latake aomby io, manao ho io eo. Tombohy io zay, voho natao manao ho io. Laha nalà'e Loloela raha maranitse ie, natsibo ami'e lata'e iñy raha maranitse iñy, linatsa'e aomby timpake la, la am-bava, la nitsipike. La maty ty hehy Lolovao ie roa, ie fa miaiay ronono.

Â, bakeo rozy hentea'e tompoiñ-aomby ty. «Tsika handeha, tsika handeha. Engao añy tse reo». Nandeha rozy, lasa. Lasa rozy, lasa rozy, fa añy rozy nahita bengy koa. Lafa nahita bengy rozy zao, alà bengy. Ta-hihina ati'e bengy zao rozy. Fehezen-drozy Lolovao toambo'e bengy iñy. Nitsofotsofo fori'e iñy. Hinadoke Lolovao nañañy ty taña iñy nangalakan-kena, nahazo kambinati'e, nihina ie. Tavela Loloela manenty homa io avao. «Nh, zaho koa mba ameo moa. Iha mahazo, zaho tsy mahazo». «Io. Ao, ho anao koa ie». Nitsofotsofo koa raha reiñy. «Ie ro homanà ho anao toy». Nailly nañañy ty loha'e. La nailly nañañy loha'e iñy, piñirike Lolovao nanentintenty fori'e bengy iñy. Nitimpatimpake Loloela. Nitimpatimpake, namanimanike, nangetongetotse. Nitimpatimpake. «Ha!» Ie namombo. Ie nampitso'e lehe reo Lolovao iñy. Tinarihi'e loha iñy, la namombo. La niboselaboselake ty maso'e ty aiay.

«Zaho moa teñao ho maty? Laha tsy teñao ho maty, tsy nataoñao manahake toy! Halako namako toy. Handeha avao hamono fo lafa zaho tanambanao io. Hamono fo aho, mamono fo». Nandeha rozy, nandeha rozy, nandeha rozy.

みのはほら、ほら、ほら、ほら！ そいつがきみのだ。」ヒトモノは、乳が豊かな雌牛のところへ行きました。サイザルの葉を取り（その繊維を使って）、乳牛の脚を縛りました。仔牛はまだそばにいます。「ちょっと見てよ、ヒトモノ。」ケダモノはウシの脚を引っばりましたが、乳が出ません。「どうしてこっちはこうなんだ？ せっかくこんなに大きいのに乳が出ないなんて？」

「こうするんだよ。乳が出るように、こうやって嘔んでみろよ。」ケダモノは雄牛のペニスに嘔みつきました。雄牛は驚いて暴れ、（足がケダモノに）命中しました。「いてて！ ひどくやられたなあ、ひどくやられたなあ！」相棒は笑いながら乳を飲んでいました。「ぼくのはうまくいかないなあ。ヒトモノ、きみはどうやっているんだ？」（ヒトモノのそばにあった）サイザルの尖った葉をとり上げました。そして、こんな風に雄牛のペニスを手に取りました。突いてこのようにしました。尖ったそれをケダモノが取ってペニスを突くと、ウシはケダモノのあごに蹴りを入れました。ケダモノは気を失いました。ヒトモノはそれを見て死にそうなほど笑い、牛乳をぐくぐく飲みました。

やがて二人は、ウシの持ち主に見つかりました。「そろそろ行こう。そろそろ行こう。そいつは放っとけ。」たち去りました。ずっと行ったとき、ヤギを見つけました。ヤギを見つけるとさらいました。ヤギの脚をヒトモノが縛り、尻から息を吹きこみました。そして手を奥のほうに突っこんで肉をとり出しました。肝臓の一部が出てきたので食べました。ヒトモノが食べるところを、ケダモノはじっと見ていました。「ねえ、ぼくにもおくれよ。きみは十分だろう、ぼくはまだ食べていない。」「きみの分もまだ残っているよ。」同じように尻から息を吹きこみました。「そいつを食えよ。」頭を（尻から）突っこみました。ケダモノ

«Ha, iha zao Loloela hañaia?» «Zaho hamono fo, iha hamono ahy hatao ino? Hamono fo aho». Nandeha rozy, nandeha rozy, nandeha rozy.

La ie nahita lolo zao rozy ie. Novakovaña'e. «Zaho hamono fo». La mandry mantsilañy añaty ampañivoa'e lolo eo aminy vato eo, añabo eo la maty. Nieritseritse koa nama'e toy. «Â zaho lahe hañaia koa? Namako lehe maty, fa zaho lehe hañaia aña? Â handeha koa ami'e hamono fo». Novakovañy koa añ-ila'e, niampake koa la, nimaty rozy roa, rozy mpinama. Maty amin'zao rozy. Eo. Tsy zaho ro navandy fa olobe taloha. Tinimpako ty sakoa la nigoangoa.

(Le 3 mars 2014, Ny mpitantara: Pasikò, 54 tao, johary)

はヤギの尻で締めつけられて、ひどく蹴られました。ひどく蹴られただけでなく、ひどく放尿され、ひどく放屁されました。したたかに蹴られました。「ひい！」気を失ってしまいました。ヒトモノがヤギを押さえつけて、ケダモノの頭をひっこ抜きました。気をとり戻したとき、(ケダモノは)目をぱちくりさせました。

「おれを死なせるつもりだったのか？ 死なせたくないなら、こんなことしないよな！ おまえなんか友だちじゃない。おまえの気に入った場所で自殺してやる。自殺するんだぞ、自殺。」ずっとずっとずっと歩いて行きました。「おいケダモノ、どこまで行くんだ？」「自殺するんだよ。おれを殺そうとしたおまえには関係ないだろ。おれは自殺するんだよ。」ずっとずっとずっと歩いて行きました。

彼らは墓場を見つけました。敷地の石をとり除きました。「自殺するよ。」墓場の中心にある石積みの上に、仰向けに横たわりました。死にました。相棒はためらいました。「これからどこへ行こう？ 相棒が死んだらどこへ行けばいいだろう？ やっぱり自殺して相棒の所へ行こう。」そばの敷地の石をとり除きました。同じように仰向けになって、友だちだった二人はそろって死んでしまいました。死んでしまっておしまいです。間違いがあったら、昔の人のせい。サクア(果樹)が溢れていたら、蹴っとばせい。

(2014年3月3日採話、語り手：パシコー、54歳男性)



### 3. TABALAKE NOHO ALIKA

Eo vorobe eo. La eo vorobe io mañatoly. Vorobe tsy maro fa raike avao. Hazo iteraha'e io koa raike avao fa tsy raha misy tañataña'e fa raike mitsanga añabo añabo avao. Añabo eo misy taña amin' zay. Vorobe la bevata tokoa. Eh zao. La eñy añabo eo vorobe iñy, ami'e hazo añabo eñy, eñy, eñy, eñy, laloake ty andro mbo eñy avao ie. Laloake ty andro, sabo'e fa efatra andro, ie takalira'e ty alike añabo eñy, vorobe iñy. Fa ie nanontany. «Nao lehe vorobe, ho ie, ino avao atao añabo eo io?» «Â zaho lehe, ho ie, mañatoly zaho etoy ho ie, mba mamana», ho ie. Eh jery alike iñy tsy nahoa'e handeha eñy tseke. Nañañy.

Nandeha ty alika, nandeha, nandeha. Ie mbo tsy nilefy eñy, mba nimpoly indraike. Nanonteny indraike. «Nareo, ho ie, vorobe io mbo atoy avao?» «Â, zahay mbo etoy avao fa mañantoly, ho ie, mamana atoly mbeto, ho ie, aho». «Eh?» Nandeha indreike, nandeha, nandeha, añy indraike. Tsy raha lefy añy fa nimpoly indraike bak'ao. Nanontany indraike. «Â, iha lehe mbo eñy avao va?»

«Â, zaho lehe mañatoly, ho ie, ka io. Manahake atoliko toy añabo toy io». «Ndra lehe mba amezo bak'ao tse», ho ie. «Â ataoko taranake, ino ty ilà'ao?» ho ie. «Â, zaho lehe

### 3. ネコとイヌ

大きな鳥がおりました。卵を産んでおりました。たくさんではなく、一羽だけです。産卵していた樹も一本だけで、枝はほとんどなく、上へ上へと延びておりました。上のほうに枝がありました。大きな鳥は、まったく巨大でした。大きな鳥はずっと上のほう、樹の上のほうに居て、何日経ってもずっとそこにおりました。何日か経って、四日くらいでしょうか、イヌが大きな鳥を遠くから見つけました。イヌが尋ねました。「ねえ、大きな鳥さん、上のほうで何をしているの?」「わたしは、卵を産んで温めているんですよ。」イヌは尋ねただけで、上へ行こうとはしませんでした。そしてたち去りました。

イヌはずっとずっとずっと歩きました。でもそれほど遠くないところで、もう一度ひき返しました。そしてもう一度尋ねました。「大きな鳥さん、まだそこに居るの?」「まだ居るわよ、卵を産んでいるのよ、そして卵を温めているの。」「へえ?」またたち去りました。ずっとずっと歩いて、また見えなくなりました。でもそれほど遠くないところで、またひき返しました。また尋ねました。「まだそこに居るのかい?」

「だから卵を産んでるんだってば。ほら、この卵みたいなやつ。」「じゃあひとつおくれよ。」とイヌが言いました。「まあ、子宝にするのよ、あなたはこれをどうするの?」「いいからおくれよ!」鳥はあげることになりました。卵をひとつ、上から落としました。イヌは口でくわえました。そして、舌なめずりして

anomezo bak'ao!» Nanomeza ie, nañary bak'ao atoly raïke. Tinanti'e ka... la milalamiöke mañinana, homañ-azy. La lehe ny tavin-draha ! Ny mañinaña.

Ie bak'eo ie, laloake ty andro. Nanontany indraïke. «Â, iha lehe mbo ie avao?» «Â, zaho lehe mamana ka, ho ie, atao añabo atoy io». «Ê zaho lehe anomezo bak'ao indraïke. Â, là ataoko taranak'areo tsy lany. Â anihiko iha, anihiko laha zaho tsy amea'ao». «Â toy lehe», ho ie. Nañary nañañy indraïke. La nihania'e alike eñy, nandeha alika nañinaña indraïke, nandeha, nandeha.

Ie mbo tsy nilefy fa bak'ao indraïke. «Â, nao, ho ie, vorobe, fàlako ipetsara'ao añabo toy zao? ho ie. Â raha toy lehe tsy raha asia mamaky ka ino atao'ao añabo etoy io? ho ie. Ndra lehe mba amezo indraïke». «Â, atoly fa ho lany avao fa taranako reto toy, ho ie, lani'ao, ho ie, atorotoroko anao ô». «Â iha moa lehe anihiko?» Fara'e natahotse avao vorobe, lafa ie manao ho izao anio. Lehe alika tsa hahay hañanike ka. Namea indraïke.

Fara'e tsaka reo iao. Â, baka nandeha, lafa nahazo, nandeha indraïke. Ie nandeha, avy eo koa tsaka. «Lehe vorobe, ia ro mañosa anao ato ô?» «Â lehe, alika io ro mañosa ahy ato ô». «Â, ino lehe añosa'e anao?» «Â, zaho ato, ho ie, mañatoly, ho ie, ka laha ie tsy ameaö, ho ie, zaho ho anihy». «Â, ie tsy raha amea ndra mañanike zao, fa lafa mañanike anao, ho ie, ka amea'ao ie fa evokevoha'e avao. Tsy raha mahay mañanike zao», ho ie. «Eka ho ie. Â la tô,

東（住みかの森のほう）へ行き、それを食べました。その卵の  
おいしいこと！そして東へ去りました。

それから何日か経ちました。（イヌが来て）また尋ねました。  
「大きな鳥さん、まだそこに居るの？」「だって卵を温めている  
んだもの。ずっと上のほうよ。」「また卵をおくれよ。子宝にする  
やつはたくさんあるじゃないか。よじ登っちゃうぞ、くれな  
きゃここをよじ登っちゃうぞ。」「いいわよ、ほら。」また下へ落  
としました。イヌはそれを食べて、また東のほうへ去っていき  
ました。

しかし遠くまで行かず、また返ってきました。「ねえ、大きな  
鳥さん、ずいぶん長いあいだ上にすわっているねえ？ ちっと  
も生まれぬのに、だったらまたおくれよ。」「卵がなくなっ  
ちゃうじゃないの。子宝にするのよ。手塩にかけた卵を食べつく  
されちゃうなんて！」「だったらここをよじ登ろうか？」イヌが  
こう言うと、大きな鳥は怖くなりました。イヌは樹に登れない  
んですけどね。卵をもうひとつやりました。

最後にネコが来ました。（イヌが）卵をもらって、たち去って  
からのことです。イヌがたち去ると、ネコが通りかかりました。  
「大きな鳥さん、なにかお困りのようですね？」「はい、イヌが  
わたしをいじめるんです。」「どうしていじめるんでしょう？」  
「わたしはここで卵を産んでいるんです。なのに、卵をあげな  
かったらここをよじ登ってくるって。」「登ってきても、あげて  
はいけませんよ。脅しにすぎません。なに、樹登りなんてでき  
ないんですから。」「わかったわ。まったくその通りね。樹登り  
なんてできっこないわね。」「そう、ここに來たって、卵をあげ  
てはいけませんよ。」とネコは言いました。

ho ie, la tô, ho ie. Tsy raha mahay mañanike zao», ho ie. «Eka, ho ie, ndra bak'ao ie ka amea'ao», ho iasà'e.

La nandeha tsaka, nandeha nandeha. Ie nañañabo ô, tsaka iñy. Avy eo koa ty alika. «Nao lehe mba amezo indraike lehe», ho ie. «Â lehe reto ataoko taranako ka tsy raha haiko amea anao», ho ie. «Â, iha androany anihiko, ho ie, iha». «Â anihola!», iasà'e vorobe iñy, ho ie. Là mandeha alike, mandeha, mandeha, ie sabo'e miala sabo'e 4 metra bak'eny, la natora'e bak'eñy. «Hâ, zay, ho ie, zay! Hâ, harary io androany!» «Laha zao mba ahitànao eñy? Mba ahità'ao soa?», ho ie. «La anihola», iasà'e voro reny, «anihola!»

Â, nandeha indraike, nandeha, nandeha. «Hâ, nareo, ho ie, zay mba anomezo ô, ho ie». «A», ho ie ty iasà'e vorobe iñy, «atàko taranake ka tsy azoko anomeza fa ho lany», ho ie. «Â. Iha lehe anihiko». «Â anihola», ho ie iasa'e vorombe iñy. «Hâ», ie halefa.

Lasa lavitse aña, mitsanga ami'e fotoa hazo mbeo la iantoraha'e aña io. Fara'e nanontany. «Nareo, ho ie, vorobe, ka lehe ino nahaiza'ao fisàntsika iñy io?» «Â, io nahaizako azy io, ho ie, tsaka», ho ie. «Â, nimba aia ie?» «Â, nimba antinana nimbeo», ho ie. «Eh?» Hinia'e alike reo, hinia'e mbeo, hinia'e. La hentea'e alike le tsaka ty, le tsapiky aña eo. Là aña eo ie. Eo koa alika fa tsy raha mahay mañanike. Là nipetsake eña soa eo. Nahita tandrifi'e tsaka eña soa eo, ty petsake alike la mi... mipetsake manao ipetsahan-drozy eo, manahak'a anio reo manahake miandra. La io la

ネコはたち去って、遠くへ行きました。内陸（住みかである東の森）のほうへ行きました。それからイヌが来ました。「もう一度卵をおくれよ。」「だめよ、子宝にするのよ。あなたにはあげないわ。」「なに、今日こそよじ登ってやろうか。」「よじ登ってごらん！」と大きな鳥は言いました。イヌはまず遠くまでひき下がりました。おそらく4メートルほど下がってから、とびかかりました。「いてててて！ 痛いな、ちくしょう！」「ほらごらん！ よくわかったかい？」と大きな鳥は言いました。「ここまでよじ登ってごらん！」

また遠くまで下がりました。「卵をよこせ。」とイヌは言いました。「だめよ、子宝にするのよ。なくなっちゃうからあげないわ。」「なに、よじ登っちゃうぞ。」「よじ登ってごらん。」と大きな鳥は言いました。「ちっ。」イヌは身構えました。

また遠くまで下がって、そこに見える切り株あたりの距離のところに立って、身を投げうちました。とうとうイヌは尋ねました。「大きな鳥さん、この遊び（イヌを弄ぶこと）を誰に聞いたの？」「これはね、」と大きな鳥は言いました、「ネコに聞いたのよ。」「そいつはどっちだ？」「東のほうへ行ったわよ。」「そうか！」イヌは追いかけていきました。イヌがネコを見つけたとき、上のほうにおりました。イヌもネコのところに行こうとしましたが、樹登りができません。下でじっとしておりました。ネコの姿を遠くに見つけて、あそこにすわっている人たちのようにすわっていました。ああやって、仰ぎみるように。ネコはイヌを見ると、脱糞しました。狙いを定めて、イヌの鼻先へ糞を落としたのです。

nihentea'e tsaka soa la nangery ami'e... laha nangery kalompake ami'e oro io ao.

Zay ty tantara'e alika ami'e... rozy ami'e tsaka amin'zao zay ifampihinanan-drozy henanik'io.

(Le 4 mars 2014, Ny mpitantara: Tondra, 34 tao, johary)

以上がイヌとネコの話です。だから今でも、イヌとネコは  
がみ合っているのです。

(2014年3月4日採話、語り手：トウンヂャ、34歳男性)



#### 4. TABALAKE NOHO VOALAVO

Eo karazam-biby io. La eo karazam-biby reo, noho karazam-boro koa ty ila'e. Eh, zao, karazam-biby io, kosò, piso, voalavo. Eh voro koa, ganagana, gisa, pipỳ, akoho, eo rozy ami'e tanin-drozy zao ao. Mifamory eñy rozy. Asà'e zao, «ka la ino raha havelomantsika?» «Â, tsika mbo handinidinike azy», ho ie. Â, iasà'e lehibendrozy kosò toy. «Ka ino, lehe», iasa'e ty voro zao reto, «laha sabo'e iaby reo antsika?» «Â, tsika hiasa botsy», ho ie. «Eh», ho ie. Ka nañasandrozy botsy, nañasandrozy, la nivita.

Io ami'zay botsy reo mbo tsy raha nisy ty añara'e fa botsy avao ty añara'e. Io bak'ami'e zay, «ia ty añara'e botsitsika io, ia?» «Â, iha bebe ro mahay azy». «Eh, â nareo, botsitsika ataontsika “Samby rava”». «Eh. Ndao». La nivita botsy reo nañazotso, nañazotso tan-drano eñy.

Zaran-drozy amin' zay ty plasy misy androzy iñy. Kosò io afara ao mañoitse am-dabaro ao. Akoho ô añabo ao, manenty lohariake. Nañarakarake pipỳ. La ao gana reo mba añibo reo. Gisa, piso, voalavo iñy, ambany ao fa mandima rano.

Nandeha rozy nañandrefa rozy, nilay, nilay, nilay. Eo rozy tandrefa ao ie, nivola akoho iñy ao. Nahita lohariake. «Lohariake!» Tserike kosò iñy iao. Nivola indraike akoho

#### 4. ネコとネズミ

動物が何種類もおりました。動物だけでなく、そこには鳥も何種類もおりました。動物はブタとネコとネズミ。鳥はアイガモとガチョウとシチメンチョウとニワトリ。それらが彼らの町におりました。ある日、それらが寄りあいました。「どのようにして暮らしを立てていこう？」「みんなで考えよう。」と、年長者のブタが言いました。「どうだろう、」と鳥たちが言いました、「みんなのできる仕事にしてみても？」「じゃあ帆船を作ろう。」「よし。」いっしょうけんめい作りました。いっしょうけんめい作りました。そして完成しました。

そのとき、帆船にはまだ名まえがなくて、帆船とだけ呼ばれていました。しばらくしてから誰かが言いました。「ぼくらの帆船の名まえを何としよう？」「年長者（のブタ）さん、あなたが決めてください。」「『みなおしまい（サンビラヴァ）』にしよう。」「じゃあそうしよう。」帆船が完成し、ずっとずっと沖のほうへ降ろしていきました。

それからそれぞれの持ち場を決めました。ブタは、後ろの舵のところで、操舵しました。ニワトリは、（マストの）上で、バリアリーフ（浅瀬）に近づきすぎないように見張りしました。シチメンチョウも補佐しました。アイガモはもう少し下にいました。ガチョウとネコ、ネズミは、下にいて水垢を汲むことにしました。

iñy iao, «Lohariake!» «Â, mangalokaloke», iasà'e pipỳ. «Â, mahagaga ahy», iasà'e ganagana iñy. «Igiho», iasà'e gisa iñy, «igiho». «Ameo», iasà'e tabalake iñy, «ameo», ho ie. Aia, iasà'e kosò, raha zao, aia? Â, io koa engao, ho ie, «golofò», ho ie.

Hâ, mitero indraike akoho io. «Lohariake!» «A, mangalokaloke», ho ie ty iasà'e pipỳ iñy. «Igiho», iasà'e gisa iñy, ho ie. «Mahagaga ahy», iasà'e ganagana iñy, ho ie, atao mbeo avao. «Â, ameo», iasà'e mimy io, «ameo», ho ie. La hentea'e nañandrefa, ho ie ty iasà'e kosò, «golofò». La be riake iñy namalibalike reo.

Fara'e rozy nañandrefa, noho nañambany nañambany avao koa botsy iñy. «Nao lehe», iasà'e kosò iñy, «Fa lako ino avao atao ambà anao? Raha io mipoapoake raha zao». «Â, diniho mipaipaike ami'ao mbeo avao», ho ie. Nefa botsy io loaaha io. Ha, nandeha nañandrefa, nandeha, nandeha, ka nitero amin'zay akoho iñy io. «Lohariake!» «Ha, la mangalokaloke», ho ie ty iasà'e pipỳ iñy, ho ie. «Ha, mahagaga ahy», iasà'e ganagana iñy. «Igiho», iasà'e gisa eroy, «igiho», ho ie. Noho nañambany nañambany avao raha tike, botsy iñy. «Ameo», iasà'e piso ho ie, «ameo». «Nao golofò», iasà'e kosò ô, ho ie.

Fara'e tandrify andrefa henanike, nitoke botsy, la ambany. La nañirike kosò nañañabo la nañañabo eñy. La nitily iaby vorovoro reny, la añabo eñy. Tavela voalavo ô noho tabalake iñy. Ka tabalake iñy avy añabo eñy fe la tia tsy foy io voalavo ô, atao hani'e.



Fara'e nivola voalavo. Lasa nandeha tabalake io, io roa ie, nivola voalavo iñy. «Uee, mimy ê, mimy ê!», kaihi'e mbeo, «lafa eo añabo fa hani'ao!» «Eh?» «Eh». «Ndao». La nañañy ty voalavo, la, an-dambosi'e tabalake iñy eo. La nandesy, la nandesy, la añabo eñy.

Ie añabo eñy, fa tinendri'e tabalake an-dambosy, ie fa ta-hihina ka. «Â, iha lehe rao, mimy, ataoko raha ñaña? Zaho mbo lélé, laha haniao, tsy manjitijitike an-ki'ao iñy?» «Eh? Â, lafa izao ka ndao hitanitany tse». «Iha», iasà'e voalavo, «fa ta-hihina marè?» «Â, zaho ta-hihina ho aho». «Lafa izao, ho ie, zaho, ho ie, hikalo zalometry an-tanà aroy ka iha milaña katà». Mimy zao mila katà. Voalavo iñy nikalo zalometry soa halaky maike.

Ka namolake katà mimy iñy, namolake katà mimy iñy. La tsofahi'e soño reo fori'e mimy, tsy raha mbo mañeñy. Ie lehe fa ta-hihina marè ka. Homby manao mikalo zalometry io, nihaly lavake. Nihaly lavake voalavo io, nihaly lavake.

Ie bak'ao, tabalake iñy, nanday katà ie. «Manao akory tsika, fa rehety amin'zay va?» «Â, tsy tsaha rehety fa engao maro soa voho rehety soa halaky maike». «Eh?», ho ie. Nila indraike, nila indraike. Niasa nihaly lavake avao iato. Nihaly lavake ie, laly soa, nipetsake añabo lavake iñy eo.

La ny bak'ami'e zay, tabalake iñy bak'ao. «Nao akory, ho ie, tsy rehety amin'zay va?» «Â, rehety amin'zao», ho ie. La nirehety, la nibe. Ie bak'ami'e zay, ie... «Â, asio fara'e aroy reo, ho ie, soa hoy zao maiky soa», ho ie. Mandeha tabalake iñy, nila indraike, nandeha, nandeha, nandeha. Nihaly lavake

空に舞いあがりました。ネズミとネコが残されました。ネコは水面にたどり着いたので、死にたくないネズミは、ネコの餌になる（と言ってネコをだます）ことにしました。

ネズミは声を上げました。「ネコさん、ネコさん！」と呼びよせました。「陸にたどり着いたら、餌になってあげますよ！」「本当か？」「本当ですよ。」「そうか。」ネズミは、ネコの背中まで泳ぎきりました。ネコの背に乗って、ずっとずっと運ばれて、陸に上がりました。

陸に上がると、ネコは背中に手を伸ばして、ネズミをつまんで食べようとしてました。ネコはネズミを食べたくてしかたなかったのです。「ネコさん、きみはどうやらあまり頭がよくないようだねえ。ぼくは濡れネズミなんだよ。食べたら歯にまわりついておいしくないじゃないか？」「そうかな？ だったら体を乾かせよ。」「あんたは食べたくてしかたないようだね？」「あたり前だろう。」「だったら町に行ってマッチを買ってきてやるよ。きみは薪を集めておいで。」ネコは薪拾いに行きました。「ネズミは、早く体が乾くようにマッチを買いに行ったよ。」とネコは言いました。

ネコはいっしょうけんめい薪を集めました。尻に棘がささっていたので、遠くまでは行きませんでした。それほど食べたくてしかたなかったのです。おや、マッチを買いに行くと書いていたのに（ネズミは）穴を掘っています。ネズミはいっしょうけんめい穴を掘りました。

ネコが薪を運んできました。「どうだい、そろそろ火はついたか？」「まだつかないよ。早く乾くよう、火が大きくなるよう、たくさん薪を集めておいでよ。」「そうかい？」とネコは言いました。またいっしょうけんめい薪を集めました。薪の近くでは、

avao iato raha iñy, voalavo ô.

Ie, tabalake iñy, fa nanday iñy bak'ao indraike, sabo'e ho nariny. «Â, zaho ato fa maike!» La ie nitsingitsingy añabo lavake, la natoraha'e tabalake iñy azy, la ravo. Mba nilitse iñy mba an-davake eo, la ravo.

Zay tantara'e ty raha henanike... voalavo noho tabalake zay, fifampikiniandrozy henanik'io ô. Manao akory moa, tabalake reo noho voalavo reo henany io? Tsy mifampihina? (Mifampikinike henanik'zao voalavo noho tabalake.) Tinimpake ty sakoa la nigoangoa. Tinimpako ty vata nahitako drala zato. Tinimpako bolobolo nahitako drala folo.

(Le 3 mars 2014, Ny mpitantara: Tondra, 34 tao, johary)

(ネズミが) 穴ばかり掘っています。じゅうぶん深い穴を掘って、そのそばにすわりました。

それからまたネコが帰ってきました。「どうだい、まだ火はつかないか?」「ああ、ついたよ。」とネズミは言いました。火がついて大きくなっています。それからネズミは言いました。「これで最後だ、もう少し薪を足しておくれ。早く乾くよう、火が小さくならないよう。」ネコはたち去りました。もう一度薪を集めるため、ずっと遠くへ行きました。ネズミは穴ばかり掘っていました。

ネコがまた薪を運んで戻りました。すぐ近くまで来ました。「ぼくはもう乾いたよ!」ネズミは穴の縁にしゃがみこんでいました。ネコが石を投げつけると、落ちてしまいました。穴に入って見えなくなっていました。

以上がネズミとネコのお話です。だから今でも、彼らはいがみあっています。どうです、今のネコとネズミは? いがみあっていませんか? (ネズミとネコはいがみあっているね。) サクア (果樹) が溢れていたなら、蹴つとばせい。幹を蹴つとばしたら、100 円拾った。プルプル (雑草) を蹴つとばしたら、10 円拾った。

(2014年3月3日採話、語り手：トウンヂャ、34歳男性)



## 5. BERE NOHO MARTO

Tantara atàko androany, tantaran'ny tapasiry, <berè noho martò>. Eh, tsy ino moa anovako tapasiry fa, eh, misy longo avy, mila tantara, mila tapasiry. Eh, ny longo avy ho omea tapasiry “berè noho martò”, Taku. Tsy ino moa anova ny tapasiry “berè noho martò”. Eh.

Misy sambo taloha, Malagasy, eh, sambo ô zany, eh... Nivola hoe vazaha eo: «Eh, samboko toy lehe tsy misy raha tsy ho vità'e iaby. Laha ao zay mahazaka vango, mahazaka tampify, mahazo an'ny sambo toy».

Nilike lehe roa lahy. «Eo moa fa tean-teña moa sambo ka tsy misy raha tsy ho vità'e, na ino na ino fa vità'e». Nilike tse lehe roa lahy. Vangò raike, timpa. Natao vangò'e, natao vangò'e, tsy nahazaka raike, niboake. Nilike koa raike. Natao vangò'e, natao timpake, natao vangò'e, natao timpake iñy jiska maraindray. Nahazaka ny vangò eo. Ho ie vazaha eo ho ie, «Anao lehe samboko ô. Tsa misy raha tsy ho vità'e io. Azo lihiñy aminao sambo ô. Â, raha toy azo'ao inà ze raha tea'ao ami'e sambo toy, azo'ao».

Lasa moa fa nanday, fa manan-tsambo ka. Nandeha, nandeha ami'e rano ô. Nandeha, nandeha, nandeha. «Amin'zao sambo toy, asio labiera eto. Ataoko sambo ô labiera». Natao sambo labiera, natao labiera eñy, natao

## 5. 鑿（のみ）と鎚（つち）

今日お話しする話、タパシリの話は「鑿と鎚」という話です。わたしがタパシリをする理由はほかでもありません、えー、遠くから来た友人がお話を聞きたがっている、タパシリを聞きたがっているからです。遠くから来た友人タクに、「鑿と鎚」の話をしてあげましょう。それが「鑿と鎚」を物語る理由です。

昔、船がありました。マダガスカル船です。（持ち主の）白人が言いました。「わたしの船はすっかりできて、もうつけ足すところがない。どれだけ殴ってもどれだけ平手打ちしても耐えられる者がいたら、この船を与えよう。」

二人が応募しました。「この船はすっかりできて、もうつけ足すところがなく、わたしもたいへん気に入っている。」二人が進みでました。一人が殴られ、平手で打たれました。殴りつづけて、一人は耐えられなくなって逃げました。もう一人が進みでました。殴られ、平手で打たれ、殴られ、平手で打たれ、それが朝まで続きました。耐えぬいたのです。白人が言いました。「わたしの船は、きみのものだ。つけ足すところはなにもないよ。きみのところへ置いてかまわない。“この船については好きなようにしたらよい。”

船をわがものとして、それを操縦して行きました。海の上をずっとずっと行きました。ずっと、ずっと、ずっと。「そろそろこの船にビールをかけよう。」ビールを船にどんだんかけました。どんだん、どんだん。かけ終わりました。ビールは泡を出しつ

labiera eñy, vita. Nikananàke avao labiera, nikananàke avao labiera, mandeha avao labiera, tsy misy fijanoña. Natoke sambo ô. Eo amin'zao tserike.

Zay mahatonga anio hoe ranosira eñy masira avao jisk'am-para'e io, ao fa andrefa ao sambo ô mitoke ao. Ka nahita'areo moa ranosira eñy henanik'iñy, misy raha mitaboribory manahake labiera reo? Zay mahatonga henanik'iñy, iñy lehe mahavy ny hoe ranosira toy mitaboribory sahala aminy labiera reo, ao henanik'zao mitoke andrefa eo sambo ô.

Eh, mikadakaday, mivola raha tsy hay, mikodokodò, mivlola raha tsy tõi.

Ka zay lehe tantarako androany, iha Taku. Fa tsy eo moa olo nañirake tapasiry fa iha longoko Taku avy etoa Madagasikara mikarakara manonka. Tsy navandy aho fa olobe taloha. Tinimpako bolobolo nahitako drala folo. Tinimpako sakoa la nigoangoa.

(Le 18 février 2015, Ny mpitantara: Niela, 40 tao, johary)

づけました。どんどんどん出しつづけました。止めどがありません。船は沈んでしまいました。どうしましょう。

海の水がいつまでも塩からいのは、このためです。船が西(沖)のほうに沈んでいるからです。ビールのように白く泡だったものが海に浮いているのを見たことがあるでしょう？ 今でもビールのように海水が泡だっているのは、沖のほうに船が今でも沈んでいるからです。

風吹く、床拭く、ホラを吹く。槍突く、餅搗く、ウソをつく。

タク、これがわたしの今日の話です。タパシリを話すよう命ずる者がいたわけではなくて、マダガスカルに来たタクのために特別サービスをしたのです。間違いがあったら、わたしでなく昔の人のせい。ブルブル(雑草)を蹴っとばしたら、10円拾った。サクア(果樹)が溢れていたら、蹴っとばせい。

(2015年2月18日採話、語り手：ニエラ、40歳男性)

## 6. BIBY BE MANDRONGAY

Atomboko indraike tapasiry indraike androany, fa titre'e <Biby be mandrongay>. Eo ampela zatovo. Ka laha eo ampela zatovo ô, misy olo bak'ao mila zay, tsy mety. Misy olo bak'ao mila zay, tsy mety.

Fara'e, avy amin' zao nahoda eo koa bak'ao, namonjy ny ampela eo avao. Namonjy ami'e reni'e ao. «Manao akory lehe anak'ampela'areo toy ndrarahy? Fa ilàko, ho valiko, fa teako». «Â, ie lehe eo. Fa maromaro avao nañaly azy zay. Vasa lehe iha koa ro hahazo azy. Â, tsy haiko lehe fa ie ro mahay azy, fa mba ifampiresaho nareo roe». Ka niresake moa rozy, rozy ami'e ampela iñy. Mahefa ami'e zao ampela io.

Ka atao amin' zao miresake, ho ie ty iasà'e rangahy iñy, «Tsika holy, fa zaho moa mana tokan-tsano koa». «Â, eka», ho ie ty iasà'e ampela iñy, «ka zaho, zaiko, aseseho». «Asesiko iha?» «Eh». «Â, asesiko iha, tsy mañahy».

Lasa rozy nandeha ami'e tsano'e rangahy io. Nandeha rozy, nandeha rozy, nandeha rozy. Eh, rozy alohaloha añ-ivoñivo añy, naria'e... nengà'e iñy kiraro iñy. «Â, lehe raha toy manao akory? Naria'e». Manao hoy zao ampela reo. [Tavela kiraronao ravalay, tavela kiraronao ravalay]. «Â, kiraronao

## 6. 食人鬼

今日はもうひとつタパシリをしましょう。「食人鬼（マンヂュンガイのケダモノ）」という話です。美しい女性がいました。その美しい女性のところに、気を惹こうとして来る者がありました。ふられました。また気を惹こうとする者がありました。ふられました。

年長者までやって来ました。やはり女性の気を惹こうとしました。まず母親のところに行きました。「あなたの娘さんはなにを考えているのかねえ、奥さん？ わたしは彼女が好きだから、気もちをうち明けて妻にしようと思うんだが。」「どうかねえ。ずいぶんたくさん男が言い寄ったからねえ。あんたは射とめるかもよ。わたしにはわからないよ、彼女が決めるだろう。二人で話してみなさい。」そこで彼は彼女と話してみました。女性は同意しました。

話が終わって、年長者は言いました。「さあ帰ろう。わたしは家持ちなんだよ。」「いいわよ、」と女性は言いました、「妹よ、わたしを送りとどけてよ。」「わたしがあなたを送りとどけるの？」「そうよ。」「わかったわ、送りとどけてあげるわよ。」

三人は年長者の家へ行きました。ずっと歩きつづけました。少し先、途中まで来たところで、(年長者は)靴を脱ぎずてました。「どうしたのかしら？ 靴を捨てちゃったわ。」そこで姉妹は、こんな風に歌いました。♪靴をおき忘れてるわよ、大事な人、靴をおき忘れてるわよ、大事な人。「おまえの靴は気に入ら

ahoako zao eo», ho ie ty johary, «fa lily nimialy ho ie, aminay aňy aminay aňy lohaň-olo atà'e toko». Â, tserike amin' zao ampela reo. «Ka nanino lehe manahak' zao zao?»

Lasa rozy nandeha, lasa rozy nandeha, lasa rozy nandeha. Ie, aloha aňy koa ie, naria'e koa patalò'e. «Â, lehe toa raha koa manao akory?» [Naria patalònao ravady, naria patalònao ravady]. «Patalònao ahoako zao», ho ie ty iasà'e johary, «fa lily nimialy aminay aňy lohaň-olo atà'e toko». «Â, raha toy», ho ie ty niasà'e ty zai'e, «koke biby?» «Â, tsy raha biby zao, ho ie iňy, fa hialy, ho ie, henanik'iňy ndra hisy biby, ho ie, bak'ao ka hialy henanik'iňy».

Lasa rozy, nandeha, nandeha, nandeha. Nandeha, nandeha, nandeha. Ie aň-alaňala lavitse aňy indraike, naria'e koa ny sabàke. [Naria sabakenao ravady, naria sabakenao ravady]. «Sabakenao ahoako zao», ho ie johary, «fa lily nimialy, ho ie, aminay aňy lohaň-olo atà'e toko». «Â, asa», ho ie ty iasà'e ty zai'e olo ô, «fa holy aho». «Holy?» «Eh». «Â, ka moly lehe fa ameako anao kiviroko volamena toy». «Â, zaho holy fa vali'ao lehe tsy raha olo fa biby». «Tsy raha biby zao, ho ie, fa olo». «Eka».

Lasa rozy nandeha, nandeha, avy lavitse aňy ami'e tsano ô zao, fa tsy raha tsano zao fa lavake, lava-bato be. «Eto nareo, ho ie, eto misy antsika. Zaho handeha, hitindroke aho». «Hitindroke?» «Eh».

Lasa johary iňy. Nandeha nitindroke, tavela eo rozy moro zay. «Â, raha ty, ny koke, biby!» «Â, tsy raha biby zao!» «Â,

ないな。」と男は言いました、「わたしの郷里の故習では、されこうべを五徳（鍋を火にかけるための支え）にするんだよ。」姉妹は驚きました。「どうしてそんなことをするのかしら？」

三人はずっと歩きました。少し行くと、(年長者は)ズボンも脱ぎすてました。「どうしてこんなことをするのかしら？」♪ズボンを捨てちゃったわよ、大事な人、ズボンを捨てちゃったわよ、大事な人。「おまえのズボンは気に入らないな。」と男は言いました、「わたしの郷里の故習では、されこうべを五徳にするんだよ。」「この人、ケダモノだわ。」と妹が言いました。「ケダモノじゃないわよ。」と姉が言いました、「ケダモノがいてやってきたとしても、やっつけてやるわ。」

三人はずっと歩きました。ずっとずっと歩きました。森の奥のほうに来たところで、(年長者は)帽子も脱ぎすてました。♪帽子も捨てちゃったわよ、大事な人、帽子も捨てちゃったわよ、大事な人。「おまえの帽子は気に入らないな。わたしの郷里の故習では、されこうべを五徳にするんだよ。」「まあ、わたしもう、帰るわ。」と妹が言いました。「帰る?」「そうよ。」「帰らないで。わたしがしている金の耳飾りをあげるから。」「やっぱり帰るわ。あなたの夫、人間じゃなくてケダモノなんだもの。」「ケダモノじゃないわ、人間よ。」「わかったわ。」

ずっとずっと歩いて、遠くにある家にたどりつきました。でもそれは家ではなくて、ほら穴でした。大きな岩にあいたほら穴でした。「着いたよ、ここがわれわれの住みかだ。」と男が言いました、「わたしはちょっと狩りに出てくるよ。」「狩りに?」「ああ。」

男はたち去りました。狩りに出てしまい、姉妹はとり残されました。「姉さん、あれはケダモノよ!」「ケダモノじゃないわ!」



biby!» Avy zao bak'añy tsofots'andro, nandeha nimaray jiska tsofots'andro voho avy.

Tonga e karazam-biby amy tany io. «Ataovo'areo reto sakafo'areo». «Â, eka. Â, reto tea'ay, reto hani'ay». «Eh?» «Eh, reto tsy hani'ay, retoa». Tsy hanin-drozy io, bibilava noho do. «Â, atoliha mañaroy nareo, ho ie, hañariako azy». Atolike mañaroy ny vali'e noho rañao'e, nakapa'e reny takalira'e rañao avao rehe iñy. «Â, tsy ataoko raha ho haria'e», ho ie zai'e, «fa homby rehe hani'e. Â, raha eñy biby». Roro maha-fa haly. Fa vondrabondrake ampela reñy io. Eh zao.

Lasa indraike, nandeha indraike hitindroke. Ie nipetsara marè koa, ie fa avy. Lasa lalao'e fohi'e iñy bak'ao hamonoa ny ampela reo, mahatiaro amin'zao ampela lehe reo. Ka fohy io, be. Io zao hamonoa ny ampela reo ao. «Ingeny, ingeny, koke, raha hamonoa antsika io, fa tsy raha olo fa biby».

Anteo lehe nimaray zay, haly amin'zay voho avy. «Â, nareo ato nanino tsy miroro ô?» Homby fa ta-homono azy, homby. «Â, tsy miroro atoy zahay ato fa maro moka, maro ampongo». «Eh?» Lasa indraike, lasa indraike, nandeha nitindroke indraike, ka maraindray. «Â, tsika, koke, holy. Ie henanike nankaly henanik'iñy ho namono antsika». «Â, ndao tsika, tokoa fa raty olo toy».

Lasa rozy nandeha, lasa rozy nandeha, lasa rozy nandeha, lasa rozy nandeha. Eh rozy aloha añy anteandrozy ka intiky

「ケダモノよ！」日暮れにやっと男は帰ってきました。朝に家を出て日暮れに帰ってきたのです。

ケダモノが帰ってきました。「この扉を開けなさい。」「はい。まあ、ごちそうね。いただくわ。」「そうかい？」「こっちは食べないわ。」彼女らが食べなかったのは、ヘビやニシキヘビでした。

「それは向こうに放っておきなさい、捨ててしまおう。」妻と義妹は、それを向こうへ放っておきましたが、あとで男が食べるのを義妹はぬすみ見ていました。「まあ、捨てないとは思ってたけど、食べてるわ。」と妹は言いました、「まったくケダモノだわ。」夜になって眠くなりました。姉妹はまるまる太りました。

(男は) また出かけました、また狩りに出かけました。(姉妹は) また長く待っていて、(男は) 帰ってきました。そのとき、女たちをしめ殺すしっぽが長く伸びているのを、姉妹たちは見のがしませんでした。しっぽは巨大でした。女たちをしめ殺すためのものでした。「ごらん、ごらん、姉さん。わたしたちをしめ殺すやつだよ。人間じゃなくてケダモノだよ。」

朝に出かけて、夜に帰り着きました。「おやおまえたち、なぜ寝ないんだ？」(ケダモノは) なんと、彼女らを殺そうとしていたのです。「ええ、わたしたち眠らなかったの、蚊やダニが多いのでね。」「そうかい？」男はまた出かけました。また狩りに出かけたのです。朝になりました。「姉さん、帰りましょうよ。夕べあのとき、やつはわたしたちを殺そうとしたのよ。」「わかったわ、行きましょう。ほんとうにひどい人ね。」

二人はずっと歩きました。ずっとずっと歩きました。遠くに来たところで、ケダモノが走ってくるのに気づきました。「姉さん、今日は殺されてしまうわよ。」「殺される？」「そうよ。行きましょう。」走って走って走りつづけました。岩がありました。

lomay intiky. «Â, intiky, koke, tsika androany maty». «Maty?» «Eh. Â, ao tsika handeha». Lasa rozy nolay, lasa rozy nolay, lasa rozy nolay. Anteandrozy vato ka intia. Vinolandrozy ami'e vato ô. «La haiko vato reny vato rà, ho ie, sokafo eo». Misokatse vato ô. «La haiko, vato reny vato rà, iha mirindriñy». Nirindry vato ô. Ao rozy tavela añaty vato ô.

Kosy teo rangahy valindrozy. Ao ami'zao, nivola. «Ka iha manao akory lehe, ho ie, zaho nilai'areo? Sokafo'areo raha toy!» «Eh», ho ie ty iasà'e ty vali'e, «tsy sokafa'ay, ho ie, laha tsy itontà loha». «Â, itontà loha?» «Eh». La mandeha ie, mandeha la, ie bak'an-davitse iñy, la lomay, la arisa'e ami'e vato ô, loha'e. Eo tse tavela eo. «Tsy sokafiko», ho ie ty iasà'e ampela, «laha tsy itontà loha!» Laha arisa'e indraike, eo la ami'e iñy. Fara'e ami'e zao fà marary. [Sokafo'areo rahako toy eeh. Eeh, eeh]. [Tsy sokafiko laha tsy itontà loha, eeh]. Hâ.

La mitsavilivily indraike iñy, la ami'e vato iñy. Fara'e maty amin'zao. «La haiko vato reny vato rà», ho ie, ie ampela reñy, rozy an-davake ao, «misokafa». Misokatse, la amonto rozy. «La haiko vato reny vato rà, mba mirindriñy». La amteandrozy reñy ka mandingavoke intia. Maty. «Io ka», ho ie ty iasà'e ty zai'e, «henanik'io haiko ô. Tsika laha tsy nivato toy, nimaty. Ny hany nandroany nahafaty antsika. Ndao tsika handeha holy». Lasa rozy nandeha, lasa rozy nandeha. La ie, laha varako niavy amindrozy la nahita reny

二人は岩に話しかけました。「お母さん岩もお父さん岩もわたしの知りあいよ。お開けなさい。」岩は開きました。「お母さん岩もお父さん岩もわたしの知りあいよ。お閉じなさい。」岩は閉じました。二人は岩に閉じこもりました。

夫の男が追いかけてきました。そして話しかけました。「どういふつもりだ、逃げるのか？ここを開けろ！」すると妻が答えました。「開けないわ、岩に頭をぶつけないとね。」「なに、頭をぶつけない？」「そうよ。」男はずっとずっと歩いて行って、遠くから助走をつけて岩に頭を打ちつけました。まだ岩に閉じこもっています。「開けないわよ、」女性は言いました、「岩に頭をぶつけないとね。」もういちど頭を打ちつけました、その大きな岩に。とうとう頭が痛みだしました。♪開けなさい、こいつを、えええー、えええー、えええー。♪開けないわよ、頭をぶつけないと、えええー。

また走って行って頭を打ちつけました。とうとう（ケダモノは）死んでしまいました。「お母さん岩もお父さん岩もわたしの知りあいよ。」と、岩に閉じこもっている二人の姉妹は言いました、「お開けなさい。」岩が開いて、二人は外に出ました。「お母さん岩もお父さん岩もわたしの知りあいよ。お閉じなさい。」巨体が横たわっているのが彼女たちにも見えました。「言ったとおりでしょ。」と妹は言いました、「この岩のところでなければ、わたしたちは死んでいたでしょうよ。今日は食べもので殺されるところだった。さあ、帰りましょう。」彼女らははずっとずっと歩きづづけました。家に帰りついて両親の顔を見たとき、彼女らは（嬉しくて）気を失ってしまい、これまでのことを話すこともできませんでした。「この子たち意識がないわ、どうしたのかしら？」長い時間が経って気がついてから、村を出て帰って

amity rà`e, rozy la namombo. Tsy misy fitantara. «Tinolo ajà retoa nanino?» Tsy misy zay. Ela ñaňy ami`zao tefa ro tantara`e liandrozy bak`an-tanà amindrozy eo jiska niaviandrozy.

Tsy navandy aho lehe fa olobe taloha. Tsy nataoko tapasiry laha tsy Ampasilava.

(Le 18 février 2015, Ny mpitantara: Niela, 40 tao, johary)

くるまでの旅のことを語りました。

嘘があったらわたしでなく昔の人のせい。このタパシリはアンパシラヴァ（採話地）でせい。

（2015年2月18日採話、語り手：ニエラ、40歳男性）

## Angano sy Tantara Tandroy

nangoin'i NISHIMOTO Noa tao amin'ny faritr'i Toliara

### 1. REKILOVE

Lehe teo ze ndaty taloha zao nampirafe. Ie re nampirafe, nimate amy ty zao ty vali'e raike.

Raike avao amy ty zao ty nitratse'o. Vali'e raike nimateo niterake ajalaha telo lahe.

Vali'e raike veloñe'o tsy niterake. A ie re ela amy ty zao tean-dahy amy ty zao raike tsy terake toy. Nañararaotse amy ty zao reke, fa tsy mifankahay amy zokenanake'eo.

Te hamono zokenanake'e. Mode namboatse afera hoe: "Te zao, zaho milaolao, paiavo raha mafiry!"

Nandeha amy ty zao valie'ey namono osy, tsy nitea'e, namonoañe kobatroke, tsy nitea'e fa tsy tea laolao izao.

Namonoañe akoho, tsy nitea'e ze laolao'e zao.

"Inoñe avao vale" hoe ty vali'e, ty ho tea laolao oo.

"Tsy takao, raha tea laolaoko le mitofa avao rehe".

"Ambarao ahy hoe valie'ey, fa teako rehe fa tsy maintsy azoko!"

タンドウルイ族の民話と物語  
西本希呼 採録・翻訳  
トゥリアーラ地方において採話

1. レキルヴェ

むかしむかし、あるところに、二人の妻をもつ男がいた。そのうちの一人の妻が死んだ。死んだほうの妻には、三人の息子がいて、もう一人には子はいなかった。残された妻は、ライバルであった彼女の死を利用した。もう死んだのだからわかる余地もあるまい、女は三人兄弟の長男を殺そうとたくらんだ。実は、女は息子が欲しかったのだが、子を産むことはできなかったのだ。

そのため、彼女は妊娠していて空腹のふりをした。  
彼女は言った。

「ああ、妊娠していて腹が減っていて、何かが食べたい！」

そこで夫は、牛を殺した。だが彼女は満足しない。今度は大きな山羊を殺した。まだ満足しない。鶏を殺したが、まだ満足しないのだ。

夫は尋ねた。

「君はいったい本当に何が食べたいんだね？」

女は言った。

「あなたは何も私に与えてくれない。私のことをかまってくれないんだね。それなら静かにしておくれ」



“Azo”, hoe re.

“Aviko.” hoe vali’e.

“Aie hoe re, ty tea laolaokoo ty ate zokenanaoo, fa izaho tsy te hihina raha maro.”

“Ty ate zokenanakoo?”

“Ie”.

“Mahaliñisa rehe ,fa azoko zay, fa tea raho”.

“Alao hoe re raha avio zay afake raha tea laolaoko, fa izay ty raha hañe’e!”.

Nandeha amy ty zao ra’e, nitalily amianadahe telolahe io.

“Te re iza ry kiahe,zao zao ty raha i valikoy. Mandehana amono-nareo ose añala añe, entonareo mbeto ty ate’e, hañenteako aza te hane’e vatae”.

“Ehe”, hoe ianae telo lahe rey.

Nandeha amy ty zao anae telo lahe rey, namono ose añale, nente’e mboahañe amy ty zao ty ate’e.

“Aie toy aten-kenay!”, Natolotse aze.

Ehe,tsy ate’e toy hoe re, fa aten’ose toy fantako! Kay raha tsy ho avi’o anontaniao’o ahy, ho avioo.

“Aten’ose toy fantako. ”

Ento atoy miarake amy ty ate’e naho ty tañae fa izay ty tea laolaoko-oo.

Nandeha amy ty zao ka rae nanakey namory anae indraike.

夫は言った。

「言ってごらん。なんと言っても君は僕の妻だ。愛している。だから食べ物を得るためなら、何だってする」

女は言った。

「私の欲しいものを本当にくれるのかい？」

「もちろんだ」と夫は答えた。

女は言った。

「私が欲しいのはただ一つだ。あなたの長男の肝臓だ」

夫は言った。

「僕の息子の肝臓？わかったよ。少し待っていてくれ。僕は君を愛しているのだから、用意するよ」

女は言った。

「私のところへ持ってきてくれるのかい？じゃあ、取ってきておくれ。長男の肝臓しか私の欲求を満たすものはないんだ」

そこで、男は息子たちにすべてを語った。

「我が息子たちよ、よく聞きたまえ。私の妻が、我が長男の肝臓を食べたいと言っている。だから、君たちは森へ行って山羊を殺して、私にその山羊の肝臓を渡してくれ。そして妻がそれを本当に食べるところを見よう」

「わかりました」と三人の息子たちは言った。

そこで、息子たちは森へ行き山羊を殺して父に肝臓を渡した。

夫は言った。

「さあ、肝臓だよ」

女は言った。

「それは食べないよ。森の山羊の肝臓だとわかっているのだから。あなたは私に言ったでしょう、長男の肝臓を私にくれるって。それとも私に出来ないつもりかい。山羊の肝臓なんぞ私は

Ie e zao hoe re, alaonareo añaley ty Rekilove. Rekilove biby añaley, ndaty fa ie mihako añaley avao, fa tsy mole antanañe, fa sahala biby. Nandeha amy ty zao añae telo lahe, hipay ty lian-dRekilove. Zokenanake toy nanday lefoñe sive. Ivo nanake toy nanday lefoñe valo. Tsitso nanake toy nanday lefoñe pito.

Nandeha amy ty zao iereo, nandeha, ie le niavy amy ala mangiekike añe iereo nifanara dia tsy nisy nifanorike, nipay lia ty lian-dRekilove an-kafa an-kafa iaby. Le katao ty nitendeke zoke nanake tea i ampelay ty ate'ey le ty lia biby añala.

Nitoka amy ty zao re:

“Oe lahireo e!”.

“Oe!”.

Eh ty lian-dRekilove vao intoy io kirahe sa lia biby añala.

Eh! Tsy lian-dRekilove vao intoy io kirahe sa lia biby añala.

“Hhmm !dao ry kiake”, hoe re.

“Ndao”, hoe ilea re.

Nandeha ireo nandeha iereo, ie alohalohañe i zoke'ey le nitoka.

食べないよ。さあ、手と一緒に肝臓を私に持ってきておくれ。  
それしか私の欲求を満たすことはできないのだ」

父はもう一度息子たちに相談した。

「森へ行って、レキルヴェを探してきてくれ」

レキルヴェとは、森で生活している人間だ。野蛮人とも言われている。村で見ることはない。というのも、そのあたりでレキルヴェは、動物と見なされているからだ。そこで、三人の息子たちは森へレキルヴェを探しに行った。長男は九本の槍を持っていった。次男は八本の槍を持っていった。末っ子は七本の槍を持っていった。森について息子たちはそれぞれ分かれて探しに行った。

彼らはレキルヴェの足跡を探していた長男が動物の足跡を見つけて、二人を呼んだ。そして歌った。

♪ ああ、レキルヴェの足跡があそこにある 森の動物の足跡だ  
ああ、違う、これはレキルヴェの足跡ではない、これは森の動物の足跡だ  
さあ、いこう兄弟よ

彼らは探し続けた。どンドン歩いた。少し遠くへ行ったところで、再び長男が足跡を見つけた。そこで、二人を呼ぶために、同じ歌を歌った。

♪ ああ、レキルヴェの足跡があそこにある それとも森の動物の足跡か  
ああ、違う、これはレキルヴェの足跡ではない、これは森の動物の足跡だ

Eh ty lian-dRekilove vao intoy io kirahe sa lia biby añala.  
Eh, tsy lian-dRekilove vao intoy io kirahe sa lia ty biby  
añala

“Hom! Ndao rikiahe”.

“Ndao”, hoe ilea re.

Nandeha iereo, nandeha iereo ie ilea ie avy alohañe ka i  
zoke’ey le nitoka.

Eh ty lian-dRekilove vao intoy io kirahe sa lia biby añala.  
Eh! Tsy lian-dRekilove vao toy io kirahe sa ty lia biby  
añala

“Hom! ndao ry kiake”.

Nandeha iereo nandeha iereo. Ie aloha avao añe. Ie aloha  
añe zoke’ey ie nitoka:

Eh ty lian-dRekilove vao intoy io kirahe sa lia biby añala.  
Eh! Tsy lian-dRekilove vao toy io kirake sa ty lia biby  
añala.

“Hom! Toa raho ry kiahe”, hoy biby.

Lay amy zao hahirey naho fa mire’e. Nanoy biby, le  
nivotake amy zoke’e eo.

彼らは探し続けた。長男はさらに進んだところで、二人は後ろの方で探した。長男に追いつけないからだ。それでも長男は弟たちが見えなくとも歌い続けた。

♪ ああ、レキルヴェの足跡があそこにある それとも森の動物の足跡か

ああ、違う、これはレキルヴェの足跡ではない、これは森の動物の足跡だ

探し続け、長男は遠くへいき、弟たちが見えなくなれば歌った。

♪ ああ、レキルヴェの足跡があそこにある それとも森の動物の足跡か

ああ、違う、これはレキルヴェの足跡ではない、これは森の動物の足跡だ

ついに、ある動物と出会った。そこで叫んだ。

「これは動物の足跡じゃない。レキルヴェの足跡だ！」

動物は答えた。

「そうさ、私はレキルヴェだよ」

動物の声を聞いた弟たちは、大喜びで長男のところへ急いだ。ところが、そこにいたのは、レキルヴェではなく他の動物だった。

「何のようだい？」と動物は言った。

一人が言った。

Le kanao nizoe'e eo le biby hafa añate longoñe ao.

“Ino vao”, hoe biby.

“Iñe raha ipaivanareo ahy io?”.

“Tsiñe”, hoe iereo.

“Volañe'o biby fa afake anareo ty fiay nareo androany.”

Tsiñe hoe iereo.

“Ah! mba anake miserañe toa io.”, hoe biby, mipaipay ahe añala toy minday ty ino nahareo aho nipaia nareo io?”

“Ah! zahay rañandria” hoe iereo tsy mipay azo, fa Rekilove mpaia'ay io.

Ata'ay ty lian-dRekilove liaoy! Kay tsy lian-dRekilove!

“Nandeha añe kiahe hoe le, fa tsy zaho Rekilove'o. Ingo ty trandrake andeso nahareo, hisaroaña nareo ty fiainareo, fa ndra nifereñesako fa ndra nifereñesako.

Nandeha iereo nandeha iereo ievy anaty ala nisy an-dRekilove ndraike nifanaran dia amy zao iereo, nandeha ankafa ankafa.

Le kanao nitendreke lian-dRekilove'ey le zoke'ey ka.

Nitoka ka zay re'ey.

Eh ty lian-dRekilove vao intoy io kirahe sa lia biby añala.

Eh! tsy lian-dRekilove vao fa sa ty lian-dRekilove

“Hoom! Ndao ry kiahe”.

「僕らが、用があるのは君じゃあない」

動物は言った。

「早く用件を言いな。さもないと、殺すぞ」

もう一人が言った。

「僕らが探しているのは君じゃないんだ」

動物は言った。

「ここに私を探しにくる人は皆、私の死を求めてやってくる。君たちは私を探しにきたようだが、私が君たちから何をとったというのだ？」

「僕たちが探しているのは君ではないんだ。レキルヴェを探しているんだ。僕らは君をレキルヴェと思ったのだけど、勘違いだった」

「お行き、君たちが探しているのはレキルヴェではないんだよ。さあ、これを持ってお行き。ハリネズミが君らの食べ物だ」

そこで、兄弟はハリネズミを持って立ち去った。少し離れたところで、長男と弟たちははぐれてしまった。長男は弟たちよりもとっっても早く歩いていったからだ。

しばらくして、長男は、レキルヴェの足跡を見つけた。そこで、弟たちを呼んだ。そこで歌った。

♪ ああ、ここにあるのはレキルヴェの足跡だ 動物の足跡ではない

ああ、ここにあるのはレキルヴェの足跡ではないのだろうか

いや、これはレキルヴェの足跡だ

弟たちは長男に大喜びした。追いかけて、どんどん歩いた。



Nandeha iereo nandeha iereo.

Eh ty lian-dRekilove vao intoy io kirahe sa lia biby añala.

Eh! tsy lian-dRekilove vao fa sa ty lian-dRekilove

Nandeha iereo, nandeha iereo.

Ie avy amy ty misy an-dRekilove ama! Nitoka ndraike

Eh ty lian-dRekilove vao intoy io kirahe sa lia biby añala.

Eh! tsy lian-dRekilove vao fa sa ty lian-dRekilove

Nandeha iereo nandeha iereo, ie niavy añia Rekilove eo  
ama, voratsake hoe ty Rekilove ty miboake ampo raha ao.

Le mijanoña iereo ty Rekilove.

Nandrivondrivotse ty mboankañe, nandrivondrivotse ty  
mboankañe, le nitsondrikitsindriko re amboñe zañe añe.  
Nalain-dRekilove: finirae zañe'ey, finirae zañ'ey. Nidira  
iereo torake lefoñe'ey amy ty zao ty Rekilove. Tinora zoke  
nanake'ey tsy voa tinorake tsy voa tinorake tsy voa. Lany  
lefoñe sive'ey.

“Añe ka rehe”, hoe ivonanakey hitoraha ko aze. Tinorae ka  
tsy voa, tinorae ka tsy voa, lany lefoñe.

Nizilike zai'ey. Matetika hoe zoke'ey, fa tsy mate tika. Ty  
biby toy ndra hamono antika, fa lañe lefoñe'ey! Lefone

♪ ああ、ここにあるのはレキルヴェの足跡だ 動物の足跡ではない

ああ、ここにあるのはレキルヴェの足跡ではないのだろうか  
いや、これはレキルヴェの足跡だ

彼らは歩いた、どンドン歩いた。

♪ ああ、ここにあるのはレキルヴェの足跡だ 動物の足跡ではない

ああ、ここにあるのはレキルヴェの足跡ではないのだろうか  
いや、これはレキルヴェの足跡だ

兄弟たちはどンドン歩いた。ついにレキルヴェにたどり着いた。まだ兄弟たちは歌を歌っていた。レキルヴェは隠れ家に急いで逃げ込んだ。レキルヴェは、彼らの歌声が聞こえたからだ。レキルヴェは木を切って、バオバブの木の上に上った。

長男は、レキルヴェに槍を投げ始めた。一本目を投げた。二本目を投げた。しかし全くレキルヴェに命中しやしない。ついには、すべての槍を使い切ってしまった。

次男が言った。

「僕に任せて」

残念ながら、八本の槍は全部外れてしまった。

長男は言った。

「もう僕たちはここで死ぬしかない。もう僕らの手元には槍は一本も残っていないし、レキルヴェは怒っていて攻撃的になっている」

レキルヴェは前にあったすべての槍を拾い集めた。もう末っ

natorake aze navorie ambany eo avao. Ahy zaie avao tave la ty lefoñe an-tañañe, nidira i zaie torake ka. Finitse’e tsy voa finites’e tsy voa finites’e le tavela raike lefoñe’ey. Linantse aze te Rekilove le nirohake le nitofa hohoke. Nivisoviso amy zao iereo, linanta’e amy ty zao te Rekilove, Nantañe amy ty zao ty aten-dRekilove naho ty tañae.

“ Ie avy anolon-tanañe’ey ?”, nietaha rehe hoe zay rey fa handay aze mba tanañe mbeo zahay hane’oo.

“Eh! ”, hoe zoke’ey.

Nandeha amy zao zay rey nanday azy mba antanañe’eo. Eh! toy ie nimateay naha ela anay io sarotse ty nahafatesage aze, vao izao mate’ay toy ate’ey, toy tañe’ey.

“Toy avao raha mampijafé rakembao’oo, amy laolao’e zao hiafaha laolao’oo zao. Toy aten-kenay naho añae’ey ! ”

“Zoke nareo toy ”, hoe re.

“Zoke ay toy” hoe zay rey.

“Mba nahahoe nareo!” hoe re.

“Tsy mahay nahahoe io,fa ihe ty haha valen-dra’ay azo ahafœza’ay longoa’ay io, ty hananan-dra’ay valy, ty hananan-dra’ay anake tsiefâ”.

Ty ha elae tsy ty nomboa ay tsy nivonoe ay io, fa te ihe ty naha tonga namonoa’ay aze eo.

“Ie lalao ve ty laolao zao!”

子の槍しかのこっていない。末っ子は槍を投げた。しかし全くだめだ。ところが、最後の一本の槍がレキルヴェの腹に命中した。兄弟たちは、急いでレキルヴェを殺して、彼の肝臓と両手をもって村へ戻った。

末っ子は長男に言った。

「兄さん、隠れて。ここからは僕らがすべてをもって村へ戻るから」

村へ到着した。

弟たちは言った。

「どうぞ、お望みの両手と肝臓です。少し時間がかかってしまいました。なにせ、家族を殺すというのは難しいことで、やっとのことで殺すことができたのです。さあ、両手と肝臓をどうぞ。これこそ、お望みのものでしょう」

女は言った。

「これがあなたたちの長男の肝臓かい？」

弟たちは言った。

「はい、そうです」

女は言った。

「あなたたちは、自分の長男の命を義性にしたってことだよ」

弟たちは言った。

「私たちじゃありません、あなた様です。僕たちの父の妻ですから、僕たちは兄を義性にしました。僕たちの父が妻をもち多くの子をもつためです」

女は言った。

「私が長男の肝臓が欲しかったのは事実だ。だけど、今はもういらぬ。それを投げ捨てておくれ」

父は言った。

“Ohm, izaho ka hoe re ama! Mipaiaviko io fa ndra tsy mipay ka raho ario nareo aña!”

“Aha! Ampela mamano-neñ ahe ty aña’eo” hoe valiey.

“Ndaña hoe re alao atoy lahe hitomboke azy.”

Lay za rey nalaña zoke iereo amy ty nietaha aña.

“Tomboho hoe rae’ey, le ataovo sisipilasy hoe re fa lako fampijale’e anareo zay”.

“Kay.“, hoe ie ndaty tsy ho nananako anake avao ty ampela tiaña’eo, fa tsy ndaty hohane’e vata’e. Tomvoho hoe re!

Tinombo zokenanako amy zao re, nimate.

“Te zao “hoe ty talily, taliliko fa talily ty taloha

Ny mpitantara: Jean-Noël

「この女は私を愚かにさせた。なんてひどい女だ。兄さんと呼んできてくれ。殺そう」

そこで弟たちは兄を探しに行った。そして、父は息子に妻を殺すよう命じた。

「目の前で妻を殺してくれ。この女のしたことは、善悪をわきまえない非道なことだ。君たちにとっても酷いことをした。この女は、食べるつもりは最初からなく、僕から子どもを奪おうとしただけだ」

そこで、長男はその女を殺した。

おしまい。

これは私のお話ではない、遠い祖先のお話だ。

語り手：ジャン＝ノエル

**Angano sy Tantara Masikoro**  
nangonina-d'RAZAFIARIVONY Michel tao amin'ny  
faritr'i Toliara

**1. NY FANAOVANA NY SAVATSY**

Tera-dahy maro ny Andratsoka. Olona maro foko ny Andratsoka ka ñ'ilany teraky lehilahy ary ñ'ilany teraky ampela. Ny olo teraky lehilahy iaby mivory fa hidiniky fa hanavatsse ka mivory eo amin'ny mpisoro:

“Avy eto lahy nahoda zahay fa hidini-draha fa maro ny anakay lehilahy fa ho savary!”

Manao an'izao ny mpisoro lafa vory ireo tera-dahy iaby izay hanavatsy:

“E!... hanondro andro aho hanaovana io Savatsy io fa tsy henaniky toy fa amin'ny faòsa satria io no hahazoan-drala”.

Tapa-kevitra ny tompon'añaky fa hatao amin'ny faòsa ny savatse

Avy ny andro embena ka mivory fanindroany rozy fa tapaka fa hila ambiasa hamary azy. Hita ny ambiasa, nanome ny andro tsara: zoma no hanaovana azy. Ny ambiasa miantoka ny fanavaraña hanao fanitsiana dia mahazo aomby.

Nivory fanintelo ny olo mañaña añaky hotapahy fa hila aomby hata “tsapaloha”.

Miteny ny mpisoro fa “añambarao ny longonareo”.

## マシクル族の民話と物語

ラザフィアリヴニ・ミシェル 採録・翻訳  
トゥリアーラ地方において採録

### 1. 割礼のやり方

アンジャツカー族には男の子が多い。アンジャツカー族は、女性の子孫と男性の子孫とに二分される。割礼について取り決める際には男性の子孫たち全員が、供犠執行者の許に集まる。

「首長よ、私たちは、割礼する男の子が大勢いるため、それについて討議するためここに集まっております」

割礼を受ける男の子たちを持つ人びと全員が集まると、供犠執行者が次のように述べる；

「良からう、私がまだ行われていない割礼を実施するのに相応しい日取りをお金のある収穫期に選定しよう」

(集まった) 子供の親たちは、割礼を収穫期に行うことを決定する。

指定された(割礼の)日が近づくと、割礼祭の無事なる終了を保証するアンビアサと呼ばれる一人の占星術師を指名するために、人びとは二回目の集会を行う。

占星術師を指名し、占星術師は良き曜日を選定する。金曜日が割礼を行うために良い日取りとされる。割礼祭の無事なる終了を保証するアンビアサは、ウシを受け取る。

割礼を受ける子供たちの親たちは、ツアパルハと呼ばれる割



Manao fanitsiana ny ambiasa ka ao an-tranon'ny mpisoro no hametrahana azy. Mitavo ny fanitsiana iny ny fokon'ny Andratsoka na lehilahy na ampela na olobe na pamaraky, indrindra ny zaza hotapahy.

Herinandro alohan'ny hanaovana iny savatsy iny dia mandrombo eo amin'ny mpisoro ny lehilahy ka mikolondoy isaky ny hariva, ka mitsinjaky eny koa ny rain-jaza sy ny reniny mifandimby mitroto zaza iny

Velo ny kolondoin'ny lehilahy hoe:

“Oio... ô ! Oio...ô ! Oio...ô !”

Manao rodobe anilany eroy ñ'ampela ka manao hoe:

“Zañanay ie ! Zañanay ie”

Harivan'ny kamisy miloloha jomà hanaova azy, ka avy ny vahiny iaby izay nanambaraña, ka torak'izao koa ny manodidina, ka manao kimandrimandry.

Masaky tokoa ny harivan'io kamisy io ka mikolondoy eo amin'ny mpisoro. Omena hany sy toaky ny vahiny hiaretany tory eo, fa ny ampela koa mandrombo eo amin'ny kianjan'ny mpisoro. Velo ny langoro manao an'izao;

“Katibokatiboky dada...”

Misy saïry mpitariky ny feon'ny maro ka ny renilahin-jaza no mitroto ny zaza, andesiny mitsinjaky ka manday lefô.

Ary ny maraindray, andro fanavaraña, tokony ho eo amin'ny 8 ora eo ho eo, dia mivory eo amin'ny mpisoro ny foko iray sy ny vahiny ka ny fahatelon'ny mpisoro no manday ny jiny. Avy eo amin'ny toerana hanaovaña azy. Mitavo fanitsiana ny foko Andratsoka iaby ka sindrahana fanitsiana koa ny toerana hanaovaña azy. Ilay vorompahery mandeha manapaka hazomboto any añ'ala, fa ny ampela

礼祭をはじめためのウシを捜すため、三回目の集会を行う。

供犠執行者は、「あなたたちの親族に知らせなさい」と言う。

占星術師はよく調べた上、ウシを供犠執行者の家に連れて行く日取りを告げる。

アンジャツカー族の全ての人間たち、男も女も大人も子供も、とりわけ割礼を受ける子供たちには、黄色い岩石（の染料）が塗られる。

割礼に先立つ一週間、毎晩男たちは唄い踊るため供犠執行者の家の前に集まり、割礼を受ける子供たちの父親と母親は代わる代わる自分たちの子供を抱きながら踊る。

男性たちは、「ウイウーオ！ウイウーオ！」と唄う。

女性たちは、男性たちの前で、「私たちの子供よ！私たちの子供よ！」と唄う。

割礼の日の金曜日の前の木曜日の夜、近隣の人びとを含めた（割礼の）知らせをうけた全ての人びとが到着し、キマンドウリマンドウリと呼ばれる徹夜の前夜祭が行われる。木曜日の夜は、供犠執行者の家の前で唄い、盛り上がる。前夜祭に参加する招待客には食事とトゥアカと呼ばれる酒が振る舞われ、女性たちも供犠執行者の家の前の広場で踊る。太鼓が、「カティブカティブキ・ダダ・・・」と鳴り響く。

人びとの歌声を先導する一人の専門家がおり、（割礼を受ける）子供の母方オジが槍を手にしながら子供を抱えて踊る。

割礼を行う金曜日の朝の午前八時頃、集まった客たちと一族の人びとが供犠執行者の家の前に集まり、供犠執行者の弟がジニと呼ばれる聖木を持つ。それから人びとは、割礼が行われる場所に行く。アンジャツカー族の全ての人びとが、割礼祭の場所と共に、黄色い岩石（の染料）を塗られる。

koa manendry fa hanao folivelo, fa hapetaky amin'ny lohan'ny zaza sy ny reniny.

Velo ny beko eo amin'ny kianjan'ny savatsy.

Mitsinjaky ny renilahin-jaza ka mitrotro azy ka mitondra lefo. Manahaky an'izay koa ny ray aman-drenin'ny zaza.

Avy bak'any añ'ala ny vorompahery ka mitondra hazomboto. Velo ny tora-bato, mifampitoraka ny manday ny hazomboto sy ny olona ato an-tanà. Eny koa ny zaza hotapahy, ka ny renilahin'ny zaza hotapahy no mitrotro azy. Aorina ny hazomboto. Ababoky ny aombilahy ho tsapain-doha ary manao tsiariary ny ombilahy ny foko Andratsoka. Vita ny ariary ka mitsanga ny mpisoro mitondra viky. Sindrahana rano ny aombilahy mibaboka. Mitòka ny mpisoro mikaiky ny Zañahary sy ny raza matoa mba tsy hañahy ny ajà tapahy.

Rasaña ny omby. Misy olo roalahy ho ampiketriky, ka ao anatin'ny hena, ketrehy ny atiny, ny trafony, ny tsimaranony. Lafa masaky ny hena dia omena ny ajà hotapahina, fa ny sisa ao am-balàny andesy any an-trano hohanin'ny mpisoro. Mitòka fanindroa ny mpisoro fa mivola manao an'izao: “Fa ho tonga ny fanapaha ka manaova pare ny mpanapaky”

Ny ambiasy no mandahatra ny fanapahana ny zaza, ohatra ny zaza fotsy na ny kelikely atao aloha.

Vita soa aman-tsara ny savatsy nataon'ny Andratsoka ka ny ohin-kena dia an'ny mpisoro, ny manangany an'ny fahatelon'ny mpisoro.

Ny mpitantara: LOMBIHO Morely Jaonesa

ヴルンパヘーリ、すなわち〈鷲〉と呼ばれる屈強な若者たちが森にハズンプトゥすなわち〈男性器の木〉と呼ばれる木を伐りに行き、一方女たちは子供たちとその母親の頭に置かれる木綿製のフリヴェルすなわち〈女性器〉と呼ばれる飾りを編む。

割礼を行う広場には歌声が響き渡る。槍を手に子供を抱いた母方のオジが踊る。子供の両親たちがそれに続く。

ヴルンパヘーリの若者たちが〈男性器の木〉を持って森から戻って来る。村に残った人びとと木を取りに行った若者たちが、互いに黄色い石を投げあう。

母方のオジが割礼を受ける子供たちを抱きかかえる。〈男性器の木〉が立てられる。

牡牛の喉が切られて供犠されて横たえられ、アンジャツカー族の人びとが供犠されたウシを脅すしぐさを見せる。このしぐさが終わると、供犠執行者は割礼用の杖を持って立ち上がる。横たえられたウシに、水がかけられる。供犠執行者が、割礼が施される子供たちが無事であるよう神と祖先に祈りをささげる。ウシが解体される。二人の男性が、肝臓・背のコブなどと肉を切り分ける。肉が煮えると、割礼される子供たちに提供されると共に、残りの肉は供犠執行者のために彼の家に運ばれる。

供犠執行者は二度目の（人びとの）招集を行い、「割礼の時がやって来た。割礼を執行する人たちは準備するよう」と言う。

占星術師が、例えば年少者から割礼を行うと言うように、子供を割礼する順番を決める。

アンジャツカー族の人びとの割礼祭が無事終わると、尻尾の肉が供犠執行者に、わき腹の肉がその弟の許に送られる。

語り手：ルビフ・ムレリ・ジャツサ

## 2. LAHIEBO

Ie Lahiebo ie niava. Nahita voro. Ka manatoly voro io, ka efa mamaky. Ie mamaky ie, nanihiny hazo'ny anany ka tsy eo reniny io fa nitily any. Nifitaky ambany hazo eo i lafa niazony anany rey. Avy voro io bak'any. Eo voro io tseriky fa anany... Farany kinainy anany rey:

“Aïza, aïza, aïza ny zanako teto aïza,  
Aïza, aïza, aïza...”

Mbo velo raha iny.

Eo raha iny, eo. Farany, nivoiny ana-draha rey, nivoiny, maty. Nandesiny moly. I raha rey an-tanà, kinetriny. Nitily voro iny bak'any, hiniany. Mipetraky i anabo trano:

“Aiza, aïza, aïza, ny zanako teto aïza  
Aïza, aïza, aïza...”

“Indreto, indreto rahay Ineny indreto  
Indreto rahay Ineny...”

Nikinetriny raha rey. I raha rey nimasaky, nohaniny, lany. Nilitse an-trano ao i.

Tinimpaky voro io trano io, la vaky. La i nivaky ie, tseriky an-trano ao. Nihitan'i voro io, tsinengony ny mason'ny nahoda iny.

Niboaky le anany rey.

## 2. ラヒエブ

ラヒエブ（愈け者）という男が、狩りに出かけました。鳥を見つけました。その鳥は卵を生んでおり、卵は孵化していました。ラヒエブは木の上ののぼりましたが、鳥たちはそこにはいませんでした。彼は木の根元で待ち、ついに小鳥たちを捕まえてしまいました。

親鳥が戻ってきた時、驚きました。親鳥は子供の鳥たちを見つけることができなかったからです。そして親鳥は呼びました。

「何処？ 何処？ ここに居た子供たちは何処？」

「何処？ 何処？ 何処？」

子供たちはまだ生きていました。

「私たちは、ここよ！ 私たちはここよ！」

子供たちはそこに居たのです。

ついにラヒエブが小鳥たちを殺してしまい、（小鳥たちは）死んでしまいました。ラヒエブはそれを家に持ち帰りました。それから、それらを料理しました。

親鳥が飛んできて、ラヒエブの家の屋根にとまりました。

「何処？ 何処？ ここに居た子供たちは何処？」

「何処？ 何処？ 何処？」

「ここよ！ お母さん、ここよ！」

「ここよ、お母さん、私たちはここよ！」

ラヒエブは小鳥たちを料理し、それが煮えると自分の家で食べてしまいました。

Tsy zaho mavandy fa ny antaloha.

Ny mpitantara: REZEFA

親鳥は（ラヒエブの）家（の扉）を蹴飛ばし、家の中に入りました。家の中で親鳥は驚きました。その事を知った親鳥は、ラヒエブの眼を突っつきました。

小鳥たちが出てきました。

嘘を言ったのは私ではなく、昔の人たちです。

語り手：レゼファ



### 3. OLO

Olo reo telo. Roe lahy vatan'olo, ny raiky lohany avao, ny natara-dreniny. Ka nandeha rozy namonjy fisàn' ampanjaka, habiloan' ampanjaka. Ka laha nandeha rozy, trintro Lohanävaio bak'eto i anäty tany any ie, ohatsohatsy manahaky Benetsy noho ny eto.

Iam-baiboha-manga atiky, nazotso Lohanävaio. Laha nazotso Lohanävaio, nihitan'olo mpamonjy fisà. Tinimpatipak'ilezay Lohanävaio, tsy nivola, tinimpatipaky... tinimpatipaky... tinimpatipaky. Bak'eo lihiny nandeha namonjy fisàn' ampanjaka iny:

“Aty, hoy i, lohan'olo zao hoy i, mivola. Fe ny vatany tsy eo hoy i, fe ny lohany avao ro eo”.

“Vandy zao ! hoy n'asan'ny ampanjaka iny !”

“To !...”, hoy i.

“Lohan'olo”, hoy i, “ro hivola ?”

“Mivola”, hoy i.

“E, hoy nataon'ny mpanjaka iny, ka hantea any ?”

“Hantea !”

“Ka laha mavandy iha ka manao akory ?”

“Tapahonareo koa, n'asany, ny lohako”.

Niongaky mpanjaka aroy aroy i bilo io nänatoy, nanday olo maro, namonjy lohan'olo iny.

“Ia lohan'olo io ?”

“E !”

“Ka mivola lohan'olo io ?”

### 3. 人

昔、三人の男がいました。三人は同じ母親から生まれ、二人は人間の身体をしており、一人は頭だけしかありませんでした。彼らは、王さまの憑依の祭りに参加するために出かけました。彼らは出かけましたが、ルハナヴァウ（頭だけ人間）だけはベネツィの村の近くまで、一人の兄によって担がれてゆきました。マンゴーの畑に着くと、ルハナヴァウをおろしました。ルハナヴァウがおろされると、祭りに参加する人びとが彼を見ました。その中の一人がルハナヴァウを（ボールのように）蹴りましたが、ルハナヴァウは一言も発しませんでした。蹴りました、蹴りました、蹴りました。他の人びとは、王さまの祭りに出かけました。

人が言いました、「あちらに、喋る人の頭がございます。胴体はなく、頭だけなのでございます」。

「それは、嘘じゃ」と王さまが言いました。

「うそではございません」

「(胴体の無い) 人の頭が喋るだど？」

「はい、喋るのでございます」

「よかろう、見に行こうではないか」

「まいりましょう」

「もし嘘ならば、いかがしようぞ？」

「私の首を刎ねてくださいませ」

そこで王さまは、憑依の祭りを中座し、大勢のお供を連れて

“Mivola ! Nao koahe, mivolànä Lohanävaio !”

Tsy nivola Lohanävaio

“Adala !”, hoy n’asan’i Lohanävaio, ny eritseriny, “Adala”, hoy aho ! Zaho lohany avao tsy manän-tena, vao zaho koa hivola ?... Mba teto koa iha vasa mba hanahaka an-driha hanäm-bata koa aho, fa tsy mba ho lohanävaio...

Nampivolanina lohanävaio... tsy nivola

“Tha koa n’asan’ny mpanjaka iny, mba raha mavandy. Aïa olo toy tsy mivola lohan’olo toy zao ?”

“Raha nivola tse mpanjaka iny, fe tsy haiku”.

“E moa, n’asan’ny mpanjaka iny, ka hodinihy koa lohanao hanahaka lohan’olo ity iha !”

Dinihy lohan’ilihiny. Nandeha olo maro.

“Ka mbo olo mavandy moa... Aïa lohan’olo zao hivola eo ?...”

I eo rozy nanämboho olo maro iny, nivola Lohanävaio:

“Eo hoy i eo... Nitsambotsaboko Lohanävaio, nifindra anilany eny koa”.

“Mba lohany manahaka anakà koa !” hoe i eo;

Bak’arao lehireny, rava fisàn’ampanjaka eny, moly mbeo.

Ndesin-dreo zokiny Lohanävaio:

“Nao koahe, ino kay anaovanao ny hanihany io ?”

“Nanino hoy i, nitimpatimpahany anakà ? Tsy mba dia koa, hoy i lohany ireny ?”

Tsy zaho mavandy ny antaloa

Ny mpitantara: KATRARA

その人の頭を見に出かけました。

「これがその人の頭とやらか？」

「さようでございます」

「喋るのか？」

「おい、喋れ。ルハナヴァウよ、喋れ」

ルハナヴァウは喋りませんでした。

「馬鹿な！」とルハナヴァウは思いました；「馬鹿な！ 胴体が無く頭だけの俺様が喋るとでも？ 俺様がルハナヴァウではなく、胴体を持ってここに来ることができたらな」

ルハナヴァウを喋らせようとしたのですが、喋りません。

「嘘ではないか。喋る人の頭が何処ぞにある？」と王さまが言いました。

「王さま、なぜ喋らないのか、私にはわかりかねます」

「よかろう、この人の頭のように、そちの首を刎ねようぞ！」

と王さまが言いました。

（その人間の）首が刎ねられました。人びとは帰ってゆきました。

「嘘つきめ。どこに喋る人の頭があるかい？」

人びとが背を向けて去って行くと、ルハナヴァウが喋りました、「おい、ルハナヴァウが跳ねたぞ。近くに転がったぞ」

「おまえの頭は、ルハナヴァウの俺様そっくりさ」とルハナヴァウが言いました。

王さまの祭りが終わると、彼らは帰ってゆきました。兄たちがルハナヴァウを担いでゆきました。

「おい、おまえ、なんであんな悪ふざけをしたんだい？」

「じゃあ、なんであいつは俺を何回も蹴ったんだい？ 頭は、何ともないってわけかい？」と（ルハナヴァウが）言いました。

嘘をついたのは私ではなく、昔の人たちです。

語り手：カチャラ

#### 4. TSITANANTSO

Tsitañantso io olobe. Olo gegy io, tsy manjo an-tanà fa manjo an'ala mbao avao. Ka isaky antoandro rey na isak'aly rey, mandeha mamonjy baibohañ'olo any i, ka homa. Rantsanany amy zao tsako sisy io la tsy misy : balahazo hombotany, tantàny io. Tany raiky, hekitara raiky la hanin'i Tsitañantso i raiky avao, lany tsako manta eny io... le baky nihina añazy vintsy rey, lafa ie mañaly antoandro rey, mañaly andalovañ'olo amy lala eny, mibeko i eo: "lejaleja miantso adala... lejaleja miantso adala"....

Farany i, namoroña an-tanà eo hevitsy, natao an-tsaroña. Ka lafa i antoandro mihinan-tsako rey, nitratsy ie, najobo an-davaky. Lavaky nasia añazy ine, nasia boka. Najobo an-davaky ie, noroa ao. Baky niroa amy zay i, nalembiky. Ie amaraindray ie, faliaña miisa mbeny ie, hita an-tanà eo ! "Lejaleja miantso adala... lejaleja miantso adala".

Tsy namono azy raha iny, tsy nimaty ie. "Lejaleja miantso adala... lejaleja miantso adala".

Homa rahañ'olo ndraiky i, lany ! Tratsy n'akoho, lany. Tratsy aosy raiky, vatany raiky, haniny aby raikitsy tainy, lany !

Farany ndraiky koa, namoronañ'olo hevitsy. Niasa boy eny ñ'olo, niasa boy natao sary olo. Lafa niasa boy tanà io natao sary olo, napetraky amy lala fandalova i eo.

Lafa napetraky amy lala fandalova i eo raha ine, boy ine, nasia lokotara tarehin'i boy iny.

#### 4. ツィタナンツ

ツィタナンツ<sup>「聞きわがられぬ  
しい=阿呆」の意</sup>と言う大人の男がいました。彼は村には住まず、森に住んでいました。毎日毎晩、彼は人の畑に行き、（そこで）食べていました。何もないと、トウモロコシの芽を切り、キャッサバを引き抜き食べました。ツィタナンツ一人で、一ヘクタールものトウモロコシなどを食べてしまいました。彼はお腹いっぱいになると、道に横になり、人が通りかかると唄いました。

「人は阿呆と呼ぶよ 人は阿呆と呼ぶよ」

とうとう村びとたちは集まり、彼を捕まえることにしました。そこで彼が畑にやって来た時、彼を捕まえて穴に放り込みました。穴の中には枯れ木を置いておきました。その穴に彼を投げ込み、火をつけました。彼は焼かれ、埋められました。

しかし翌朝、村びとたちは彼が唄っているのを目にしました。

「人は阿呆と呼ぶよ 人は阿呆と呼ぶよ」

その企みでは彼を殺すことができず、彼は死にませんでした。

「人は阿呆と呼ぶよ 人は阿呆と呼ぶよ」

彼はまた人のものを食べました。ニワトリを捕まえて食べてしまいました。ヤギを一頭つかまえ、一頭丸ごと食べてしまいました。

とうとうまた人びとが集まって決めました。人びとは木で人形を作り、ツィタナンツが通る道に置きました。そして、その人形の顔にタールを塗りました。

Ka tean-dReñantso boy ine... ka boy ine le sandra homehimehy, ka tean-dReñantso i eo, tean-dReñantso io eo: “Oo madamako la homehimehy madamako eo, la teateany aho”.

Boy iny eo io lafa homehimehy avao ny hihiny ka... : “La homehimehy”, hoy i, “la teateany zaho Reñantso adala io”.

Ka laha mitsinjaky Reñantso adala, noho mitipatipaky iny mbeny.

“ La teateany aho !...”

La farany, i hañoroky ie, hañoroky boy sary olo iny...mitotsy i

“ La teateany, la homehy, la teateany, tsy horofako zao !”

La farany, hañoroky tarehiny, la nanditiky eny !

Lafa nanditiky eny:

“Nitratsy”, hoe” Reñantso”, hoe, “ ñ’asan-tanà eny. Kinaiky, tratsy. Lafa tratsy”.

“Hainareo moa”, hoy i, “soa ho azonareo moa hoy aho, ñ’asan’i Reñantso adala... Alaonareo hoy io, oronareo anakahy”, hoy i.

Noroan-drozy ambany eo boy iny, nitranaky lokotara iny, niafaky i. Tsy niazo i.

“Lejaleja miantso adala... lejaleja miantso adala”.

I mbeny ie, miezaneza

Eo i farany i, namoroa hevitsy amy zay ka la, nitratsy amy zay i, ka la vinangovango, ka la nimaty.

Tsy zaho ny mavandy fa ñ’antaloha

Ny mpitantara: SAFIA Soavila

(やって来た) レナンツ (ツィタナンツのこと) がその木の  
人形を見るや、人形が微笑んでいるようで、とても好きになり  
ました。

「ああ、私の奥さん、微笑んでいる 私の奥さん、俺が好き」(と  
唄いました)

木の人形は歯を見せて微笑んでいるようでした。

「微笑んでる、阿呆のレナンツが好き」

阿呆のレナンツが踊ると、その人形も足を動かしているよう  
でした。

「俺が好き！」

しまいには、彼はキスをしようとした、その木の人形に  
キスをしようとしたが、・・・拒むのです。

「彼女は俺が好き、彼女は微笑んでいる。彼女は俺が好き、今  
はキスしない」(と唄いました)

とうとう、(彼は木の人形の) 顔にキスしてしまい、くっつい  
てしまいました。そこにくっついてしまいました。

「レナンツを捕まえたぞ、あの人形で。やつを捕まえたぞ、や  
つを捕まえたぞ」(と人びとが言いました)

「ああ、あんたたちが俺を捕まえてくれて良かった」と阿呆の  
レナンツが言い、「あんたたちの人形から俺を剥してくれ」

そこで人びとは人形を燃やし、タールが融け、レナンツは離  
れることができました。

「人は阿呆と呼ぶよ 人は阿呆と呼ぶよ」(と唄いました)

彼は身体をばたつかせしました。

人びとは最後の話し合いを行い、彼を捕えて死ぬまで殴りま  
した。

私ではなく、昔の人が嘘をついたのです。

語り手：サフィア・スアヴィラ



**Angano sy Tantara Betsimisaraka**  
nangonin-d'RAZAFIARIVONY Michel tao amin'ny  
farit'Anosibe Anala

## **1. BETSIMISARAKA**

Andreo lahaly ?  
Tsarabe zahay lahaly  
Mifañontsafa...mifañontsafa  
Andreo lahaly  
Tsarabe zahay lahaly  
Mifañontsafa  
Dia ten'Andriamanitra ...  
Mañano akory a ry Baba ?  
Mbôla tsara zareo mbôla tsara  
Mañano akory a ry Aia ?  
Mbôla tsara zareo mbôla tsara...  
Andreo lahaly ?...  
Tsara be zahay lahaly

Betsimisaraka tsy notapohan-drano la bitika koza  
Boky matsiro aman-tsaina hano karaha mena-poza  
Be raha hita Rangahy mitantara be tany nandiañaña

ベツィミサラカ族の物語  
ラザフィアリヴニ・ミシェル 採録・翻訳  
アヌシベ・アナラ地方において採話

1. ベツィミサラカ

今宵、みなさまはいかがでしょう？

今宵も、私たちは元気です

互いに挨拶 互いに挨拶

今宵、いかがでしょう？

今宵も、私たちは元気です

互いに挨拶

神のおかげ

お父さんはいかがでしょう？

みんなまだ元気です まだ元気です

お母さんはいかがでしょう？

みんなまだ元気です まだ元気です

今宵、みなさまはいかがでしょう？

今宵も、私たちは元気です

ベツィミサラカは一滴の水のしたたりに非ず

心に染み入る本はカニの脂のごときを食すなり

多くの旅をした男、語るべき多くのことあり

大人が水浴びできるほどの大かぼちゃや良し 驚くなかれ

Babàka nandroany zalahy no tsara ka aza mahamañaña  
Eka tokoatra fa zaho maneky fa tan-taranoaña  
Elabe zany tsy niady tareky fa azo ninoaña.  
Etsy ny tain-dalitra an-drañalahy sy an-drañavavy  
Eo vao miandoha zany Rangahy aza laitra mosavy  
Mitenoa tsarabe zeny manan-tadîny  
Avilay rofarofà !

Tanan-draikalahy zakàn'izy ity ho mañaña andreo  
Tilihiny hatramin'ny fahagolan-tany ka ambarakandreo  
Etsy feheziko tañaña rony tsarà amin'iazana  
Ataovy manembony hoe ny karazana zahano meniny  
A rony ! Aza ny rano mitombina amin'ny vato mipoetiky  
Andao ntsena hiansiantsiaka ka ny trano hovohana  
Ka nadiniko entoña nampanoina anjareo ngalifantsy  
Aza manaraka raika manjavona hono fa ratsy...  
Rasaraka namako : boky, gazety, kahie, taratasy,  
Asondroty !  
Fa zany no fangadin'ny saina hanondrotra antsena.  
Reniko my ty monina aketo fa misy miboésaka  
Rafasanay hono ny boky avy an-tsekoly fa hetsaka  
Korokorom-bary tsy ialam-pizofizo, hamboly tsy malaka  
Korokoron-doha tsy mampiasa ny azo ka zovy no halaka ?  
Anatra añaahy fa tsy vady avela, izy se sarin-tenany  
Tono tsy tian-ko may tsy avela fa avadika tenany  
Avelako aketo raha ny firañira soàna hitono voamaho...

しかり 私は過去を認める  
昔々、タレキ〔シキディと呼ばれる点々に  
しおける一つの形象の名前〕は争われず 信じられるのみ  
老人と老女のハエの糞あり  
男のはじまり 邪術にさらされることなかれ  
耳ある人よ良くお聞き 軽率たることなかれ  
一人の男がしゃべることは、あなた達を驚かす  
（今から）大昔に至ることを明かす  
私の手を結ぶまは老人たちへの挨拶  
一族をながめわたせ そして良く見よ  
いや！ 岩に跳ねる水滴にあらず  
冷やせ 家を開けよ  
私は賢者たちからの答えを問う  
ものが見えない人間に従うべからず 悪しきこと  
私の友人ラサラカ：本、新聞、ノート、紙  
高く掲げよ

これぞわれらの精神を発達せしめしもの  
私は、共に暮らす人びとの間に自慢する人のあることを聞く  
その人たちは、学校の本は退屈ゆえ嫌いと言う  
虫に食い荒らされた稲は、農夫も刈らず  
そんな人間の使われることなく腐った頭を、誰が刈ろうか？  
これは忠告にして追い出された妻にあらず 現実の姿  
焦がさずに焼くならば、放置せず肉を裏返すべし  
私は、ヴァマフの実をほどよく焼くために刈った草を置く

ああ、ヴァチュチュカの実のごとくあなたたちは高きにあり  
あなたたちの祖先が暗愚なれば、

O andreo añambonambo karaha voatrotroka maneva rony,  
Raha koa matromatroka ny fobezantsena tony  
Andreo ny fanantsàna avy amy zaza vao.

O andreo razana namolina an-kibo  
Oneno fonay na tsiboka aza aketo  
Hadihady mametsy, fotsiloha ambony vato  
Esory !  
Fa izay manabe fadifady, dobo iandronan'ny vandaña.

Ambarakaly ?  
Tsarabe zahay mbarakaly  
Mifañontsafa...mifañontsafa...  
Ambarakaly ,  
Tsarabe zahay mbarakaly  
Mifañontsafa  
Dia ten'Andriamanitra  
Mañaño akory a ry Boto ?  
Mbôla tsara zareo mbarakaly  
Mañaño akory a ry Poraka ?  
Mbôla tsara zareo mbarakaly. mbarakaly..  
Ambarakaly...

Ny mpitantara: Barthélémy

あなたたちは新しく生まれし者たちのファンツアナ<sup>【<sup>o</sup> tsinny 子供  
】がことばを</sup>

話すようになる前までに取り除けなかったならば、  
すなわち習慣を守らなかった場合、必ず訪れる災厄]

ああ、あなた達祖先は腹にて私たちを形作られし  
私たちの心を据えよ たとえ諍いがあるうとも  
欺きの穴、石の上の白髪頭

取り去れ！

それぞれ多くのゆえなき信心を育みし源、汚点の浸る沼

アンバラカリ<sup>【出会った時の  
挨拶のことば</sup>】？

私たちはたいへん元気です ムバラカリ<sup>【アン  
ラカリ</sup>】

互いに挨拶 互いに挨拶

アンバラカリ

私たちはとても元気です ムバラカリ

互いに挨拶

神の祝福を

ブトウは元気？

彼はとても元気です ムバラカリ

プラカは元気？

彼女はとても元気です ムバラカリ ムバラカリ

アンバラカリ

語り手：バーテレミ

## 2. TSODRANO FANAOVAM-BELOMA

Misaotra namangy,  
Nareo handeha, zahey mbola eto,  
Mitomboam-balabe  
Mivanòna am-pahitr'akoho,  
Tsy ho resin-dehilahy manan-tsadika  
Tsy ho resim-biavy manana akanjo,  
Ho tafandry manana aina  
Hifoha tsy fohazina  
Hitam-bava añañaña  
Tsy banga nify matoy katsaka  
Dongadonga sakaiza  
Ho tsara vady renianaka  
Tsy harofy taiza  
Tantim-bary zato fanovona  
Vady afaka aterin-drafozana  
Vary lavo tsindrian-tsirin'anana  
Indrindra fa tsy ho vaky sinibe fararano  
Tsy ho lasa salaka vory vahoaka  
Tsy ho diso andraikitra amy tanindrazana.

Zany tsodrano omena andreo.  
Tsarava daholo

## 2. 別れの際の祝福

お訪ねくださりありがとうございます  
あなたたちは行かれますが、私たちはここに、まだここに  
残ります  
牛囲いが大きくなりますよう  
鶏小屋がにぎやかになりますよう  
禪をしめた男に負けることなきよう  
衣装を着た女に負けることなきよう  
生きてお眠りくださいますよう  
起こされずに起きてくださいますよう  
いつも手に持つものがありますよう  
トウモロコシの収穫期に歯の欠けることなきよう  
友人がふくよかであられるよう  
子どもの母親である奥様が息災であられるよう  
子どもたちが恙なきよう  
百ものファヌヅナ<sup>【コメの量  
を測る器】</sup>のコメがとれますよう  
奥様が義父によって送りとどけられますよう  
刈り取られた稲が野菜の芽に取り変わられますよう  
とりわけ秋（の収穫期）に水壺が割れることなきよう  
人びとの前で禪のゆるむことなきよう  
祖国への義務に反することなきよう

以上があなた達に贈る祝福です



Ravin'aviavy : tsara avy, tsara niaviana  
Misaotra rô  
Afara akany mbola hihaona.

Ny mpitantara: LEZOMA dit Lekarana

みなさん、お元気で

アヴィアヴィ【クワ科の  
植物名】の葉：無事来るは無事行くなり

また何時か、お会いしましょう

語り手：ルズマ（別名 レカラナ）

### 3. RABEFANI

Henoy kely ry vahoaka.

Fa i Rakoto Rabefania dia tsy mba miray amy  
fokonolona.

Zava-mahagaga amy toe-piainana.

Olon-dehibe fa tsy zazakely.

Tsy mandinidinika mety atao anio  
fa lalana hafa no iviliany.

Ray aman-dreniny dia tsy tiany,  
reo rahalahiny dia laviriny.

Mpiray tanàna nimonomonona.

Olon miasa amy fokontany,

izy kosa lasa mangady foza

Olon miasa amin'ny sekoly,

izy kosa lasa mangady trandraka

Olon miasa amin'ny hopitaly,

izy koza lasa manjono ary

Olon lasa mandeha mivory,

izy koza lasa mitapy an'andro

Zava-mahagaga anefa izany.

Na eo ny toerana ze mahazatra

### 3. ラベファニア

みなさん、聴いてください

ラクトウ・ラベファニアは村の人たちとは一緒にやってゆきません

社会生活上の驚くべき事柄です

子どもではなく大人なのです

今日やるべきことを彼は顧みません

彼は他の道にそれてしまいました

彼は、両親を嫌っています

彼の兄弟たちを遠ざけています

全ての村人たちに対し文句を言っています

人びとは村（フクンターニ）と共に働きます

彼はカニを獲りに行ってしまいます

人びとは小学校のために働きます

彼はテンレックを獲りに行ってしまいます

人びとは病院のために働きます

彼の方は魚獲りに行ってしまいます

人びとは集会に出かけます

彼の方は日向ぼっこに行ってしまう

何とも驚くべき事です

人には馴染んだ場所があるとは言え

Fiainana misy fiafarany,  
indreo narary Rabefania  
Izy mivady no tao an-trano.  
Zao ny areti-nahazo anazy  
Andilany rekitra ka nandady.  
Vehivavy reraka am-piterahana  
Maka kitay, mitoto vary.  
Ny asa rehetra dia nimasoany  
Mafy dia mafy nahazo anazy,  
la velon-tsento dia nieritreritra  
Ndeha hiantso ny fati-dra.  
Sao dia maty eto rangahy ity  
Lasa tokoa le ramatoa.  
Dia hoy ny tenin'ny fati-dra  
Zaho anie nilaza taminareo :  
mba mikambana amy fokonolona  
Saroitra dia sarotra ny fiainana.  
Raha tsy matahotra menakely aho  
Dia navelako teto mba ivantsiana.

Mifona aho ô ry Zanahary,  
zava-tsy mety nataoko teo  
Mifona aho ray aman-dreny,  
zava-tsy mety nataoko teo  
Mifona aho re tam-boko raiky  
fa zava-tsy mety nataoko teo

人生には終わりがあります  
ラベファニアは病んでしまいました  
ラベファニア夫妻は家におります  
彼が得た病は次のようなものです  
腰を動かさないため、這っているのです  
妻は世事に疲れています  
薪を取りに行き、米を搗き  
彼女はあらゆる仕事をしております  
彼女の生活はたいへんに厳しいものです  
彼女の頭に浮かぶのはため息のするような生活です  
夫が死んでしまうといけけないので、彼女は<血の契りの人間>  
(ファティドゥラ) を呼びにゆきました  
彼女は出かけました  
<血の契りの人間> が妻に言いました  
「私はあなたたちに言おう。村の人たち (フクヌルナ) と一緒にやりなさい」  
人生とはたいへんなものであります  
ことば足らずを恐れずに言えば、  
みなさんに教訓をお残したい

神よ、お詫び申し上げます  
私がこれまでに為してしまった悪しきことを  
年長者のみなさま、お詫び申し上げます  
私がこれまでに為してしまった悪しきことを  
兄弟姉妹のみなさん、お詫び申し上げます  
私がこれまでに為してしまった悪しきことを  
私は賢明さに配慮することなく

Tsy mba nitandro ny fahendrena  
fa ny aina ho sasatra no kendrena.  
Ny hevitra ny maro tsy mila ampiana.  
Ny anatan'ny Dada dia nariana  
Manary azy ny Fokonolona nony zareo  
nitoka-monina  
Tsy misy tsy gaga ireo mponina.  
Na dia olona iray aza atsy natonina  
Tato aoriana ry zareo dia nanova famindra ka  
nandinika  
Satria neken'ny fokonolona ny fahadisoana  
nataon-jareo  
Isany maraina sy hariva,  
lasana manatona ny fokontany  
Navory daholo ny fianakaviana,  
hanaovan-jareo dinidinika  
Raha misy asa ataon'ny olona,  
vonona hitandro firaisan-kina  
Raha misy marary henonay,  
dia tsy hatao intsony tsy hitsidika.

Ny mpitantara: BOTOARIVO Samuel

苦しい生活のみを思ってきました  
多くの人びとの意見を認めることをしませんでした  
父親の忠告を無視してきました

村の人たち（フクヌルナ）は、ラベファニアたちが単独生活を  
はじめた時、彼らを捨てました  
住人たちの中で驚く人は一人もいませんでした  
誰一人、彼らに近寄りませんでした  
その後、ラベファニアたちは態度をあらため、反省しました  
なぜなら、村の人たち（フクヌルナ）が、彼らの犯した過ちを  
受け入れたからです  
毎朝毎晩、  
村人の集会（フクンターニ）に出かけました  
話し合うため一族全員が呼び集められました  
もし人がやるべき仕事があるならば、  
相互協力する用意があります  
もし誰かが病んでいると聞きつけば、  
訪ねないなどということはもはやありません

語り手：プトゥアリヴ・サミュエル



#### 4. IZY TELO MIRAHAVAVY T

Indray andro hono izy telo mirahavavy. Telo mirahavavy, hono izy ireo iraitampo : Talañolo, Fanivonivo ary i Faravavy. Nirahin-dray aman-dreniny hono izy ireo handeha hambely anana. I Talañolo hono nambely ravin'anana, i Fanivonivo hono nambely tolan'anana, ary i Faravavy nambely voan'anana. Nandeha hono zareo dia nandeha... Tonga tan-tanimbolinjareo hono izy ireo, dia i Talanolo hono nambely ravin'anana, i Fanivonivo hono nambely tolan'anana ary i Faravavy nambely voan'anana. Feno hono ny an'i Fanivonivo sy Talanolo, Faravavy mbola nisasaka ny harona.

Niteny hono i Talanolo sy Fanivonivo hoe :

“Hinga handeha hody zahey Faravavy, fa zey lalana misy ravina dia iny lalana arahinao”.

“Eka”, hono, antsoin'i Faravavy.

Dia nandeha hono zareo.

Amy lalana alehan-dRatsikapaka hono napetrahanjareo ravin-dongoza.

Feno hono, haron'i Faravavy, dia nandeha izy nody, dia nandeha izy nody...

#### 4. 三姉妹

三人の姉妹がいました。彼女たちは同母姉妹でした。タラヌル（長女）、ファニヴニヴ（真ん中）、ファラヴァーヴィ（末の女）の三人です。彼女たちの両親は、彼女たちに葉野菜を採りに行かせました。タラヌルは葉野菜の葉を、ファニヴニヴは葉野菜の茎を、ファラヴァーヴィは葉野菜の実を集めます。彼女たちは行きました、行きました。彼女たちは彼女たちの畑につき、タラヌルは野菜の葉を、ファニヴニヴは野菜の茎を、ファラヴァーヴィは野菜の実を集めました。タラヌルとファニヴニヴの籠は一杯になりましたが、ファラヴァーヴィの籠はまだ半分だけでした。

タラヌルとファラヴァーヴィが言いました、「ファラヴァーヴィ、私たちは帰るわ。帰り道にも野菜はあるから採ったらどう？」

「ええ」、とファラヴァーヴィが答えました。

彼女たちは出発しました。

ラツィカパカ<sup>tsy=否定辞 kpa=切り分ける</sup><sub>「こと、つまり「切られない人」</sub>の通り道に、彼女たちはルンゲーザの葉を置いてゆきました。

ファラヴァーヴィの籠が一杯になると、彼女も帰ってゆきました、帰ってゆきました。

「あら！ ここは姉さんたちの通った帰り道だわ。（ルンゲーザの）葉があるわ」と言いました。

"E ! ity lalan'ny zokiko zany fa nisy ravina", hono.

Dia nahazo lalana iny hono izy, dia ninga taloha, ninga taloha... Refona my hono izy, dia nahita voasary masaka be !

Dia nizaka izy hoe :

"Noana aho izany ka handeha hianika voasary".

Dia nananika hono izy. Tonga tañambo hono izy dia nambely voasary anankiroa. Lany hono voasary anankiray dia avy Ratsikapaka.

"A Faravavy, Faravavy ! manino ambony akeo anao?"

"A, refona moko zaho ity ka mambely voankazo !"

"Moa voankazo nambolenao moa io ? Midina malàky moa anao fa naniko anao niany", hoy Ratsikapaka, hono.

"Zaho moko matahotra masonao menabe io".

Dia nopotsepotserin'i Ratsikapaka hono masony.

"Midina amizay anao moko Faravavy".

"Zaho moko matahotra tananao lavabe io !"

Tapatapahin-dRatsikapaka hono tanany.

"Midina amizay moko anao Rafaravavy !"

"Zaho matahotra vatanao rehetra rehetra manontolo io".

Dia notapahin-dRatsikapaka aby vatany rehetra manontolo io... Nivoan'iny hono i Faravavy dia tonga

彼女は帰り道がわかりました。どんどん行きました。ファラヴァーヴィは熟れた蜜柑を見つけると、お腹がとてもすきました。

彼女は言いました、「お腹すいたわ、蜜柑をもぎに行きましよう」

彼女は、蜜柑をもぎました。彼女は木の天辺にのぼり、蜜柑を二個採りました。蜜柑を一個食べたところで、ラツィカパカがやって来ました。

「お〜い、ファラヴァーヴィ、ファラヴァーヴィ！ おまえはそんな高いところで何やっているんだ？」

「とっってもお腹がすいたから、ここで実を採っているのよ」

「その実は、おまえが作っているものかな？ 早くおりてきな。今、おまえを食べちゃうぞ」とラツィカパカが言いました。

「私、あなたの真っ赤な目が怖いわ」

そこで、ラツィカパカは自分の目を押し出しました。

「さあ、降りてこい、ファラヴァーヴィ」

「私、あなたの長い腕が怖いわ」

そこで、ラツィカパカは自分の腕を切り落としました。

「さあ、降りてこい、ファラヴァーヴィ」

「私、あなたの身体全部、全身が怖いわ」

そこで、ラツィカパカは自分の身体を切り刻みました。ファラヴァーヴィは木から降りてきて、道に出ました。それから彼女は走りました、走りました。稲作をしている人に出会って、言いました。

「籾を撒いている人！」

「籾を撒いている人！」

tankarabe. Dia nihazakazaka hono izy, nihazakazaka...

Nahita olona nambely vary hono izy dia zany nataony :

“O ! olona mamboly vary roñy e !”

“O ! olona mamboly vary roñy e !”

“Ity Faravavy fa anjehin-dRatsikapaka”.

Dia nizaka hono olona io hoe :

“Anjeho Ratsikapaka ! Anjeho Ratsikapaka ! Raha tsy azonao dia mba ombanay”.

Nihazakazaka my Faravavy, nihazakazaka my hono. Dia nahita olona miava vary.

“ O ! olona miava roñy e !”

“O ! olona miava roñy e !”

“Ity Faravavy fa anjehin-dRatsikapaka”.

“Anjeho Ratsikapaka ! Anjeho Ratsikapaka ! Raha tsy azonao dia mba ombanay”.

Ratsikapaka hono efa manohy ny vatana anazy ary akaikin’ny vodin’ny voahangy.

Ninga my hono Faravavy, ninga my... Indreo hono nisy olona mitoto vary. Ratsikapaka hono efa afara se lavitra anazy.

Dia nitomany hono i Faravavy tan-dalana takeny sady mihazakazaka... Nisy olona zeny hono anila rano nanapy vary takeo Ratsikapaka hono efa akaikikaiky akeny my izy.

「この私ファラヴァーヴィは、ラツィカパカに追いかけてられているんです」

その人が答えて言いました。

「ラツィカパカを追っかけなさい。ラツィカパカを追っかけなさい。あなたが彼を捕まえられなければ、あなたは村に戻れるでしょう」

ファラヴァーヴィはまた走りました、走りました。稲の草取りをしている人に会いました。

「稲の草取りをしている人！」

「稲の草取りをしている人！」

「この私ファラヴァーヴィは、ラツィカパカに追いかけてられているんです」

(その人が答えて言いました)

「ラツィカパカを追っかけなさい。ラツィカパカを追っかけなさい。あなたが彼を捕まえられなければ、あなたは村に戻れるでしょう」

この間にラツィカパカは、蜜柑の木の根元で、(バラバラになった) その体を繋ぎ合わせていました。

ファラヴァーヴィはまた出かけました、出かけました。今度は、米搗きをしている人がいました。ラツィカパカは、ファラヴァーヴィの間近に迫っていました。

ファラヴァーヴィは道々泣きながらも、走りました。川の反対側に、稲を天日干ししている人がいました。ラツィカパカはもう彼女の間近まで来ていました。

稲の天日干しをしている人と(ファラヴァーヴィが走る)道との間には川がありました。

Misy rano zeny ampovoany anelanelan'ny arabe sy olona manapy vary io. Dia nizaka hono i Faravavy hoe : "Handeha hivavaka aloha zaho na ho maty aho na ho velona !".

Dia nivavaka hono izy hoe : "Andriamanitra ô ! vonjeo zaho am'izao fahoriana manjo anahy izao".

Dia nihira hono izy hoe :

“Andreo manapy vary roñy e !”

“Andreo manapy vary roñy e !”

“Ity Faravavy fa anjehin-dRatsikapaka”

“Ho ! Toa feon'ny zanako hono zany ? ... Avereno koa tsia !”

“O ! Andreo manapy vary roñy e !”

“O ! Andreo manapy vary roñy e !”

“Ity Faravavy fa anjehin-dRatsikapaka”

Zokiny, izy mirahavavy hono efa tan-trano takao.

“Ary ka nariandreo i Faravavy ?”

Nalain'i abany hono i Faravavy. I zareo mianaka ampovoan-drano dia avy hono Ratsikapaka. Lalina be rano, tafatsaka anilany hono zareo. Nitsaka rano Ratsikapaka, dia maty tanaty rano takao.

Tonga tan-trano Faravavy dia notantarainy aby hono raha nanjo anazy, sady nitomany izy.

Dia nizaka ray aman-dreny :

ファラヴァーヴィが言いました、「私は死ぬのか生きられるのか、祈るわ」

そして彼女は祈って言いました、「ああ、神様！ どうか私が陥っている苦境からただちにお救いください」

それから、彼女は唄いました。

「稲を干しているあなた！」

「稲を干しているあなた！」

「この私ファラヴァーヴィは、ラツィカパカに追いかけられているんです」

「あれ、あれは娘の声じゃないのかい？ もう一度繰り返しておくれ」

「稲を干しているあなた！」

「稲を干しているあなた！」

「この私ファラヴァーヴィは、ラツィカパカに追いかけられているんです」

姉さんたちはもう家に戻っていました。

「ファラヴァーヴィを置いてきたのかい？」

お父さんが、ファラヴァーヴィを迎えに行きました。父と娘が川の中ほどに来た時、ラツィカパカが追いつきました。深い川でした。父と娘は川の向こう岸に辿り着きました。ラツィカパカも川を渡ろうとしましたが、川の中で（溺れて）死んでしまいました。

家に着くと、ファラヴァーヴィは泣きながら起こったことを話しました。

それから、両親が言いました。

「おまえたち姉妹、おまえたち姉たるタラヌルとファニヴニヴを信頼していたのだが、妹を置き去りにしてくるとは」



“Ary ka andreo mirahavavy, izany moa lohanareo, andreo Talanolo sy Fanivonivo niantetherana indraika dia ny zandrinareo narianareo”.

Tezitra tamin’iny hono ray aman-dreny dia noroasiny zanany.

“Mahavelon-tena”, hono,” andreo matoa andreo manary an’i Faravavy ohatra an’io”.

Dia noroasiny hono izy mirahavavy dia ninga amin’ny aty ala velona akany zany zareo, dia nanorina trano takany. Nanjary nahantra be hono zareo.

Dia nizaka i Faravavy hoe :

“Zareo my Mama takeny, adalanjareo foana zaho isaky mivavaka an-dàlana takeny dia alanjareo foana”.

Dia nizaka hono Mamany hoe :

“ Mahereza ianao mivavaka fa raha tsy avy mivavaka hono anao dia maty tan-dàlana takeny anao”.

Zany sasazako bitika. Angano, angano, Mahavaly an’izany andreo dia maina ny andro, tsy mahavaly an’izany andreo dia morana ny andro.

Ny mpitantara: Joséphin

怒った両親は、娘（タラヌルとファニヴニヴ）を追い出しました。

「ファラヴァーヴィを置き去りにしてきたおまえたちは今日から自活なさい」

両親は二人の娘を追い出しました。二人は原始林の中に行き、家を建てました。二人はひどく貧乏になってしまいました。

ファラヴァーヴィが言いました。

「ねえ、お母さん、道々私がお祈りすると、姉さんたちは嫌い、私を馬鹿にしたわ」

お母さんが言いました。

「しっかりと祈りなさい。もしあなたが祈らなかったら、途中で死んでいたわ」

以上が私の短い短いお話です。昔話は昔話。あなたたちがこのお話にお返しできれば、天気は晴れ、お返しできなければ、天気は雨。

語り手：ジョゼフィン

**Angano Tsimihety**  
nangonin'i FUKAZAWA Hideo tao amin'ny faritany  
Majunga

## 1. BIBIDAOARA

Misy Bibidaoara. Mamanazy, mamany biby. Zanakanazy biby tsara, hoe manangy tsara.

Handeha ambelany zanakanazy, izy mandeha mitsarakaraka vorona hoaniny any. Any izy, any izy. Izy mipody, mivoaka.

“Maimaimbo Bibidaoara eh!, maimaimbo. Maimaimbo Bibidaoara eh! Maimaimbo”.

Mamaly zanakany iny.

”Tsi’sy olo eto, niny eh ! Tsi’sy olo”.

Booooooooo.

Io foaña ataony zosoka izy tonga any an-tranony. Omena azy vorona hoaniny. Lasa mandeha koa izy koa. Any koa izy. Kara io, kara io foaña nataony.

Andro raiky tsy hay fa tafavoaka mamany nandeha, nahita lehilahy. Izy nahita lehilahy, tamin’zay tiany lehilahy, lehilahy koa tia azy. Farany lehilahy manam-bady, mampirafy. Misy vady raiky.

“Anao”, nanambara an’ny lehilahy io.

ツイミヘティ族の民話  
深澤秀夫 採録・翻訳  
マジュンガ地方において採話

1. ビビダウアラ

ビビダウアラ [bibi<sup>daora</sup>= bity (動物)  
+daora (動きまわる)] がいきました。母親は動物でした。  
その子供は美しい動物で、美しい女性でした。

お母さんは、子供を置いて、餌にするための小鳥を探しに行きます。あっちこっちに行きます。お母さんは戻ってくる時、「ビビダウアラ、臭いよ。臭いよ。ビビダウアラ、臭いよ。臭いよ」と言います。

すると娘も応えて、「ここに人間はいないよ。人間はいないよ」と言います。プ〜プ〜プ〜プ〜プ〜。家に戻るまで、そんなやりとりを繰り返すのです。娘に餌の小鳥を与えます。お母さんはまた行ってしまいます。そんなことを繰り返していました。

ある日のこと、良くはわかりませんが、お母さんが出かけた後で、ビビダウアラは男性と出会いました。その時、ビビダウアラはその男性のことを好きになり、男性もまたビビダウアラのことを好きになりました。ついに男性は結婚しましたが、男性には他にも妻がいきました。もう一人、奥さんがいたのです。

「あなたを」、その男は（ビビダウアラに）打ち明けました。  
「愛しているから、妻にするためにあなたを私は連れてゆきたい」

“Anao tiako, handesiko angala ho vady”.

Ambaran’i Bibidaoara, “Mamako mahasaiky ka izy farany tsara ho an’ny zanakan’ny Bibidaoara”.

Io foaña mandeha mamany.

Andro raiky, nandesiny lehilahy io izy.

Ao nanambaran’ny lehilahy an’i Daoara, “Ndao tsika karakarao zany Bibidaoara”.

“Andraso, izaho rasa dia raha jiaby an-tranonay avy. Rasa dia volonay na sotra raha jiaby”.

Nandeha rizareo. Booooooooo. Lôôô.

Any tengatenga an-dalana, nanambarana Bibidaoara.

“Ha, maty zaho ! Hadinoko fanjaitra tsy natao rasa dia”.

“Ndao môdy”, hoy lehilahy.

Lasa foana rizareo.

Avy mamany.

“Maimaimbo, Bibidaoara eh! Maimaimbo, maimaimbo Bibidaoara eh!, Maimaimbo”.

Tsy namaly baka. Booooooooo, jeky izy avy tao an-tranonjareo.

“Aia Bibidaoara? Bibidaoara?”.

Nizahana Bibidaroara.

“Bibidaoara? Bibidaoara?”

Tsy hita Bibidaroara ato. Nanontany entana.

“Nataony rasa dia tsi’sy nivolana”, avy tao tamin’ny fanjaitra .

“Ma”, hoy izy.

ビビダウアラも「もし、ビビダウアラの子供のためにあなたが最もふさわしいから、私のお母さんも承知するわ」と言いました。

それで、ビビダウアラのお母さんのところに行くことになりました。

ある日のこと、ビビダウアラはその男性を連れて行きました。「さあ、ビビダウアラよ、私たち（出発のための）準備をしよう」と男性がビビダウアラに言いました。

「ちょっと待って。私は、家の中の物全部にお別れをするわ。私の羽根にも匙にも、物全てにお別れするわ」

彼らは旅立ちました。プ〜〜。行ってしまいました。

旅のまさに途中で、ビビダウアラが言いました。

「ああ、なんてことでしょう。私は、針に別れを告げてなかったわ」

「じゃあ、戻ろう」と男性が言いました。

二人は、戻りました。

お母さんが帰って来ました。

「ビビダウアラ、臭いよ！ビビダウアラ、臭いよ、臭いよ！」返事はありませんでした。プ〜〜、彼女たちの家から飛び立ちました。

「ビビダウアラは何処へ行ったのだい？ビビダウアラは？」

ビビダウアラを捜しました。

「ビビダウアラ？ビビダウアラ？」

ビビダウアラはそこでは見つかりませんでした。（家の中の）荷物にも訊きました。

「別れの挨拶をしたけれど、伝言はなかったよ」と針が言いました。

“Bibidaoara koa izy niaraka tamin’ny lehilahy mianavaratra any”.

“Hon”. Voky mamany

Izy raha biby, booooooooooooo.

Efa hain’ny zanakany. Rizareo nandesy sarety.

Nambarany tamin’ny lehilahy.

“Mamako zany. Izaho hijotsy eto”.

“Iziko mamako mahita anao, vonoiny”.

”Izany ?”.

Avelao foana tanana. Nifify lehilahy, namana,

“ Handeha aia Bibidaoara ?”, hoy izy.

“Izaho nandeha nanambady, Niny”, hoy izy.

“Na handeha hanam-bady na mipody na tsy mipody na mianatsimo na mianavaratra na miatinnanana na anivonivon’ny tanana”, hoy izy.

“Raha raiky fonosotra ho aminay, zanako”.

Koaka masonazy roy. Lôso nandesiny masony iny.

Masony nandesiny tao anatin’ny kapila fotsy nanvelany.

Iziko lasa baka izy iny, mivoaka lehilahy.

“Aa”, ambarana an’ny lehilahy, “Handeso zaho fa masoko nadesin’ny mamako eh! Ka tsy mahasaiky napatrohana amin’ny vadibe. Ambelany tanana hafa”.

Ireny nandeha, nandeha. Nandeha volana, ireny rafo-vavy.

“Ma, izy ndraiky tsara fa maso tsi’sy”.

Mitomany amin’izao izy, baka mitomany, miatomany.

Hitan’ny mamany, avy koa mamany. Izy nivoaka.

「なんですって！」とお母さんが言いました。  
「ビビダウアラは、男と一緒に北に向かったよ」  
「ああそうなのかい」、お母さんはびっくりしました。  
お母さんは動物でしたから、プ〜〜と飛んでゆきました。  
子供はもうわかっていました。ビビダウアラと男は牛車に乗  
っていました。

ビビダウアラが男性に言いました。  
「私のお母さんだわ。私ここで降りるわ」  
「もしお母さんがあなたを見つけたら、殺すわ」  
「え、そうなのかい？」  
村に男性をおろしました。夫の男性は身を隠しました。  
「ビビダウアラよ、何処に行くんだい？」とお母さんが言いま  
した。

「私は結婚したのよ、お母さん」と彼女が言いました。  
「結婚しようが、戻ろうが戻るまいが、南に行こうが、北に行  
こうが、東に行こうが、村の中に居ようが」とお母さんは言い  
ました。

「わが子よ、私に代わりのものをおくれ」  
二つの目を掻きだしました。お母さんは、彼女の目を持って  
行ってしまいました。白い皿に入れられた彼女の眼を、お母さ  
んが持って行きました。

お母さんが去ってしまうと、男が姿を現しました。  
「ああ」と男性に言いました。  
「お母さんが私の眼を持って行ってしまったので、私を連れて  
いってくださいな。奥様にきつくあたることはいたしませんか  
ら。他の村に置いてください」

彼らは行きました、行きました。一ヵ月後(ビビダウアラの)



Booooooooo, jeky.

“Naninona anao?”, hoy izy.

“Eika, ninny”, hoy izy.

“Izaho misy rafo-vavy. Hoy izy manome sasin-teny, mizaha maso. Izaho tsara fa tsi’sy maso”.

Nandeha foana any mamany. Toy vatana an-trano, nangara masonry napetraka teo.

Avy koa.

“Ma, tsara fa tsi’sy entana anatin’ny trano” .

Mitomany.

Mbola hitan’ny mamany na avy koa mamany. Mamany avy.

“Izany foana mampalahelo zanako?”

“Ia”.

Nangara kakazo toko telo. Iny tsofohan’ny mamany complet entana jiaby. Navy koa izy koa.

Fa farany Bibidaoara tia izy. Mikorana mikorana magano rafovavy ity.

Izany nambaran’ny Bibidaoara.

“Oa, namorona anareo jiaby eto ity tompon’tanana ity eto”.

Nangarainy fasiky tao anatin’ny vilany. Nangarainy taolana hena raiky, nataony anatin’ny vilany. Olona feno.

“Asa, atao vary?”

“Hohon, io foana”, hoy Bibidaoara. Ela, ela, ela, sokafona vilany, vary nandatsakatsaka. Sokafo raiky, hena vondraka, hena taolan’ny hena io.

Avy zany koa baka, rafo-vavy raiky hagano kara io koa.

姑に会いました。

「あれま、彼女は、以前は美人だっただろうに目がないわ」

ビビダウアラは泣きました、泣きました。

お母さんが(ビビダウアラを)見つけ、やって来ました。お母さんがブ〜〜と飛んでやって来ました。

「おまえ、どうしたんだい？」

「ああ、お母さん」とビビダウアラが言いました。

「私には姑がいます。姑が目をみて一番最初に、私は美人だけど目がないって言ったの」

ビビダウアラのお母さんは家に向かいました。奪った眼は、家の中の箱に置かれていたのです。

目が届きました。

「ああ、美人だけど、家の中には荷物がないわ」(と姑が言いました)

(ビビダウアラが)泣きました。

お母さんが泣いている(ビビダウアラ)を見つけました。お母さんがやって来たのです。

「わが子よ、そんなことで悲しいのかい？」

「ええ」

(お母さんは) 薪を三山<sup>[kinty selo = 「三つの薪」、夫婦が作った財産]</sup>取ってきました。それは、お母さんが持ち込んだ完璧な荷物でした。

とうとう、その姑もビビダウアラを好きになりました。姑は(ビビダウアラと)話をしました、話をしました。

ビビダウアラが言いました。

「ああ、あなたがた村の人たち全員をここに集めてください」

鍋の中に砂を入れました。もう一つの鍋の中には骨を入れました。人でいっぱいになりました。

“Mivoria olona jiaby eh!. Fa izaho tia hangano fivoriana eto”.

Nagano tato Bibidaoara fasika. Nataony vilany raiky, nataony taolana io. Tsofotra kiaka andro, mivahana fasika, mbola ndrengo teo fasika, tsy nivadika vary. Nalainy taolana hena, mbola robaroba rano tsy naninona, mbola hena io. Farany andro nandeha alina, nandisa vary, namono omby zay natao. Bibidaoara teo hamono azy.

“Ma voky. Bibidaoara, izay te handoa hoy zaho”, hoy rafozany..

“Nareo mivoria eo. Zaho te handoa, rafozana”.

“Ndao mandehanana anao tenan-drano”..

“Ehen, hoy zaho. Tsy handeha tenan-drano fa angalao lambahoana rôy, avelao raiky, io raiky ary”.

Nandoa iny volamena. Nandoa volafotsy.

Nagano koa rafo-vavy, nagano koa pare koa.

“Aiza te handoa, rafozako eh!”.

Nalainy koa raiky ambelana ary lambahoana.

Lambahoana ambelana raiky, ambelana raiky eo koa.

Nandoa vary ireriky, nandoa vary ireriky.

Tsy mety tonga saina.

Avy koa ny bibidaroara, te hamono azy koa.

“Aa, rafoza, te hiseky zaho zany! Ma, mafana”.

“Ndao anao mandehana tenan-drano”.

“Ehen, izaho tsy hadeha fa hangalam-batan-lehilahy. Jiaby mangala kakazo. Izaho mitsangana anivoniny eto. Ampodidianao zaho kakazo. Ampirehitro motro”.

「あれ、ご飯は炊くのかしら？」

「いいえ、それだけよ」とビビダウアラが言いました。

長いことかき鍋を開けると、煮えたご飯が落ちて来ました。もう一つの鍋を開けると、その骨は脂ののった肉になっていました。

姑がやって来て、同じことをしました。

「みなさんお集まりください。私はここで会を開きましょう」

ビビダウアラが先ほどしたのと同じように、砂を入れ、もう一つの鍋には骨を入れました。日暮れてから(砂を入れた鍋を)開けましたが、砂はまだ溜まったままで、ご飯にはなっていませんでした。骨を取ってみましたが、水のままで変わりはありませんでした。とうとう夜になってしまったので、姑たちは米を搗き、ウシを殺しました。ビビダウアラもウシを殺しました。

「お腹いっぱいだわ。ビビダウアラ、あたしは吐きたいよ」と姑が言いました。

「みなさん、ここにお集まりください。私も吐きたいんですよ、お義母さん」

「じゃあ、あんたは川にお行き」

「いえいえ、川には行かないわ。ランバワン〔腰巻などに使う木綿布〕を二枚持って来て、こことあそこに広げてください」

(ビビダウアラは)そっちに金を、あっちに銀を吐きました。

姑も同じことをしようと準備しました。

「何処に吐こうかしら、義母さん！」

ランバワンを持ってきて、一枚をそこに、もう一枚をあっちに広げました。

(姑は)ご飯だけを吐きました、ご飯だけを吐きました。

(それでも姑は)懲りません。

Nitsanga izy ampovoan'ny tanana, didihina kakazo,  
ampirehito môtro kakazo.

Rororororororororo zosoka ravana manjavona jofo  
kakazo. Izy kotsakotsa digerina, kara olona miseky.

Nagano koa rafo-vavy.

“Te hiseky eh!”.

“Ndao mandehana tenan-drano eh!”.

“Ehen, izaho mangala vatan-lehilahy, mangala kakazo fa  
zaho tsangana eto dia hiseky ”.

Ampirehitro motro. Rorororororo, pôpa, pipipipipy,  
pôpôpô, pipipy. Ravana iny maty miaraka amin'ny  
kakazo manjary jofo.

Tsy iny fa olona fialohan'ny olona..

Arira arira, angano angano. Tsy zany mavandy zaho fa  
vandibe nihin'ny olona be taloha.

Ny mpitantara: Amina

それから、ビビダウアラは、姑を殺そうと思いました。  
「ああ、義母さん、私は水浴びしたいわ！ほんと、暑いのに」  
「じゃあ、あんたは川にお行き」  
「いえいえ、私は（川には）行かないわ。木でできた男性の身体をつけるわ。私が、この真ん中に立ったら、私に木をくっつけて火をつけてちょうだい」

（ビビダウアラは）村の真ん中に立ち、薪に火をつけました。  
ボーボーボーボー、木の灰が燃え尽きて暗くなりました。  
彼女は汗がしたたり落ち、まるで水浴びした人のようでした。  
姑も、同じことをしました。

「水浴びしたいわ！」  
「川にお行きなさい」  
「いえいえ、私は木でできた男性の身体をつけて立ち、水浴するわ」

火がつけられました。パチパチ、ポンポン、ボーボーボーボー。木が灰になると共に姑は死んでしまいました。

人間より前の人ではありません。  
昔話は昔話、物語は物語。私がウソをついたのではなく、それは昔々の人です。

語り手：アミナ

## 2. ZAZAVAVINDRANO

Ao misy lehilahy. Olona mijaly, olona tsi'sy vola isikinany, mijaly sahirana.

Dia izy zany mandeha sisin-drano manarato mangalagala filao na inona nandesiny hoaniny. Io foana ataony io foana iny.

Amin'ny farany, andro raiky zany, izy nandeha irery manarato manarato, mañano io, nahazo Zazavavindrano.

Nambarany Zazavavindrano .

“Handeso ao an-tranonao any zaho”, hoy izy.

Nandesiny an-trano. Nandesiny an-trano ratsy hoe, trano na dia tsy bano fa mivelatra kara io foana. Avy eo manjary misy omby izy iny. Isaka halina zany, Zazavavindrano mandeha aminazy. Na indraikindraiky lehilahy nandeha rano masina amin'ny tany nahitananazy . Karaha io foana, zosoka niteraka. Rizareo niteraka roy, manangy raiky, lehilahy raiky.

Kara io foana mahaimanankarena mivoaka izy io.

Olona tanana amin'izany miteny.

“Ha ! Rabe manjary niova bôta eh !”.

“Manjary misy vola eh! Misy omby. Raha jiaby”.

Nivolana taminazy Zazavavindrano.

## 2. 水女

ある所に男がいました。服を買うお金さえなく、貧乏で、とても困っていました。そこで、男は海辺に行き、網をうって魚を獲り、何の魚であれ持って帰って食べていました。そんなことを、繰り返し繰り返し、していました。

ついにある日のこと、男は一人で網をうちに出かけ、水女 [zazwanindano=zaza (子魚) +nary (女性) +nary (小)] を捉まえました。

その水女は、言いました。

「わたしをあなたの家に連れていってくださいな」

男は、水女を家に連れてゆきました。その家は粗末で、古くはないにもかかわらず、隙間が開いていました。それから、ウシも増えるようになりました。毎夜、水女は男の家を訪れました。時には、男が、二人が出会ったその海辺に行きました。そんなことを繰り返すうちに、二人は男の子と女の子を生みました。

次第に財産持ちとなってゆきました。

そこで村の人たちが言いました。

「あれ、やつはどんどん変わって太ってゆくぞ」

「金持ちになったなあ。ウシもいるぞ。あらゆる物があるぞ」

水女は、男に言いました。

「あなた、『何処であんたたちは手に入れたんだい?』『何をあんたたちは手に入れたんだい?』などと人に何を訊かれても、喋ってはいけません!」



“Anao, inona no anontanian’ny olona anao hoe, taiza nahazoanareo, inona nahazoanareo? Aza mivolana”.

“Ia ! ”.

“Aza manambara!”.

“Ia ! ”

Teo nanontany.

“Taiza nahazoanareo ombinareo ? ”

“Ehee!” , tsy nanambara iny. Atolotra hevitra.

Andro raiky, nangalan’ny olona nitetiky, nisotro, nimpodiana handeha toaka. Satria mety nanambara zosoka namo.

“Eo fa izaho nandeha namintana, nahazo Zazavavindrano ”.

“Aaa, zany nanaovana teraka roa Zazavavindrano”.

Ao zany nataony, olona manatona nahazoana teo bodiaka jiaby io.

“Izaho koa mila hain’ny olona hoe ahazoana omby”.

Vita iny, avy Zazavavindrano. Tsy navotra Zazavavindrano. Andrasana ny lehilahy fa tsy avy, farany nandeha tany. Indray Zazavavindarano.

“Anao nanambarana sekorentsika zany. Aza ambaranao sekore, mbola ambaranao foana”, hoy izy.

“Voaozona no ho avy”.

Andrasana an-trano. Avy izy.

Izy avy ary hanatira rananaotra io, hoy izy, “Ary matory tsy tianao”.

“Partenaire Raiano”, hoy izy, ”araiky zanako raiky handesiko. Araikey ambelako”.

「ああ」

「明かしてはいけません」

「ああ」

それから、人が訊いてきました。

「あんたたちは何処でそのウシを手に入れたんだい？」

「さあね」と明かしませんでした。忠告です。

ある日のこと、男が酒を飲みに出るよう誘いにきました。酔っぱらえば、(秘密を)明かすだろうと言うわけです。

「俺は、あそこに網打ちに出かけて、水女を捕まえたのさ。それで、水女が二人子供を産んだというわけさ」

「なるほど。それで、水女が二人子供を産んだというわけか」

こうして人は、軽率な事を全て知ることになりました。

「俺も、ウシを得る知識とやらが欲しいもんだ」

話し終えた時、水女が戻ってきました。水女は会えませんでしたが。待っていた男性が来なかったため、水女はそこまで出かけたのでした。水女が言いました。

「あなたは私の私たちの秘密を明かしてしまいました。秘密を明かさないとやったのに、秘密を明かしてしまいました」と水女は言いました。

「ヴァウズナ〔呪い〕がやってくるわ」

家で待っていると、ヴァウズナがやって来ました。

ヴァウズナが義姉 [=水女] を送りにやって来て、「眠るのは嫌いだらう」と言いました。

「ねえあなた、子供の内、一人は私が連れてゆきます。一人は置いてゆきます」と水女が言いました。

「それから(置いてゆく)一人の子供には」と彼女が言いました、「暖かいものは必要ありません。冷たいものをあげてください」

“Fa raiky teo”, hoy izy, “tsy mila raha mafana fa manitsy”.  
“Handesiko raiky”, teo izy fa . “Anao io eh !”, izy lôso.

Aômby ireny ts’sy hita, izy manjary iny henahena no anton’ny olona be hoe, “misy lango an-ala”. Taranaka lango an-ala avy tany Zanakà Zazavavindrano. Raiky nambelany iny maro anaka. Raiky nandesiny niaraka jibikinazy lasa.

Angano angano, alila alila, tsy zaho navandy fa olona be talôha.

Ny mpitantara: Amina & Françoise

い」

「では、一人を連れて行きます」、「ああ、あなた」と彼女は去って行きました。

ウシも見えなくなり、肉となり、これが昔の人が「森に新米がある」と呼んだ理由です。水女の子供の一族が、「森の新米」の一族なのです。水女が置いていった一人の子供は、たくさんの子供を産みました。水女と一緒に水中に連れて行ってしまった子供は、行ってしまったきりです。

お話はお話し、昔話は昔話。嘘をついたのは私ではなく、昔々の人です。

語り手：アミナ&フランソワーズ

### 3. VADY VAO SY AMALONA

Misy manangy izao. Misy manangy tsy manambady.

Dia vadiny, lehilahy zany nisy vola nipetrapetraka tamin'ny mamany. Ka izy iny nangala vady manangy io. "Arainy vadiny zany, atao fomba ntaolo jiaby, fomba gasy raha jiaby vita".

Farany vita izy iny. Nisy kabaka maty teo hena, teo omby, teo amalona. Faly amin'izao mbola misy vilaninzareo, vilany taloha, vilany vy.

Vita izy iny, nahandron'olona iny. Avy teo ty vady vao ty, nijôkojôko. Tamin'ny pinihinana teo nihinana hely. "Mihinana! ravinanto ! Mihinana ! Izahay tsi'sy henata . Efa voky zaho".

"Een".

Ny olona jiaby niditra . Nandry baka. Izikoa nandry zareo, nijôkojôko , izy nijôkojôko. Nandeha taminy vilaniny nisy amalona teo. Hoaniny, hoaniny. Farany reraka vilany, niivoaka. Vôky tao.

Nisy sary anatin'ny loha tao, loha iny vilaniny. Esoriny, tsy afaka, esoriny, tsy afaka,tsy nitsoaka. Nandeha niditra anatin'ny lay. Raiky vilany milanja satroka.

"Aia ravinantony? Aia ravinanto tsy karakara ? Nandeha nody mamany sa manakory ?", Nanontaianga mamany.

### 3. 新妻とウナギ

女がいました。その女は、結婚していませんでした。

婿となるお金持ちの男は、母親と一緒に暮らしていました。男は、その女を嫁にしました。

「嫁をとる時には、祖先の習慣とマダガスカルを全て果たします」

結婚式が終わった時、肉やら牛肉やらウナギやらのおかずがまだ残っていました。その当時、彼らの鍋は古いけれども鉄鍋でした。

結婚式が終わり、料理が出ました。それから新妻がおずおずと入ってきました。食事の時新妻は少ししか食べませんでした。「食べてくださいな。嫁よ、食べてくださいな。恥ずかしがることはありません。私はもうお腹いっぱいだから」（と姑が言いました）

「ええ」（と新妻が言いました）

人はみな家に入り、寝てしまいました。人が寝てしまうと、新妻がそっと入ってきて、ウナギのおかずの入った鍋に行きました。食べました、食べました。最後に鍋は底をつき、お腹いっぱいになりました。

その鍋は、頭の形をしていました。

取ろうとしますが、取れません、取ろうとしますが、取れません。（仕方なくそのまま）蚊帳の中に入りました。帽子として鍋を乗せたままでした。

「嫁はどこだい？おもてなししていない嫁は。お母さんの所に

“Ehen ! Tsy aty eh! Mbola tsy taty eh ! Tsika jiaby samby tary”.

Andrasana josoka tsofotra, izy nifoha anatin’ny lay. Kely volana teo.

“Mba izahao dady, efa tsaiky misimisy jery”.

“Izahao dady”.

Iziko nandeha efitra trano raiky ary hono. Nizahana vady vao, vady vao io.

“Oh! Raiano! ”.

“Een”.

Any anatin’ny vilany.

“Eo ”.

Izahany.

“Kara naninona anao teo ravinanto? ”.

Esorina fa tsy afaka. Farany nanatona kakazo, nivakiny vilaniny iny. Vaky vilany. Mpangara-mpihinana vady vao. Teo mpihinana nitsengotsengo tsy nihinana. Andro olona manjary reraka, nihinana amby iny, zosoka velatra vilany hitany.

Io antonny fady amin’ny mihinana amalona.

Zany tantara, arira arira. Tsy vandiko fa ny olona be taloha.

Ny mpitantara: Amina & Françoise

でも戻ってしまったのかい？」

嫁の母親にも尋ねました。

「いいえ、(娘は) ここには居ませんし、戻っても来てもいません。私たちみんなそちらに行っていましたから」

日が暮れるのを待って、新妻は蚊帳の中で起きました。小声で言いました。

「ものを知っているおばあさんと呼んでくださいな」

「おばあさんと呼んでくださいな」

新妻を探すため、部屋に行きました。

「お〜い！あんた」

「はい」

鍋の中からです。

「ここよ」

探しました。

「嫁よ、いったいどうしたんだい、あんた？」

(鍋を) 取ろうとしましたが、取れません。最後には木に打ち付けて、鍋を割りました。鍋が割れました。

新妻は盗み食いましたのでした。盗み食いました新妻は、その前、ちょっと手をつけたたで、食べていませんでした。人が疲れて(眠って) いる間、大きな鍋を見つけ、残りものを食べたのでした。

これが、ウナギを食べることの禁忌の理由です。

これは物語、昔話は昔話。私が嘘をついたのではなく、昔々の人です。

語り手：アミナ&フランソワーズ



#### 4. RAKAKABE SY VOAY

Teo zany nisy nisy Rakakabe zany hōmana olona masiaka.

Avy teo zany nandeha zany eo Rakakabe io lôso tateky fa nifanojy voay.

“Alô! Ndao hihinan’oloña”.

“Ma, zaho atôy hangara viavy. Atôy tsy hihinan’ oloña”, hoy izy voay.

“Atôy tsy hihinan’ olona”.

Izy ndraiky rano be mahahorana, nitsaka rano ambany zany, tsy lena zany tranonjareo.

Avy teo nandeha zany nangara Varimbola zany izy.

Avy teo tany zany rizreo.

Zeky teo.

Avy teo, “Eo eh!. Zaho nangara kakazo maty”, hoy Rakakabe zany hōmana olona foaña.

Nandeha zany baka, izany nandeha nangara kakazo maty.

“Tôy eh ! ”.

“Io koa. Izho hangara arô”.

Avy teo, “Wa, voay oh! nanatso Varimbola”.

“Oh ! Rabe naniandro hoaniko”, hoy izy Rakakabe.

Avy teo ngy izy.

“Ndreky handeha”, hoy izy.

#### 4. ラカカベとワニ

昔、ラカカベ〔Rakakabe = Ra- (人名を作る接頭) + kaka (動物) + be (大きな)〕がいました。ラカカベは人を食べちゃうほど、とても獐猛です。

ラカカベが出かけました。ラカカベは出かけて間もなく、ワニと出会いました。

「お〜い！人間を食べちゃおうぜ」

「え〜！俺は人間の女を娶りたいんだ。ここでは人間を食べないよ」とワニが言いました。

「ここでは、人間を食べないよ」

ラカカベとワニは、雨でできた大きな流れを渡りましたが、水は浅かったため、身体は濡れませんでした。

それから、ワニとラカカベは、ヴァリンプーラ〔vayn = (コメ) + valn = (金)〕を迎えに出かけました。

それから、二人はそこに行きました。

そこに着きました。

それから、「じゃあ、俺がそこに薪を取りに行こう」と人間を食べるラカカベが言いました。

出かけ、薪を取りに行きました。

「これだけだ」

「それだけか。俺があっちに取りに行こう」

それから、「お〜い、ワニよ！ヴァリンプーラを呼んでくれ」

「やあ！適当な時にやつを食べちゃおう」とラカカベが言いました。

“Ento zaho eh! Vorona !”.

Avy teo tsy nizaha natao hōmana tsakotsako na isanandro.

“Ento zaho eh! Ento zaho eh!”, dia nahita goaka zany izy.

“Ento zany”.

Avty teo jeky tany.

”Wa, mama, tsangana an-tahon’trano”.

Nitsanga be teo.

“Wa, papango, tsangana, mantera akao an-tranoko”.

Nantotry tao.

Tateteky zany, avy teo ninenana zany.

Azeky teo.

Avy teo dia nampinigahina rano zany lahy avy teo lôsô rizarao ny vorona.

“Avy taiza natao tsaboraha zany nandisabe?”.

Olona zany nandisa, dadihely mbola tsy mety nandisa.

Olona zany nahofa, izy mbola mariny disa. Olona zany efa, nihinazy mbola vao efa . Olona zany nahandro, olona mbola mariny hahandro, izy mbola vao hanhandro. Mbola vao efa. Olona ritra hahandro, nihinazy mbola votritry môtro. Olona hihinana, izy mbola ho ritra. Avy teo nasaka nihinazy dia nihinana zany. Vôky, avy teo nandeha zany lôsô. Tateteky hoanohoano be hoanohoano.

Avy teo voay baka avy tany.

“Ma! Tsy akeo eh! Nizaha baka tananan’ nininy”.

Avy Rakakabe nifanojy zany.

“Alô! Ndao hoaniny”.

それから、彼は黙ってしまいました。

「また出かけるよ」と彼が言いました。

「鳥さん、私を連れていっておくれ」

それから、毎日食べているトウモロコシを探しませんでした。  
た。

「私を連れていっておくれ！私を連れていっておくれ！」、そして彼はカラスを見つけました。

「連れていっておくれ」

それから、そこを飛び立ちました。

「あんた、屋根にとまっておくれ」

そこにとまりました。

「トンビ（カラスの言い間違い？）よ、私の家にとまり、座っててください」

そこに座りました。

ほどなくして、口を開きました。

そこに降りました。

水を飲ますと、鳥は帰ってゆきました。

「どこで、お祝いのための共同の米搗きをやってきたんだい？」

人びとは米搗きをしていましたが、おばあさんは米搗きを終わっていませんでした。人びとが準備にいそしんでいる時、おばあさんはまだ米搗きもしていませんでした。人びとが料理を終えた時、おばあさんは料理をはじめたところでした。人びとのご飯が炊きあがった時、おばあさんはまだ火をおこしていました。人びとが食べている時、おばあさんはやっどご飯が炊きあがりました。それから、料理ができあがり、食べました。お腹いっぱいになると人びとは行ってしまいました。それからしばらくして、（おばさんも）食べました、食べました。

Avy teo nahita Rakakabe avy teo hoanihoany olona jiaby zany. Hoaniny Rakakabe zany rizareo voay mbola tsy be teo olona.

Avy teo, voky baka nandoa zany rizareo, impiry nandoa olona hoaniny.

Ho tampitra.

Ny mpitantara: Elliane

その後でワニがやって来ました。

「あれ！俺は母の村に行ってきたんだ」

ラカカベもやって来て二人が会いました。

「おい、食べちゃおうぜ！」

それから、ラカカベは見つけ次第人びとを一人残らず食べてしまいました。ラカカベとワニはそこに居なかった人びとをも食べてしまいました。

それから、二人はお腹いっぱいになり吐きました。何回も食べてしまった人びとを吐きました。

おしまい。

語り手：エリアンヌ

---

---

# ANGANO MALAGASY

Vezo sy Tandroy sy Masikoro sy Betsimisaraka ary  
Tsimihety

## マダガスカルの話 II

ヴェズ・タンドゥルイ・マシクル・ベツィミサラカ・  
ツィミヘティ

---

2016(平成 28)年 3 月 31 日第 1 版発行

2018(平成 30)年 1 月 10 日第 2 版(電子版)発行

編訳者 飯田 卓  
西本 希呼  
ラザフィアリヴニ・ミシエル  
深澤 秀夫

発行 東京外国語大学



アジア・アフリカ言語文化研究所  
〒 183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1  
TEL. 042-330-5600

<https://publication.aa-ken.jp/>

---

---

© 2018 Taku IIDA, Noa NISHIMOTO, Michel

RAZAFIARIVONY & Hideo FUKAZAWA

ISBN 987-4-86337-271-9

この作品は PDF フォーマットによる電子出版物として刊行されました。この作品はクリエイティブ・コモンズ表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。



<http://creativecommons.org/licenses/by/4.0/>